
第3章 第1号・要支援認定者調査

章目次

第3章 第1号・要支援認定者調査

1	回答者の属性	67
	性別	67
	圏域	67
	調査票記入者	68
	F1 要支援認定	68
2	あなたご自身、家族や暮らしについて	69
	問1 年齢（令和元年10月1日現在）	69
	問2 家族構成	70
	問3 同居の方は全員が65歳以上か	70
	問4 暮らしの経済的状況	71
3	お住まいについて	72
	問5 住まいの形態	72
	問6 現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか	73
	問7 住まいについて不便や不安を感じていること	74
4	日常生活について	76
	問8～問14 からだを動かすことについて	76
	問13 外出について	80
	問15～問18 食べることについて	82
	問19 現在の生活で不安を感じていること	86
	問20 現在車の運転をしているか	88
	問20-1 【運転している方】運転している主な理由	90
	問20-2 【「免許は持っているが運転していない」と回答した方】 免許を返納しない主な理由	91
	問21 物忘れについて	92
	問22～問26 手段的ADL（IADL）について	94
	問27 働き方の希望	98
	問27_1 【「仕事はしたいができない」と回答した方】仕事はしたいができない理由	99
5	介護等について	100
	問28 普段の生活で介護・介助が必要か	100
	問29 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために 必要なこと	101
	問30 介護が必要になった場合に希望する暮らし方	103
	問31 終末期を迎える場所の希望	104
	問32 家族、又は身近な方の介護をしているか	105

問 32-1	【現在、介護をしている方】今介護している人以外に他の人の介護や子育て等をしているか.....	106
問 32-2	【他の人の介護や子育て等をしている方】介護される人及び子ども等全員とその人数.....	107
問 33	高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと.....	109
	高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと「その他」自由記述.....	112
問 34	高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度.....	114
6	認知症について.....	116
問 35	認知症について知っていること.....	116
問 36	認知症相談で利用すると思われる相談窓口.....	118
問 37	認知症に関する区の事業の認知度.....	120
問 38	認知症についての情報収集の方法.....	123
問 39	認知症の本人や家族への必要と感じる支援.....	125
7	健康・介護予防について.....	127
問 40	現在の健康状態.....	127
問 41	現在の幸福感.....	128
問 42・問 43	うつ傾向について.....	129
問 44	喫煙状況.....	131
問 45	健康の維持・増進や介護予防のための取り組みの有無.....	132
問 46	【健康維持・増進に取り組んでいない方】取り組んでいない主な理由.....	134
問 47	健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいこと.....	137
8	医療について.....	140
問 48	現在治療中、または後遺症のある病気.....	140
問 49	かかりつけ医・歯科医・薬局の有無.....	142
問 50	病気やけが等で医師や歯科医師に自宅で受けた訪問診療（往診）科目（過去1年間）.....	143
問 51	在宅医療認知の経緯.....	145
9	地域活動について.....	146
問 52	会・グループ等への参加.....	146
問 53	地域づくりを進める活動に参加者として参加したいか.....	149
問 54	地域づくりを進める活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか.....	150
10	たすけあいについて.....	151
問 55	心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人.....	151
問 56	心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人.....	153
問 57	病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人.....	155
問 58	看病や世話をしてあげる人.....	157

1 回答者の属性

性別

性別は、「男性」43.5%、「女性」56.5%と、女性の割合が高くなっています。

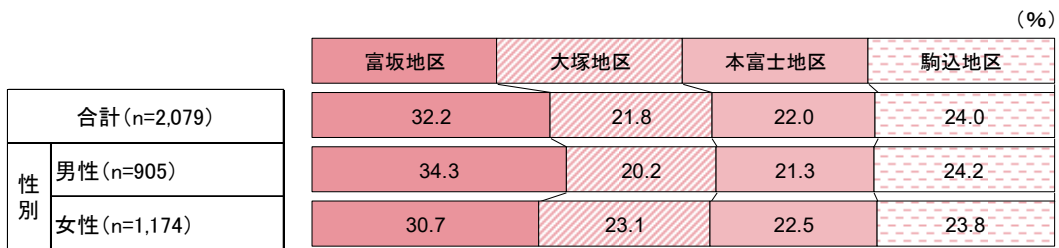
図 3.1 性別



圏域

圏域は、富坂地区が 32.2%、大塚地区が 21.8%、本富士地区が 22.0%、駒込地区が 24.0% となっています。

図 3.2 圏域/性別



調査票記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人」が92.3%、「ご家族」が5.3%、「その他」が0.2%となっています。年齢別にみると、89歳以下では「あて名のご本人」が約9割となっています。

図 3.3 調査票記入者/性別/年齢別

単位：%

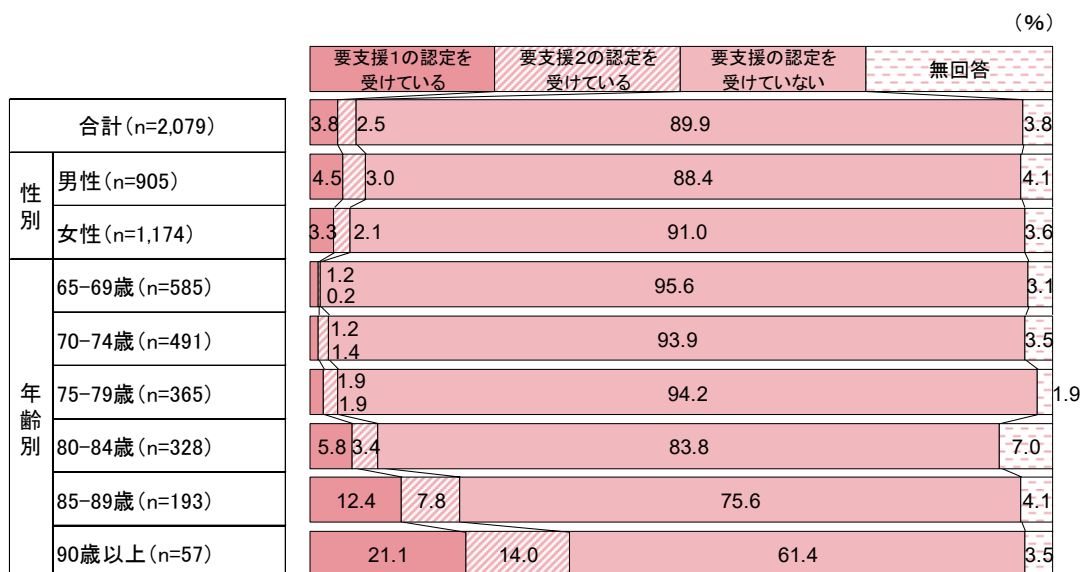
項目		回答者数(人)	あて名のご本人が記入	ご家族が記入	その他	無回答
全体		2,079	92.3	5.3	0.2	2.2
性別	男性	905	89.3	7.7	0.3	2.7
	女性	1,174	94.6	3.5	0.1	1.8
年齢別	65-69歳	585	94.0	4.4	0.0	1.5
	70-74歳	491	94.3	3.9	0.0	1.8
	75-79歳	365	93.4	5.5	0.3	0.8
	80-84歳	328	90.5	4.0	0.3	5.2
	85-89歳	193	87.0	11.4	1.0	0.5
	90歳以上	57	80.7	14.0	0.0	5.3

※ その他【抜粋】 義妹、同居人

F 1 要支援認定

要支援認定は、「要支援1」が3.8%、「要支援2」が2.5%、「認定を受けていない」が89.9%となっています。年齢別にみると、「85～89歳」では「要支援1」が12.4%、「要支援2」が7.8%となっており、どちらも「80～84歳」の2倍以上となっています。

図 3.4 要支援認定/性別/年齢別



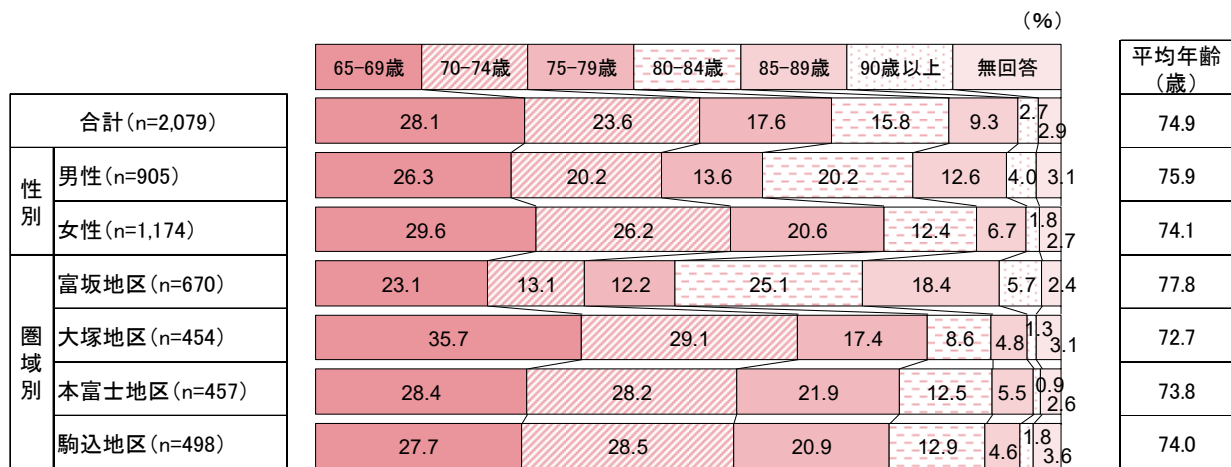
2 あなたご自身、家族や暮らしについて

問1 年齢（令和元年10月1日現在）

年齢は、「60～69歳」が28.1%、「70～74歳」が23.6%、「75～79歳」が17.6%、「80～84歳」が15.8%、「85～89歳」が9.3%、「90歳以上」が2.7%となっており、平均年齢は74.9歳です。

性別では、男性に比べ女性は前期高齢者（74歳以下）の割合が高く、55.8%となっています。圏域別にみると、前期高齢者（74歳以下）は、富坂地区では36.2%、大塚地区では64.8%、本富士地区では56.6%、駒込地区では56.2%となっています。富坂地区では、後期高齢者（75歳以上）が61.4%となっています。

図 3.5 年齢/性別/圏域別

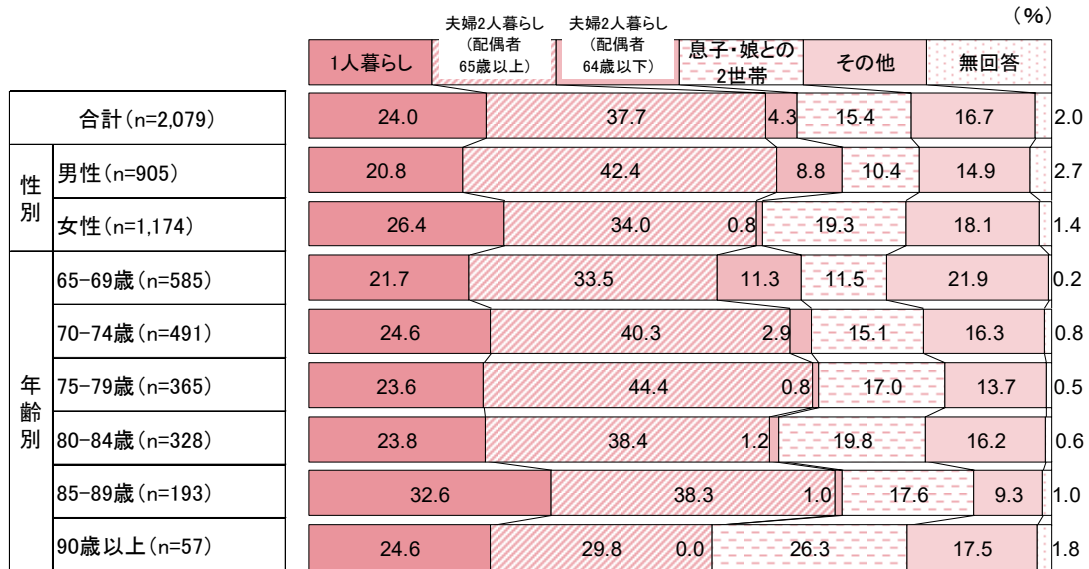


問2 家族構成

家族構成は、「1人暮らし」が24.0%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が37.7%、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が4.3%、「息子・娘との2世帯」が15.4%、「その他」が16.7%となっています。

年齢別にみると、「85～89歳」で「1人暮らし」が32.6%と高くなっています。

図 3.6 家族構成/性別/年齢別

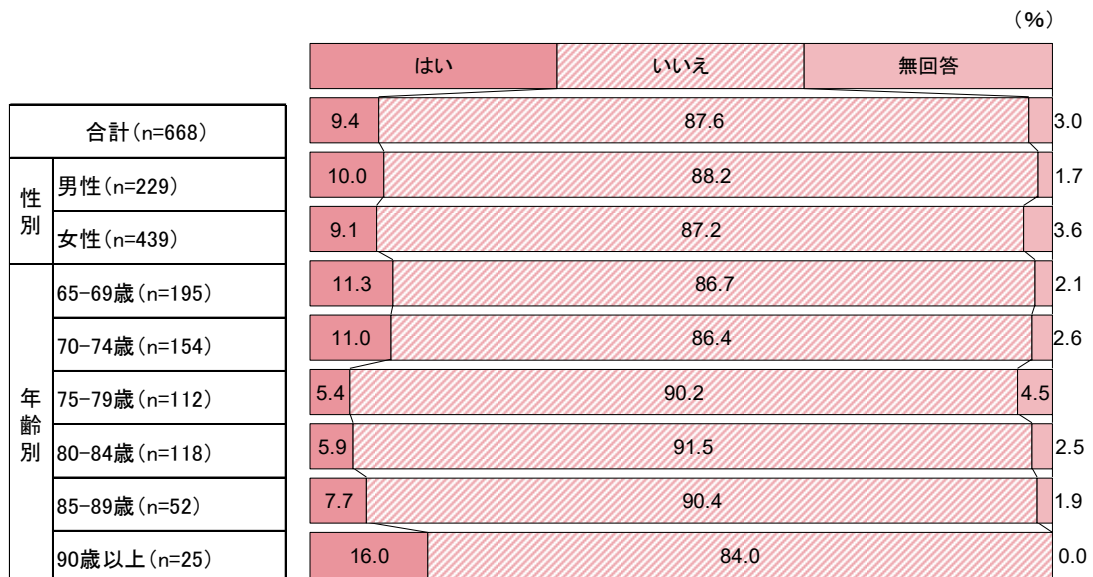


※ その他【抜粋】 夫婦と息子、姉、夫婦と義母、知人

問3 同居の方は全員が65歳以上か

家族構成が「息子・娘との2世帯」または「その他」で、同居者が「全員65歳以上」なのは9.4%となっています。年齢別にみると、「65～69歳」、「70～74歳」、「90歳以上」で「はい」が1割を超えていますが、これらに比べ「75～89歳」は「はい」1割未満で大きく異なります。

図 3.7 同居者全員が65歳以上か/性別/年齢別



問4 暮らしの経済的状況

暮らしの経済的な状況について、「大変苦しい」が5.4%、「やや苦しい」が19.4%、合わせて24.8%となっています。「ふつう」は52.6%、「ややゆとりがある」が16.6%、「大変ゆとりがある」が2.6%で、これらを合わせ経済的な困窮を感じていない人が71.8%となっています。

家族構成別にみると、「1人暮らし」で「大変苦しい」が10.0%、「やや苦しい」が25.1%と高くなっています。

図 3.8 暮らしの経済的状況/性別/年齢別/家族構成別

		(%)					
		大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
合計(n=2,079)		5.4	19.4	52.6	16.6	2.6	3.3
性別	男性(n=905)	6.2	21.2	50.6	15.5	2.9	3.6
	女性(n=1,174)	4.9	18.1	54.1	17.5	2.4	3.1
年齢別	65-69歳(n=585)	4.8	19.1	52.0	19.7	3.1	1.4
	70-74歳(n=491)	5.5	20.4	52.3	17.3	1.8	2.6
	75-79歳(n=365)	5.5	20.5	50.7	17.5	3.3	2.5
	80-84歳(n=328)	5.8	20.1	57.9	11.9	2.4	1.8
	85-89歳(n=193)	6.2	19.7	52.8	16.1	3.1	2.1
	90歳以上(n=57)	1.8	15.8	61.4	17.5	1.8	1.8
家族構成別	1人暮らし(n=498)	10.0	25.1	48.4	12.0	1.8	2.6
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=783)	3.7	17.9	52.2	20.4	2.9	2.8
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=89)	4.5	18.0	47.2	24.7	5.6	0.0
	息子・娘との2世帯(n=320)	4.1	15.9	59.4	16.6	2.5	1.6
	その他(n=348)	4.9	19.8	58.3	14.4	2.3	0.3

※ 「家族構成」は、「問2 家族構成」の回答結果です。

3 お住まいについて

問5 住まいの形態

住居形態は、「持家（一戸建て）」が42.6%、「持家（集合住宅）」が35.5%となっており、「持家（一戸建て）」と「持家（集合住宅）」を合わせた持ち家率は78.1%となっています。

性別では、持ち家率は男性が72.7%に対して、女性は82.3%と女性の方が高くなっています。

圏域別にみると、大塚地区で「持家（一戸建て）」が30.8%と低くなっています。

図 3.9 住居形態/性別/年齢別/圏域別

単位：%

項目		回答者数 (人)	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答
全体		2,079	42.6	35.5	2.4	0.7	12.9	1.7	2.0	2.2
性別	男性	905	38.1	34.6	2.8	1.0	16.8	2.1	2.1	2.5
	女性	1,174	46.0	36.3	2.0	0.5	10.0	1.4	1.9	2.0
年齢別	65-69歳	585	40.5	39.3	1.4	0.5	14.0	1.4	2.4	0.5
	70-74歳	491	42.0	35.4	1.2	1.2	15.1	2.0	2.2	0.8
	75-79歳	365	41.9	35.6	3.8	1.1	12.3	2.2	1.4	1.6
	80-84歳	328	50.6	32.6	3.4	0.0	10.1	1.5	0.9	0.9
	85-89歳	193	40.9	38.3	4.7	1.0	10.4	2.1	2.1	0.5
	90歳以上	57	49.1	29.8	1.8	0.0	14.0	0.0	3.5	1.8
圏域別	富坂地区	670	47.8	33.1	1.8	0.6	11.0	2.1	2.5	1.0
	大塚地区	454	30.8	44.1	1.3	0.9	15.6	1.8	2.0	3.5
	本富士地区	457	38.1	43.3	2.0	0.2	10.7	1.3	2.0	2.4
	駒込地区	498	50.4	23.9	4.4	1.2	15.1	1.4	1.2	2.4

問6 現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか

現在の住まいは、今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられるかについては、「はい」の割合は55.7%となっています。住居形態別にみると、「はい」の割合は、「持家(集合住宅)」で68.2%と高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」で24.9%と低くなっています。

図 3.10 今後介護が必要な状態になった場合に住み続けられる住まいか /性別/年齢別/圏域別/住居形態別/健康感別/家族構成別

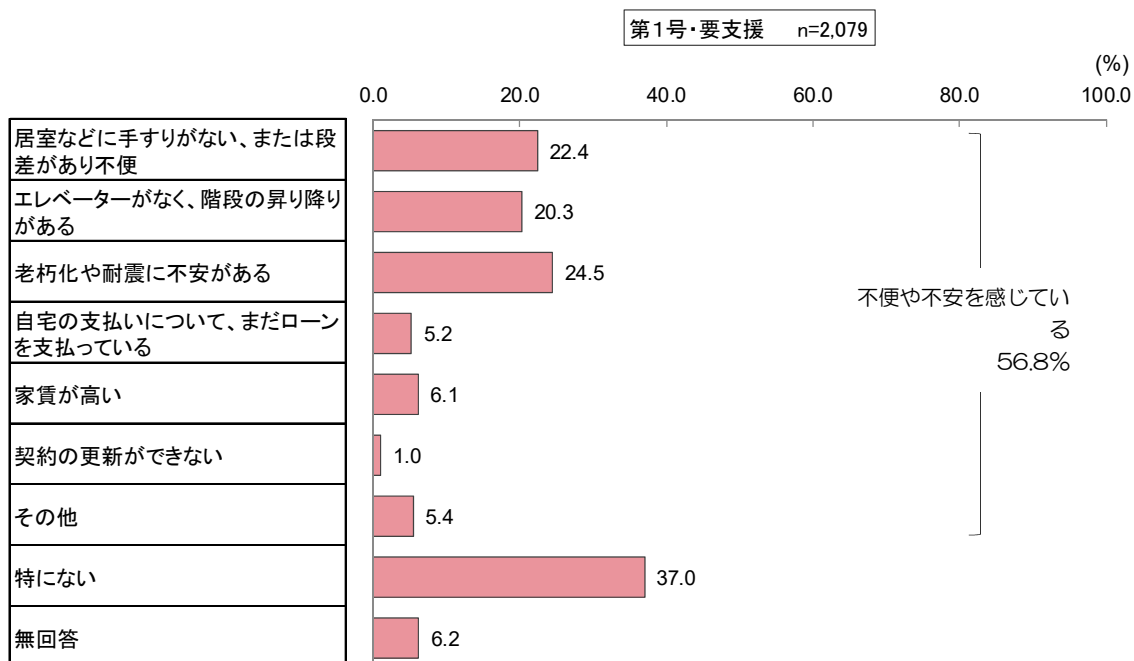
		(%)		
		はい	いいえ	無回答
合計(n=2,079)		55.7	34.5	9.8
性別	男性(n=905)	54.7	35.9	9.4
	女性(n=1,174)	56.6	33.4	10.1
年齢別	65-69歳(n=585)	51.6	42.4	6.0
	70-74歳(n=491)	55.2	36.7	8.1
	75-79歳(n=365)	58.6	32.1	9.3
	80-84歳(n=328)	58.8	27.4	13.7
	85-89歳(n=193)	59.1	25.9	15.0
	90歳以上(n=57)	59.6	22.8	17.5
圏域別	富坂地区(n=670)	58.5	30.1	11.3
	大塚地区(n=454)	57.7	32.8	9.5
	本富士地区(n=457)	55.8	35.7	8.5
	駒込地区(n=498)	50.2	40.8	9.0
住居形態別	持家(一戸建て)(n=885)	56.8	33.1	10.1
	持家(集合住宅)(n=739)	68.2	22.5	9.3
	公営賃貸住宅(n=49)	59.2	28.6	12.2
	民間賃貸住宅(一戸建て)(n=15)	40.0	46.7	13.3
	民間賃貸住宅(集合住宅)(n=269)	24.9	66.2	8.9
	借家(n=35)	25.7	65.7	8.6
その他(n=41)	41.5	53.7	4.9	
健康感別	とてもよい(n=261)	63.2	27.6	9.2
	まあよい(n=1,420)	56.8	34.0	9.2
	あまりよくない(n=268)	49.3	41.0	9.7
	よくない(n=34)	44.1	41.2	14.7
家族構成別	1人暮らし(n=498)	45.6	43.6	10.8
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=783)	59.3	31.0	9.7
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=89)	67.4	29.2	3.4
	息子・娘との2世帯(n=320)	61.9	28.4	9.7
	その他(n=348)	55.2	35.6	9.2

※ 「住居形態」は「問7 現在の住まい」、「健康感」は「問40 現在の健康状態」の回答結果です。

問7 住まいについて不便や不安を感じていること

住まいについて不便や不安を感じていることがある割合は56.8%で、「老朽化や耐震に不安がある」が24.5%で最も高く、次いで「居室などに手すりがない、または段差があり不便」が22.4%、「エレベーターがなく、階段の昇り降りがある」が20.3%となっています。

図 3.11 住まいについて不便や不安を感じていること（いくつでも可）



- ※ その他【抜粋】 車椅子が入れない、家屋のメンテナンスまたその相談先、マンションの管理費及び修繕積立金が高い、狭い、固定資産税が高い
- ※ 「不便や不安を感じている」=100%－「特にない」－「無回答」

住居形態別にみると、「持家（一戸建て）」では「エレベーターがなく、階段の昇り降りがある」が32.7%、「持家（集合住宅）」では「居室などに手すりがない、または段差があり不便」が24.5%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」では「家賃が高い」が38.7%となっています。

図 3.12 住まいについて不便や不安を感じていること（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/住居形態別/健康感別/家族構成別

単位：%

項目		回答者数（人）	居室などに手すりがない、または段差があり不便	エレベーターがなく、階段の昇り降りがある	老朽化や耐震に不安がある	自らの支払いについて、まだローンを支払っている	家賃が高い	契約の更新ができない	その他	特になし	無回答
全体		2,079	22.4	20.3	24.5	5.2	6.1	1.0	5.4	37.0	6.2
性別	男性	905	20.2	19.6	22.5	5.7	8.0	1.0	4.5	39.6	6.0
	女性	1,174	24.1	21.0	26.1	4.9	4.7	0.9	6.0	35.0	6.4
年齢別	65-69歳	585	24.3	20.7	28.5	8.7	5.8	1.2	5.8	34.5	3.8
	70-74歳	491	22.8	20.8	23.0	4.3	7.7	0.8	5.3	34.0	7.1
	75-79歳	365	24.9	21.9	24.1	3.8	7.1	1.1	6.0	36.2	6.0
	80-84歳	328	16.8	22.0	22.0	2.7	4.3	0.6	4.0	40.9	8.2
	85-89歳	193	20.7	13.0	23.8	3.6	5.2	1.6	5.2	45.1	5.2
	90歳以上	57	21.1	17.5	24.6	5.3	1.8	0.0	5.3	36.8	12.3
圏域別	富坂地区	670	18.8	16.9	22.8	5.1	5.7	0.7	4.6	41.8	6.6
	大塚地区	454	22.9	15.6	19.8	4.8	7.7	0.4	7.3	40.5	6.6
	本富士地区	457	26.0	22.3	28.0	4.4	4.6	0.4	5.0	33.3	6.3
	駒込地区	498	23.5	27.5	27.9	6.6	6.6	2.2	5.0	30.7	5.2
住居形態別	持家（一戸建て）	885	22.8	32.7	28.6	6.3	0.1	0.3	4.5	33.7	5.3
	持家（集合住宅）	739	24.5	6.5	20.7	6.6	0.3	0.1	6.1	45.6	6.2
	公営賃貸住宅	49	10.2	22.4	18.4	0.0	10.2	0.0	6.1	40.8	14.3
	民間賃貸住宅（一戸建て）	15	20.0	26.7	46.7	0.0	26.7	6.7	0.0	13.3	20.0
	民間賃貸住宅（集合住宅）	269	16.4	17.5	23.0	0.4	38.7	5.6	5.6	25.3	4.8
	借家	35	22.9	20.0	17.1	0.0	25.7	0.0	2.9	40.0	0.0
	その他	41	29.3	17.1	24.4	2.4	0.0	0.0	9.8	34.1	12.2
健康感別	とてもよい	261	14.6	16.5	14.9	6.9	5.4	0.4	3.4	49.4	5.0
	まあよい	1,420	22.5	21.1	24.5	5.1	6.3	0.9	5.2	37.2	5.7
	あまりよくない	268	29.9	23.1	34.3	5.6	6.0	2.2	7.8	27.2	4.9
	よくない	34	29.4	20.6	35.3	2.9	2.9	0.0	8.8	17.6	11.8
家族構成別	1人暮らし	498	17.9	13.7	26.3	2.8	11.2	1.4	4.8	37.6	6.0
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	783	24.8	23.5	22.5	4.2	4.0	1.1	4.5	36.1	7.7
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	89	20.2	16.9	20.2	12.4	4.5	0.0	4.5	44.9	2.2
	息子・娘との2世帯	320	22.2	20.0	21.9	5.0	4.7	0.3	6.3	40.9	5.6
	その他	348	24.4	23.9	30.5	9.5	5.5	0.9	6.9	31.6	4.3

4 日常生活について

問8～問14 からだを動かすことについて

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「運動器の機能低下」に該当する高齢者の割合を算出しました。

次の5問中、3問以上該当した場合、「運動器の機能低下」に該当します。

- ・問8 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか → 「できない」
- ・問9 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか → 「できない」
- ・問10 15分位続けて歩いているか → 「できない」
- ・問11 過去1年間に転んだ経験があるか → 「何度もある」または「1度ある」
- ・問12 転倒に対する不安 → 「とても不安である」または「やや不安である」

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「転倒リスクあり」に該当する高齢者の割合を算出しました。

次の設問で該当した場合、「転倒リスクあり」に該当します。

- ・問11 過去1年間に転んだ経験があるか → 「何度もある」または「1度ある」

各設問の結果は次のとおりです。

図 3.13 （問8）階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか/認定別

単位：%

項目		回答者数（人）	できるし、している	できないけれどもして いない	できない	無回答
全体		2,079	64.2	20.5	13.3	2.1
認定別	要支援非認定者	1,868	67.3	21.0	10.1	1.6
	要支援1・2認定者	132	25.8	17.4	53.8	3.0

図 3.14 （問9）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか/認定別

単位：%

項目		回答者数（人）	できるし、している	できないけれどもして いない	できない	無回答
全体		2,079	80.0	10.6	7.8	1.5
認定別	要支援非認定者	1,868	82.8	10.6	5.5	1.1
	要支援1・2認定者	132	47.7	12.9	36.4	3.0

図 3.15 (問 10) 15 分位続けて歩いているか/認定別

単位:%

項 目		回答者数 (人)	できるし、している	できるけれどして いない	できない	無回答
全 体		2,079	88.1	6.8	4.2	1.0
認定別	要支援非認定者	1,868	89.9	6.9	2.3	0.9
	要支援1・2認定者	132	64.4	6.8	28.0	0.8

図 3.16 (問 11) 過去 1 年間に転んだ経験があるか/認定別

単位:%

項 目		回答者数 (人)	何度もある	1 度ある	ない	無回答
全 体		2,079	6.5	21.3	71.2	1.1
認定別	要支援非認定者	1,868	5.3	20.2	73.6	0.9
	要支援1・2認定者	132	22.0	34.1	43.9	0.0

図 3.17 (問 12) 転倒に対する不安/認定別

単位:%

項 目		回答者数 (人)	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
全 体		2,079	10.8	36.5	31.9	19.6	1.3
認定別	要支援非認定者	1,868	8.8	35.8	33.6	20.7	1.2
	要支援1・2認定者	132	37.9	43.9	12.1	6.1	0.0

問8から問12までの回答より、運動器の機能低下については、「低下あり」が9.5%、「低下なし」が86.7%となっています。

図 3.18 運動器の機能低下

合計(n=2,079)	運動器の機能低下		
	運動器の機能低下あり	運動器の機能低下なし	判別不能
	9.5	86.7	3.8

運動器の機能低下について、要支援非認定者は、「低下あり」が6.7%、「低下なし」が90.1%となっています。また、年齢が上がるにつれて、「低下あり」の割合が高くなる傾向があります。圏域別にみると、富坂地区と本富士地区で「低下あり」が7%を上回っています。要支援1・2認定者は、「低下あり」が46.2%、「低下なし」が50.0%となっています。

図 3.19 運動器の機能低下/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援1・2認定者

単位:%

項目		回答者数(人)	運動器の機能低下あり	運動器の機能低下なし	判別不能
全体		1,868	6.7	90.1	3.2
性別	男性	800	6.1	90.9	3.0
	女性	1,068	7.1	89.6	3.3
年齢別	65-69歳	559	3.2	95.9	0.9
	70-74歳	461	4.3	93.5	2.2
	75-79歳	344	9.9	86.3	3.8
	80-84歳	275	9.5	83.6	6.9
	85-89歳	146	11.6	84.9	3.4
	90歳以上	35	17.1	65.7	17.1
圏域別	富坂地区	577	7.5	88.6	4.0
	大塚地区	421	5.5	92.6	1.9
	本富士地区	419	7.4	90.0	2.6
	駒込地区	451	6.2	90.0	3.8

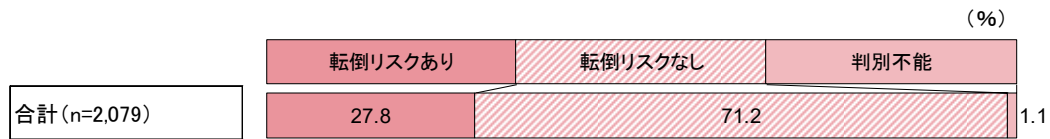
項目		回答者数(人)	運動器の機能低下あり	運動器の機能低下なし	判別不能
全体		132	46.2	50.0	3.8
性別	男性	68	47.1	50.0	2.9
	女性	64	45.3	50.0	4.7
年齢別	65-69歳	8	37.5	37.5	25.0
	70-74歳	13	30.8	69.2	0.0
	75-79歳	14	35.7	64.3	0.0
	80-84歳	30	56.7	43.3	0.0
	85-89歳	39	48.7	43.6	7.7
	90歳以上	20	50.0	50.0	0.0
圏域別	富坂地区	64	50.0	46.9	3.1
	大塚地区	17	29.4	64.7	5.9
	本富士地区	20	25.0	70.0	5.0
	駒込地区	31	61.3	35.5	3.2

※「要支援非認定者」1,868人と「要支援認定者」132人との和は2,000人で、全体2,079人との差の79人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援1・2」は132人で、「要支援非認定者」の1,868人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 11 の回答結果より、転倒リスクについては、「リスクあり」が27.8%、「リスクなし」が71.2%となっています。

図 3.20 転倒リスク



転倒リスクについて、要支援非認定者は「リスクあり」が25.5%、「リスクなし」が73.6%となっています。性別では、女性は「リスクあり」が26.8%と、男性を3ポイントほど上回っています。また、年齢が上がるにつれて「リスクあり」の割合が高くなる傾向があります。圏域別にみると、大塚地区は「転倒リスクあり」が27.3%と、他の圏域より若干高くなっています。要支援1・2認定者は、「あり」が56.1%、「なし」が43.9%となっています。

図 3.21 転倒リスク/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援1・2認定者

単位:%

項目		回答者数 (人)	転倒リスクあり	転倒リスクなし	判別不能
全体		1,868	25.5	73.6	0.9
性別	男性	800	23.9	75.1	1.0
	女性	1,068	26.8	72.4	0.8
年齢別	65-69歳	559	22.7	77.3	0.0
	70-74歳	461	23.4	75.5	1.1
	75-79歳	344	28.5	71.2	0.3
	80-84歳	275	26.9	70.9	2.2
	85-89歳	146	30.1	69.2	0.7
	90歳以上	35	42.9	45.7	11.4
圏域別	富坂地区	577	25.3	73.3	1.4
	大塚地区	421	27.3	71.7	1.0
	本富士地区	419	25.5	74.0	0.5
	駒込地区	451	24.2	75.2	0.7

項目		回答者数 (人)	転倒リスクあり	転倒リスクなし	判別不能
全体		132	56.1	43.9	0.0
性別	男性	68	61.8	38.2	0.0
	女性	64	50.0	50.0	0.0
年齢別	65-69歳	8	75.0	25.0	0.0
	70-74歳	13	46.2	53.8	0.0
	75-79歳	14	50.0	50.0	0.0
	80-84歳	30	63.3	36.7	0.0
	85-89歳	39	56.4	43.6	0.0
	90歳以上	20	55.0	45.0	0.0
圏域別	富坂地区	64	62.5	37.5	0.0
	大塚地区	17	41.2	58.8	0.0
	本富士地区	20	50.0	50.0	0.0
	駒込地区	31	54.8	45.2	0.0

※「要支援非認定者」1,868人と「要支援認定者」132人との和は2,000人で、全体2,079人との差の79人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援1・2」は132人で、「要支援非認定者」の1,868人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問13 外出について

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「閉じこもり傾向」に該当する高齢者の割合を算出しました。

次の設問で該当した場合、「閉じこもり傾向」に該当します。

・問13 週に1回以上は外出しているか → 「ほとんど外出しない」または「週1回」

※「問14 昨年と比べて外出の回数が減っているか」は「閉じこもり傾向」の判定には使われていません。

各設問の結果は次のとおりです。

図 3.22 (問13) 週に1回以上は外出しているか/認定別

単位: %

項目		回答者数(人)	ほとんど外出しない	週1回	週2〜4回	週5回以上	無回答
全体		2,079	2.3	6.3	37.8	52.5	1.1
認定別	要支援非認定者	1,868	1.7	5.8	36.7	55.2	0.7
	要支援1・2認定者	132	10.6	14.4	52.3	21.2	1.5

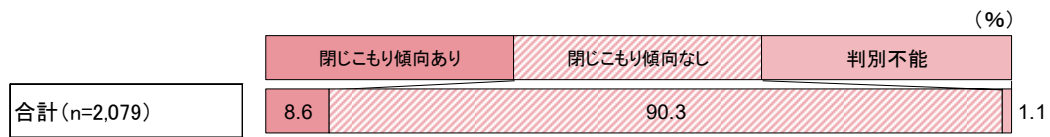
図 3.23 (問14) 昨年と比べて外出の回数が減っているか/認定別

単位: %

項目		回答者数(人)	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
全体		2,079	2.2	20.0	32.1	44.3	1.3
認定別	要支援非認定者	1,868	1.3	17.9	32.9	46.7	1.1
	要支援1・2認定者	132	13.6	42.4	23.5	19.7	0.8

問 13 の回答結果より、閉じこもり傾向については、「あり」が 8.6%、「なし」が 90.3% となっています。

図 3.24 閉じこもり傾向



閉じこもり傾向について、要支援非認定者は「傾向あり」が 7.4% となっています。性別では、男性は「傾向あり」が 9.3% と、女性を 3 ポイントほど上回っています。また、年齢が上がるにつれて「閉じこもり傾向あり」の割合が高くなっています。
要支援 1・2 認定者は「あり」が 25.0% となっています。

図 3.25 閉じこもり傾向/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援 1・2 認定者

単位: %

項目		回答者数 (人)	閉じこもり傾向あり	閉じこもり傾向なし	判別不能
全体		1,868	7.4	91.9	0.7
性別	男性	800	9.3	89.9	0.9
	女性	1,068	6.1	93.4	0.6
年齢別	65-69 歳	559	5.7	94.3	0.0
	70-74 歳	461	6.3	92.8	0.9
	75-79 歳	344	7.3	92.4	0.3
	80-84 歳	275	9.5	89.8	0.7
	85-89 歳	146	13.0	86.3	0.7
	90 歳以上	35	22.9	68.6	8.6
圏域別	富坂地区	577	8.0	91.0	1.0
	大塚地区	421	7.4	92.2	0.5
	本富士地区	419	7.2	92.4	0.5
	駒込地区	451	7.1	92.2	0.7

項目		回答者数 (人)	閉じこもり傾向あり	閉じこもり傾向なし	判別不能
全体		132	25.0	73.5	1.5
性別	男性	68	25.0	75.0	0.0
	女性	64	25.0	71.9	3.1
年齢別	65-69 歳	8	12.5	87.5	0.0
	70-74 歳	13	23.1	76.9	0.0
	75-79 歳	14	21.4	78.6	0.0
	80-84 歳	30	20.0	76.7	3.3
	85-89 歳	39	30.8	66.7	2.6
	90 歳以上	20	40.0	60.0	0.0
圏域別	富坂地区	64	35.9	64.1	0.0
	大塚地区	17	11.8	82.4	5.9
	本富士地区	20	10.0	90.0	0.0
	駒込地区	31	19.4	77.4	3.2

※「要支援非認定者」1,868 人と「要支援認定者」132 人との和は 2,000 人で、全体 2,079 人との差の 79 人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援 1・2」は 132 人で、「要支援非認定者」の 1,868 人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 15～問 18 食べることについて

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「低栄養状態」に該当する高齢者の割合を算出しました。
 次の2問中、2問両方に該当の場合、「低栄養状態」に該当します。
 ・問 15 BMI（身長・体重から算出） → 「BMI < 18.5（やせ）」
 ・問 16 食事・栄養、口の健康について、あてはまること → 「最近6か月間で2～3kg以上の体重減少があった」に回答

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「口腔機能の低下」に該当する高齢者の割合を算出しました。
 次の設問で該当した場合、「口腔機能の低下」に該当します。
 ・問 16 食事・栄養、口の健康について、あてはまること → 「口の渇きが気になる」、「お茶や汁物、唾液等でむせることがある」、「半年前に比べ固いものが食べにくくなった」の中で2項目以上に該当
 ※「問 17 歯の数と入れ歯の利用状況」、「問 18 誰かと食事をともにする機会」は「口腔機能の低下」の判定には使われていません。

各設問の結果は次のとおりです。

図 3.26 （問 15）（身長・体重より）BMI

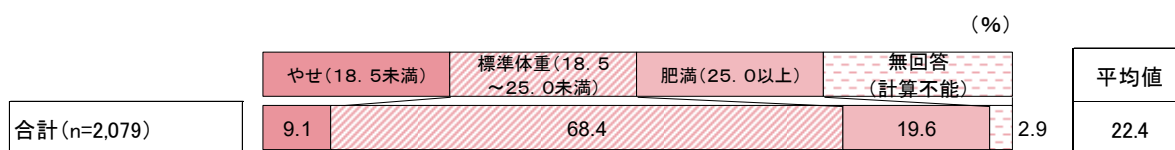
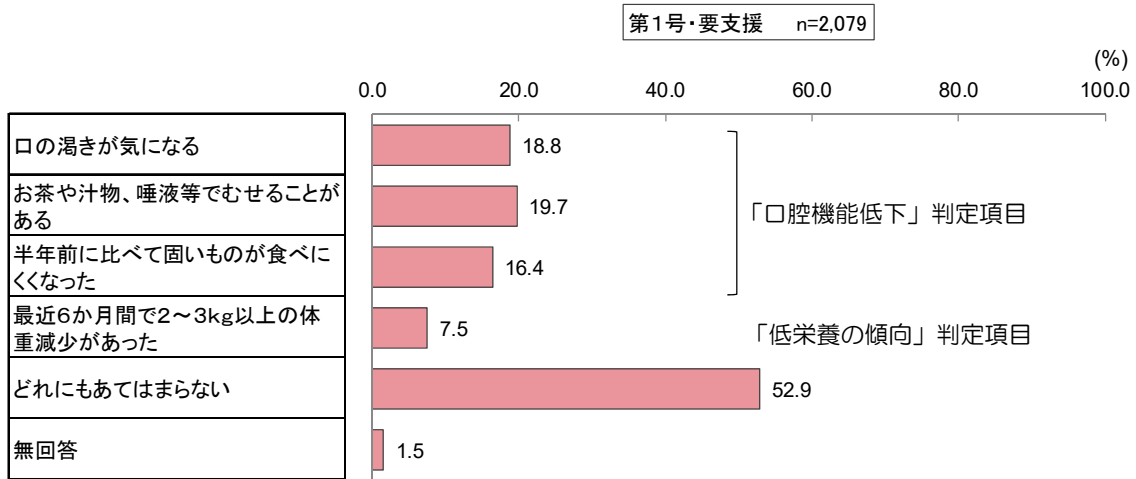


図 3.27 （問 15）（身長・体重より）BMI / 認定別/性別/年齢別/圏域別
 単位: %

項目	回答者数(人)	やせ(18.5未満)	標準体重(18.5～25.0未満)	肥満(25.0以上)	無回答(計算不能)	BMIの平均値	
全体	2,079	9.1	68.4	19.6	2.9	22.4	
認定別	要支援非認定者	1,868	8.9	69.0	19.4	2.7	22.4
	要支援1・2認定者	132	10.6	65.9	18.9	4.5	22.2
性別	男性	905	5.4	66.2	25.3	3.1	23.1
	女性	1,174	11.9	70.1	15.2	2.8	21.9
年齢別	65-69歳	585	8.4	70.6	19.3	1.7	22.4
	70-74歳	491	8.8	69.7	19.1	2.4	22.4
	75-79歳	365	8.8	65.8	23.0	2.5	22.6
	80-84歳	328	8.2	68.3	19.5	4.0	22.4
	85-89歳	193	13.5	66.8	16.6	3.1	22.2
	90歳以上	57	10.5	66.7	10.5	12.3	21.7
圏域別	富坂地区	670	9.4	70.3	17.5	2.8	22.3
	大塚地区	454	10.8	69.2	18.3	1.8	22.3
	本富士地区	457	8.1	68.3	19.7	3.9	22.6
	駒込地区	498	8.0	65.3	23.5	3.2	22.6

図 3.28 (問 16) 食事・栄養、口の健康



単位: %

項目		回答者数 (人)	口の渇きが気になる	お茶や汁物、唾液等でむせることがある	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	最近6か月間で2~3kg以上の体重減少があった	どれにもあてはまらない	無回答
全体		2,079	18.8	19.7	16.4	7.5	52.9	1.5
認定別	要支援非認定者	1,868	17.9	19.5	15.1	6.6	54.8	1.2
	要支援1・2認定者	132	31.8	27.3	32.6	17.4	30.3	0.8

図 3.29 (問 17) 歯の数と入れ歯の利用状況/認定別

単位: %

項目		回答者数 (人)	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	無回答
全体		2,079	17.6	38.0	31.1	8.7	4.7
認定別	要支援非認定者	1,868	17.9	39.5	30.0	8.6	4.1
	要支援1・2認定者	132	15.9	23.5	44.7	9.8	6.1

図 3.30 (問 18) どなたかと食事をとる機会/認定別

単位: %

項目		回答者数 (人)	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		2,079	53.5	11.6	18.7	7.7	6.1	2.4
認定別	要支援非認定者	1,868	54.9	11.5	19.0	7.3	5.2	2.1
	要支援1・2認定者	132	40.9	13.6	15.9	12.9	13.6	3.0

問 15 および問 16 の回答結果より、「低栄養状態」であるのは 1.3%、「低栄養状態ではない」は 95.1%となっています。

図 3.31 低栄養状態

		(%)		
		低栄養状態	低栄養状態ではない	判別不能
合計 (n=2,079)		1.3	95.1	3.7

「低栄養状態」であるのは、要支援非認定者で 1.1%です。性別、年齢別、圏域別にみると、特に大きな違いはみられません。
要支援 1・2 認定者は「低栄養状態」が 3.0%となっています。

図 3.32 低栄養状態/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援 1・2 認定者

単位: %

項目		回答者数 (人)	低栄養状態	低栄養状態ではない	判別不能
全体		1,868	1.1	95.8	3.2
性別	男性	800	0.9	95.6	3.5
	女性	1,068	1.2	95.9	2.9
年齢別	65-69 歳	559	0.7	97.5	1.8
	70-74 歳	461	1.1	96.1	2.8
	75-79 歳	344	2.3	95.1	2.6
	80-84 歳	275	1.1	94.9	4.0
	85-89 歳	146	0.0	94.5	5.5
	90 歳以上	35	0.0	85.7	14.3
圏域別	富坂地区	577	0.7	96.2	3.1
	大塚地区	421	1.4	96.7	1.9
	本富士地区	419	0.7	95.7	3.6
	駒込地区	451	1.6	94.5	4.0

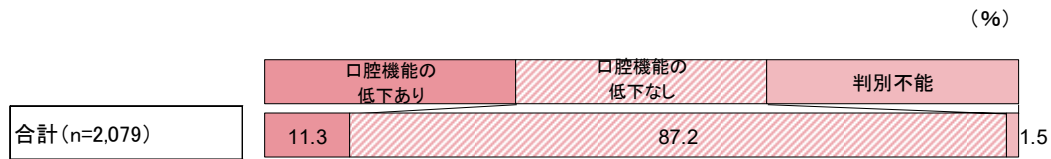
項目		回答者数 (人)	低栄養状態	低栄養状態ではない	判別不能
全体		132	3.0	91.7	5.3
性別	男性	68	4.4	88.2	7.4
	女性	64	1.6	95.3	3.1
年齢別	65-69 歳	8	0.0	75.0	25.0
	70-74 歳	13	0.0	92.3	7.7
	75-79 歳	14	0.0	92.9	7.1
	80-84 歳	30	0.0	96.7	3.3
	85-89 歳	39	5.1	92.3	2.6
	90 歳以上	20	5.0	90.0	5.0
圏域別	富坂地区	64	4.7	89.1	6.3
	大塚地区	17	5.9	88.2	5.9
	本富士地区	20	0.0	90.0	10.0
	駒込地区	31	0.0	100.0	0.0

※「要支援非認定者」1,868 人と「要支援認定者」132 人との和は 2,000 人で、全体 2,079 人との差の 79 人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援 1・2」は 132 人で、「要支援非認定者」の 1,868 人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 16 の回答結果より、口腔機能については、「低下あり」が 11.3%、「低下なし」が 87.2% となっています。

図 3.33 口腔機能の低下



口腔機能について、「低下あり」は要支援非認定者で 10.3%となっています。年齢別にみると、65-69 歳は「低下あり」が 6.1%にとどまっていますが、70 歳以上は各年代とも 1 割を上回っています。圏域別にみると、富坂地区と本富士地区で「低下あり」が 1 割を上回っています。要支援 1・2 認定者は「低下あり」が 25.0%となっています。

図 3.34 口腔機能の低下/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援 1・2 認定者

単位: %

項目		回答者数 (人)	口腔機能の低下あり	口腔機能の低下なし	判別不能
全体		1,868	10.3	88.5	1.2
性別	男性	800	10.9	87.6	1.5
	女性	1,068	9.8	89.2	0.9
年齢別	65-69 歳	559	6.1	93.6	0.4
	70-74 歳	461	11.1	87.4	1.5
	75-79 歳	344	13.1	86.3	0.6
	80-84 歳	275	11.6	87.3	1.1
	85-89 歳	146	11.0	86.3	2.7
	90 歳以上	35	17.1	74.3	8.6
圏域別	富坂地区	577	11.1	87.2	1.7
	大塚地区	421	9.0	90.5	0.5
	本富士地区	419	11.2	88.3	0.5
	駒込地区	451	9.5	88.7	1.8

項目		回答者数 (人)	口腔機能の低下あり	口腔機能の低下なし	判別不能
全体		132	25.0	74.2	0.8
性別	男性	68	23.5	75.0	1.5
	女性	64	26.6	73.4	0.0
年齢別	65-69 歳	8	25.0	62.5	12.5
	70-74 歳	13	46.2	53.8	0.0
	75-79 歳	14	7.1	92.9	0.0
	80-84 歳	30	16.7	83.3	0.0
	85-89 歳	39	35.9	64.1	0.0
	90 歳以上	20	25.0	75.0	0.0
圏域別	富坂地区	64	29.7	70.3	0.0
	大塚地区	17	17.6	76.5	5.9
	本富士地区	20	15.0	85.0	0.0
	駒込地区	31	25.8	74.2	0.0

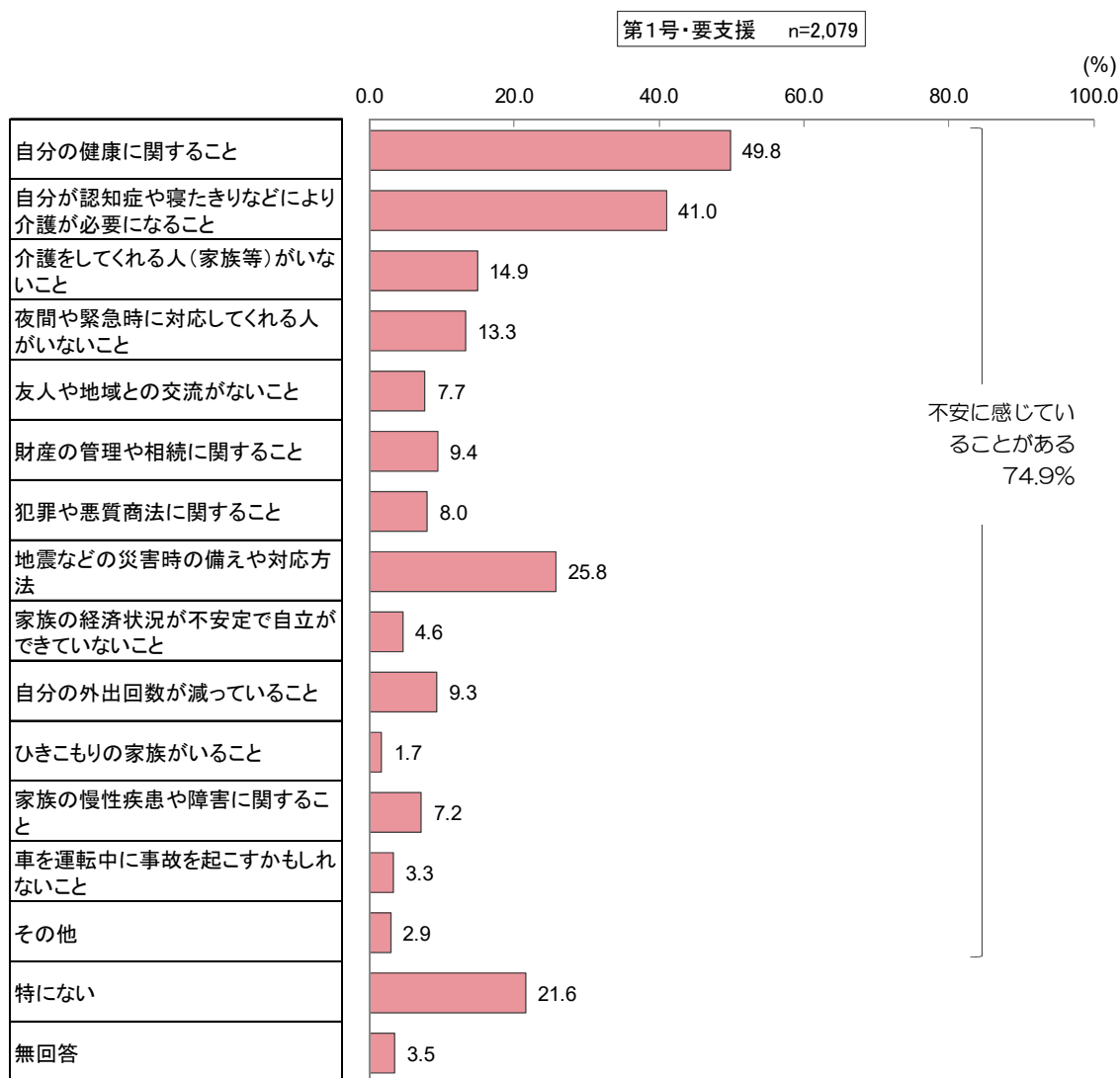
※「要支援非認定者」1,868 人と「要支援認定者」132 人との和は 2,000 人で、全体 2,079 人との差の 79 人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援 1・2」は 132 人で、「要支援非認定者」の 1,868 人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 19 現在の生活で不安に感じていること

現在の生活で不安に感じていることがある割合は74.9%で、「自分の健康に関すること」が49.8%で最も高く、次いで「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」が41.0%となっています。

図 3.35 現在の生活で不安に感じていること（いくつでも可）



- ※ その他【抜粋】
 - ・夫または妻、もしくは両方が病気になったら生活、金銭的に不安がある
 - ・配偶者に介護が必要になったとき
- ※ 「不安に感じていることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

現在の生活で不安を感じていることについて、健康感別にみると、「あまりよくない」「よくない」では「自分の健康に関すること」が8割を超えています。家族構成別にみると、1人暮らしでは他の世帯構成に比べ「介護をしてくれる人（家族等）がいない」（41.2%）、「夜間や緊急時に対応してくれる人がいないこと」（43.0%）が高くなっています。

図 3.36 現在の生活で不安を感じていること（いくつでも可）
/性別/年齢別/健康感別/家族構成別

単位：%

項目		回答者数（人）	自分の健康に関すること	自分が認知症や寝たがきなどにより介護が必要になること	介護をしてもらえる人（家族等）がいないこと	夜間や緊急時に対応しきれないこと	友人や地域との交流がないこと	財産の管理や相続に関すること	犯罪や悪質商法に関すること	地震などの災害時の備えや対応方法
全体		2,079	49.8	41.0	14.9	13.3	7.7	9.4	8.0	25.8
性別	男性	905	49.8	34.5	13.1	12.3	9.6	9.5	6.6	21.4
	女性	1,174	49.8	46.1	16.2	14.1	6.2	9.4	9.1	29.2
年齢別	65-69歳	585	45.6	34.2	14.7	12.1	6.2	11.3	7.5	28.4
	70-74歳	491	52.1	44.2	16.5	12.0	7.3	9.6	7.3	23.8
	75-79歳	365	52.6	48.5	17.5	15.6	7.4	9.3	8.8	27.7
	80-84歳	328	51.8	41.8	10.1	11.3	8.8	6.7	10.1	25.3
	85-89歳	193	50.8	45.6	16.1	19.7	11.9	10.4	8.3	24.9
	90歳以上	57	54.4	36.8	10.5	14.0	7.0	7.0	3.5	21.1
健康感別	とてもよい	261	14.2	21.1	5.4	4.6	1.5	6.1	5.0	15.7
	まあよい	1,420	49.7	41.5	14.3	13.0	6.8	10.4	8.4	26.5
	あまりよくない	268	82.5	56.3	24.6	22.4	17.5	8.2	9.0	33.6
	よくない	34	88.2	58.8	20.6	26.5	17.6	17.6	20.6	38.2
家族構成別	1人暮らし	498	48.6	46.2	41.2	43.0	14.1	10.4	8.0	26.7
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	783	53.6	41.3	7.3	5.2	6.4	9.3	8.8	26.8
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	89	41.6	22.5	2.2	1.1	3.4	9.0	3.4	18.0
	息子・娘との2世帯	320	51.9	44.7	5.6	1.6	5.0	8.1	9.7	27.2
	その他	348	44.8	36.2	5.7	3.4	5.5	9.5	6.0	24.1

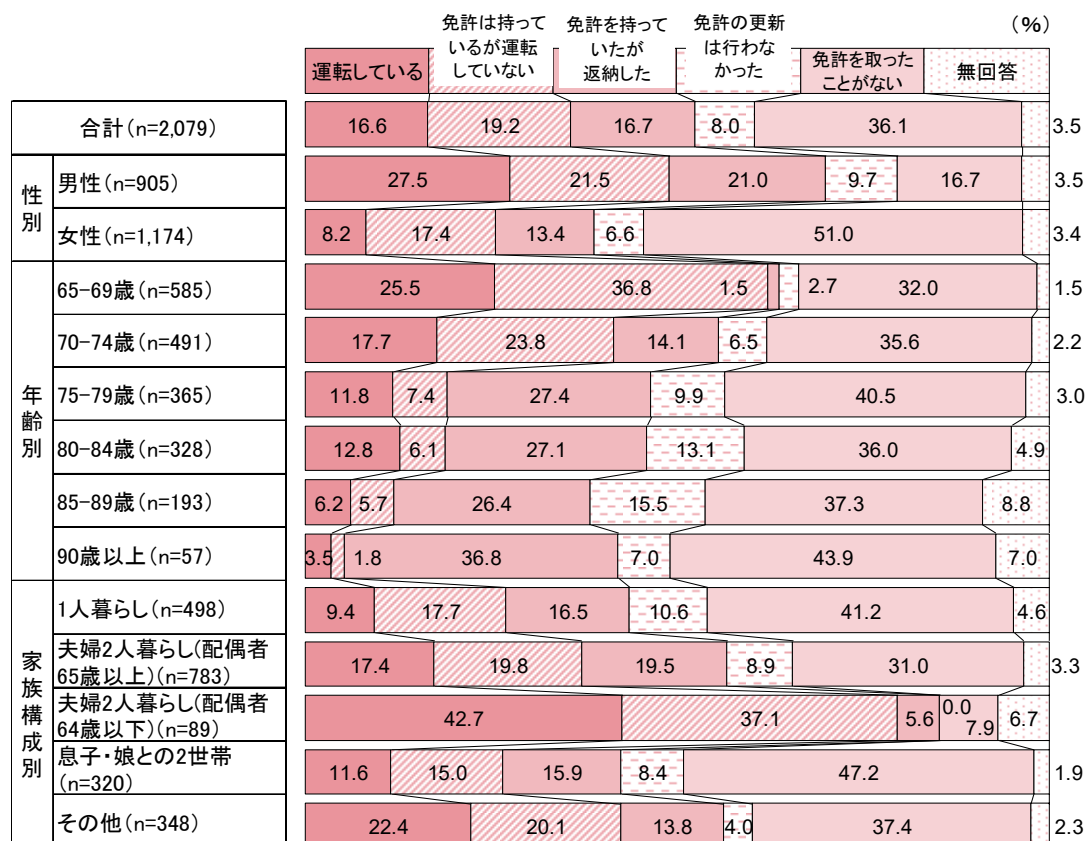
項目		回答者数（人）	家族の経済状況が不安定で自立できないこと	自分の外出回数が減っていること	いきこもりの家族がいないこと	家族の慢性疾患や障害に関する事	車を運転中に事故を起こすかもしれないこと	その他	特にな	無回答
全体		2,079	4.6	9.3	1.7	7.2	3.3	2.9	21.6	3.5
性別	男性	905	4.2	10.1	2.3	6.1	4.6	3.0	23.4	4.4
	女性	1,174	4.9	8.7	1.3	8.0	2.2	2.8	20.2	2.8
年齢別	65-69歳	585	5.3	5.1	1.4	6.3	4.6	2.7	25.3	3.9
	70-74歳	491	4.7	6.1	1.6	7.7	3.5	2.4	18.7	3.1
	75-79歳	365	3.6	10.1	1.6	9.0	2.2	3.3	20.5	2.2
	80-84歳	328	4.6	13.4	0.9	7.0	3.0	3.4	24.1	4.9
	85-89歳	193	3.1	18.7	3.6	5.7	2.6	3.6	14.0	2.6
	90歳以上	57	3.5	21.1	3.5	7.0	0.0	3.5	19.3	1.8
健康感別	とてもよい	261	2.7	1.1	0.8	4.2	4.2	1.5	51.3	5.0
	まあよい	1,420	4.0	6.1	1.7	7.0	3.2	2.9	20.1	3.0
	あまりよくない	268	7.8	29.5	2.2	10.8	2.6	3.0	3.0	1.9
	よくない	34	8.8	44.1	8.8	17.6	5.9	14.7	0.0	2.9
家族構成別	1人暮らし	498	1.8	11.6	0.6	2.0	0.8	2.6	19.1	2.6
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	783	2.4	8.2	1.1	8.7	4.1	2.3	20.3	4.1
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	89	6.7	6.7	0.0	2.2	5.6	3.4	29.2	9.0
	息子・娘との2世帯	320	7.8	12.2	1.9	7.8	1.9	3.1	20.9	1.9
	その他	348	9.8	7.5	4.3	11.8	5.7	4.6	25.3	3.2

問20 現在車の運転をしているか

車の運転について、「運転している」が16.6%、「免許は持っているが運転していない」が19.2%、「免許を持っていたが返納した」が16.7%、「免許の更新は行わなかった」が8.0%、「免許を取ったことがない」が36.1%となっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれ「運転している」割合が低く、「免許を持っていたが返納した」割合が高くなる傾向があります。

図 3.37 現在車の運転をしているか/性別/年齢別/家族構成別



家族や身近な方の介護状況別にみると、「運転している」は「現在、介護をしている」で21.8%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」で13.7%となっています。

図 3.38 現在車の運転をしているか/介護経験の有無別

		運転している	免許を持って いるが運転 していない	免許を持って いたが返納 した	免許の更新 は行わな かった	免許を取っ たことが ない	無回答
合計 (n=2,079)		16.6	19.2	16.7	8.0	36.1	3.5
介護 経験 の有 無別	現在、介護をしている (n=206)	21.8	22.8	13.1	8.3	31.1	2.9
	過去に介護をしたことがある が、今はしていない(n=793)	13.7	19.2	15.3	6.9	42.2	2.6
	介護をしたことがない (n=1,000)	18.7	19.2	17.9	8.8	32.3	3.1

階段の昇り状況別にみると、「運転している」は「(昇りが)できるし、している」で19.6%、「(昇りが)できるけれどしていない」で14.6%、「(昇りが)できない」で5.8%となっています。

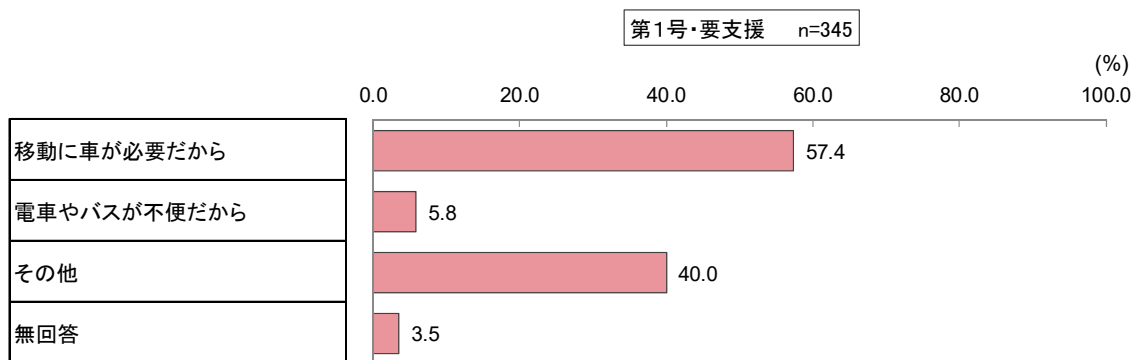
図 3.39 現在車の運転をしているか/階段の昇り状況別

		運転している	免許を持って いるが運転 していない	免許を持って いたが返納 した	免許の更新 は行わな かった	免許を取っ たことが ない	無回答
合計 (n=2,079)		16.6	19.2	16.7	8.0	36.1	3.5
階段 の昇 り状 況別	できるし、している (n=1,334)	19.6	22.1	15.7	7.1	32.2	3.1
	できるけれどしていない (n=426)	14.6	16.7	18.8	7.5	41.5	0.9
	できない(n=276)	5.8	10.5	18.1	10.9	47.1	7.6

問 20-1 【運転している方】運転している主な理由

運転している主な理由は、「移動に車が必要だから」が57.4%と最も高く、次いで「電車やバスが不便だから」が5.8%となっています。

図 3.40 運転している主な理由（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 仕事、レジャー・買い物・旅行

運転している主な理由について、性別では、男性、女性ともに「移動に車が必要だから」が最も高くなっています。年齢別にみると、80～84歳で「移動に車が必要だから」が66.7%と他の年代より高くなっています。

図 3.41 運転している主な理由（いくつでも可）/性別/年齢別/家族構成別

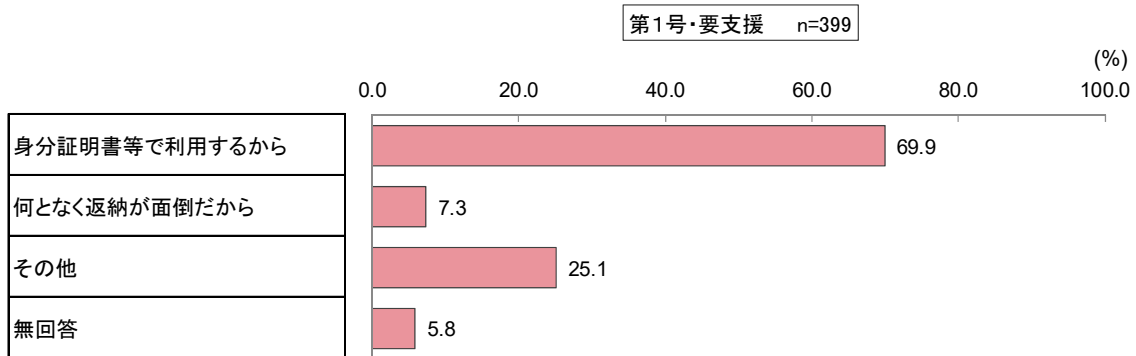
無回答：%

項目		回答者数 (人)	移動に車が必要だから	電車やバスが不便だから	その他	無回答
全体		345	57.4	5.8	40.0	3.5
性別	男性	249	57.4	6.0	39.4	3.2
	女性	96	57.3	5.2	41.7	4.2
年齢別	65-69歳	149	56.4	6.7	38.9	3.4
	70-74歳	87	56.3	2.3	44.8	1.1
	75-79歳	43	58.1	7.0	46.5	0.0
	80-84歳	42	66.7	7.1	33.3	0.0
	85-89歳	12	50.0	8.3	41.7	16.7
	90歳以上	2	50.0	0.0	0.0	50.0
家族構成別	1人暮らし	47	48.9	2.1	44.7	6.4
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	136	59.6	6.6	39.7	0.7
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	38	65.8	5.3	28.9	5.3
	息子・娘との2世帯	37	54.1	5.4	43.2	2.7
	その他	78	53.8	6.4	43.6	5.1

問 20-2 【「免許を持っているが運転していない」と回答した方】免許を返納しない主な理由

免許を返納しない理由は、「身分証明書等で利用するから」が69.9%で最も高くなっています。

図 3.42 免許を返納しない主な理由（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 仕事に必要、運転する必要があるかもしれない、レンタカーを使用する可能性があるから、次回更新時に返納する予定

免許を返納しない理由について、性別では、男性、女性ともに「身分証明書等で利用するから」が最も高くなっています。年齢別にみると、79歳までは「身分証明書等で利用するから」が年齢が上がるにつれ減少傾向で、「何となく返納が面倒だから」、「その他」が増えています。

図 3.43 免許を返納しない主な理由（いくつでも可）/性別/年齢別/家族構成別

項目		回答者数 (人)	身分証明書等で利用するから (%)	何となく返納が面倒だから (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体		399	69.9	7.3	25.1	5.8
性別	男性	195	71.3	6.7	22.6	6.2
	女性	204	68.6	7.8	27.5	5.4
年齢別	65-69歳	215	73.5	6.5	22.3	5.1
	70-74歳	117	71.8	6.8	25.6	5.1
	75-79歳	27	51.9	11.1	44.4	3.7
	80-84歳	20	60.0	5.0	25.0	15.0
	85-89歳	11	36.4	27.3	18.2	18.2
	90歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0
家族構成別	1人暮らし	88	68.2	6.8	23.9	5.7
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	155	69.0	6.5	26.5	7.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	33	72.7	9.1	24.2	3.0
	息子・娘との2世帯	48	56.3	12.5	31.3	10.4
	その他	70	81.4	5.7	18.6	1.4

問 21 物忘れについて

「介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「認知機能の低下」に該当する高齢者の割合を算出しました。
 次の設問で該当した場合、「認知機能の低下」に該当します。
 ・問 21 物忘れが多いと感じるか → 「はい」

問 21 の結果は次のとおりです。

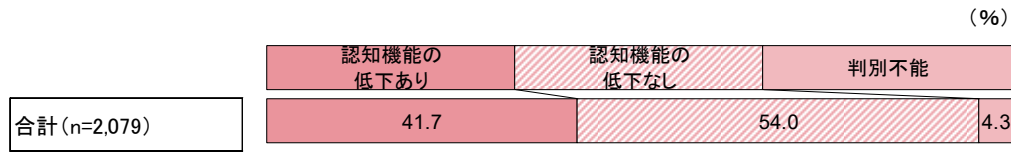
図 3.44 （問 21）物忘れが多いと感じるか/認定別

単位：%

項 目		回答者数 (人)	はい	いいえ	無回答
全 体		2,079	41.7	54.0	4.3
認定別	要支援非認定者	1,868	41.5	54.7	3.7
	要支援1・2認定者	132	47.0	46.2	6.8

認知機能の低下について、「低下あり」が41.7%、「低下なし」が54.0%となっています。

図 3.45 認知機能の低下



認知機能の低下について、要支援非認定者は「低下あり」が41.5%となっています。性別では、男性に比べ女性で「低下あり」が高く、44.6%となっています。年齢別にみると、84歳以下では「低下なし」の割合が高く、85歳以上では「低下あり」の割合が高くなっています。要支援1・2認定者は「低下あり」の割合が47.0%となっています。

図 3.46 認知機能の低下/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援1・2認定者

単位:%

項目		回答者数 (人)	認知機能の 低下あり	認知機能の 低下なし	判別不能
全体		1,868	41.5	54.7	3.7
性別	男性	800	37.5	57.1	5.4
	女性	1,068	44.6	52.9	2.5
年齢別	65-69歳	559	35.6	61.7	2.7
	70-74歳	461	41.6	55.1	3.3
	75-79歳	344	48.3	49.4	2.3
	80-84歳	275	38.9	54.5	6.5
	85-89歳	146	49.3	46.6	4.1
	90歳以上	35	51.4	37.1	11.4
圏域別	富坂地区	577	44.0	51.5	4.5
	大塚地区	421	43.2	54.6	2.1
	本富士地区	419	40.3	56.6	3.1
	駒込地区	451	37.9	57.2	4.9

項目		回答者数 (人)	認知機能の 低下あり	認知機能の 低下なし	判別不能
全体		132	47.0	46.2	6.8
性別	男性	68	47.1	44.1	8.8
	女性	64	46.9	48.4	4.7
年齢別	65-69歳	8	37.5	50.0	12.5
	70-74歳	13	38.5	61.5	0.0
	75-79歳	14	50.0	50.0	0.0
	80-84歳	30	46.7	43.3	10.0
	85-89歳	39	53.8	38.5	7.7
	90歳以上	20	50.0	40.0	10.0
圏域別	富坂地区	64	56.3	35.9	7.8
	大塚地区	17	17.6	82.4	0.0
	本富士地区	20	50.0	35.0	15.0
	駒込地区	31	41.9	54.8	3.2

※「要支援非認定者」1,868人と「要支援認定者」132人との和は2,000人で、全体2,079人との差の79人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援1・2」は132人で、「要支援非認定者」の1,868人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 22～問 26 手段的ADL（IADL）について

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「手段的ADLの低下」に該当する高齢者の割合を算出しました。

次の5問で、それぞれ「できない」が0点、「それ以外」が1点とし、5点満点中4点以下が「低下者」に該当します。

- ・問 22 バスや電車を使って1人で外出しているか
- ・問 23 自分で食品・日用品の買物をしているか
- ・問 24 自分で食事の用意をしているか
- ・問 25 自分で請求書の支払いをしているか
- ・問 26 自分で預貯金の出し入れをしているか

※手段的ADL（Instrumental Activity of Daily Living：手段的日常生活動作）とは、日常生活を送る上で必要な動作の中で、ADL（日常生活動作）より高度なものです（交通機関の利用、買い物、家事、金銭管理などの動作・行動）。

各設問の結果は次のとおりです。

図 3.47 （問 22）バスや電車を使って1人で外出しているか/認定別

単位：%

項 目		回答者数 (人)	できるし、 している	できない けれどもして いない	できない	無回答
全 体		2,079	91.4	3.8	3.1	1.7
認定別	要支援非認定者	1,868	93.8	3.4	1.4	1.3
	要支援1・2認定者	132	60.6	9.1	25.8	4.5

図 3.48 （問 23）自分で食品・日用品の買物をしているか/認定別

単位：%

項 目		回答者数 (人)	できるし、 している	できない けれどもして いない	できない	無回答
全 体		2,079	89.0	7.2	2.1	1.7
認定別	要支援非認定者	1,868	91.1	6.4	0.9	1.6
	要支援1・2認定者	132	65.2	14.4	17.4	3.0

図 3.49 (問 24) 自分で食事の用意をしているか/認定別

単位:%

項 目		回答者数 (人)	できるし、 している	できるけれど しない	できない	無回答
全 体		2,079	75.6	17.4	5.5	1.5
認定別	要支援非認定者	1,868	77.1	17.4	4.2	1.2
	要支援1・2認定者	132	56.1	17.4	22.0	4.5

図 3.50 (問 25) 自分で請求書の支払いをしているか/認定別

単位:%

項 目		回答者数 (人)	できるし、 している	できるけれど しない	できない	無回答
全 体		2,079	87.5	8.1	2.5	1.8
認定別	要支援非認定者	1,868	89.3	7.8	1.3	1.6
	要支援1・2認定者	132	65.9	12.9	18.2	3.0

図 3.51 (問 26) 自分で預貯金の出し入れをしているか/認定別

単位:%

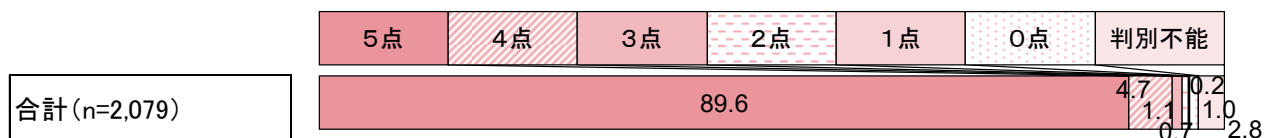
項 目		回答者数 (人)	できるし、 している	できるけれど しない	できない	無回答
全 体		2,079	88.7	7.6	2.2	1.5
認定別	要支援非認定者	1,868	90.2	7.3	1.2	1.3
	要支援1・2認定者	132	68.9	12.1	15.9	3.0

問 22 から問 26 までの回答結果より、手段的 ADL については、「5点」（低下なし）が 89.6%、「4点」が 4.7%、「3点」が 1.1%、「2点」が 0.7%、「1点」が 0.2%、「0点」が 1.0%となっています。

図 3.52 手段的ADL (IADL)

単位：%

(%)



手段的 ADL について、要支援非認定者は「5点」（低下なし）が 92.3%となっています。性別では、「5点」（低下なし）は男性に比べ女性で 96.8%と高くなっています。年齢別にみると、年代が上がるにつれ「5点」（低下なし）の割合が低くなっています。

図 3.53 手段的ADL (IADL) /性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

単位：%

項目	回答者数(人)	5点	4点	3点	2点	1点	0点	判別不能
全体	1,868	92.3	3.7	0.9	0.2	0.1	0.4	2.4
性別	男性	86.3	7.5	1.3	0.5	0.1	0.9	3.5
	女性	96.8	0.9	0.6	0.0	0.1	0.1	1.5
年齢別	65-69歳	94.6	3.2	0.2	0.0	0.0	0.2	1.8
	70-74歳	93.9	3.0	1.3	0.0	0.2	0.0	1.5
	75-79歳	93.9	2.9	1.2	0.0	0.0	0.9	1.2
	80-84歳	91.6	4.4	0.7	0.7	0.0	0.0	2.5
	85-89歳	83.6	6.8	0.7	1.4	0.0	2.1	5.5
	90歳以上	68.6	11.4	2.9	0.0	2.9	2.9	11.4
圏域別	富坂地区	90.1	4.2	1.0	0.5	0.2	0.3	3.6
	大塚地区	94.1	3.8	0.7	0.0	0.2	0.0	1.2
	本富士地区	92.8	4.3	1.0	0.2	0.0	0.5	1.2
	駒込地区	92.9	2.7	0.7	0.0	0.0	0.9	2.9

手段的ADLについて、要支援1・2認定者は「5点」が56.1%となっています。

図 3.54 手段的ADL (IADL) /性別/年齢別/圏域別
要支援1・2認定者

単位:%

項目		回答者数 (人)	5点	4点	3点	2点	1点	0点	判別不能
全体		132	56.1	17.4	3.0	6.8	1.5	9.1	6.1
性別	男性	68	52.9	19.1	1.5	8.8	1.5	10.3	5.9
	女性	64	59.4	15.6	4.7	4.7	1.6	7.8	6.3
年齢別	65-69歳	8	75.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	70-74歳	13	53.8	38.5	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
	75-79歳	14	71.4	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
	80-84歳	30	46.7	6.7	3.3	6.7	3.3	20.0	13.3
	85-89歳	39	51.3	17.9	7.7	7.7	0.0	10.3	5.1
	90歳以上	20	50.0	20.0	0.0	15.0	5.0	5.0	5.0
圏域別	富坂地区	64	48.4	18.8	1.6	10.9	1.6	12.5	6.3
	大塚地区	17	76.5	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0
	本富士地区	20	70.0	15.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0
	駒込地区	31	51.6	22.6	3.2	6.5	3.2	6.5	6.5

※「要支援非認定者」1,868人と「要支援認定者」132人との和は2,000人で、全体2,079人との差の79人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

※「要支援1・2」は132人で、「要支援非認定者」の1,868人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

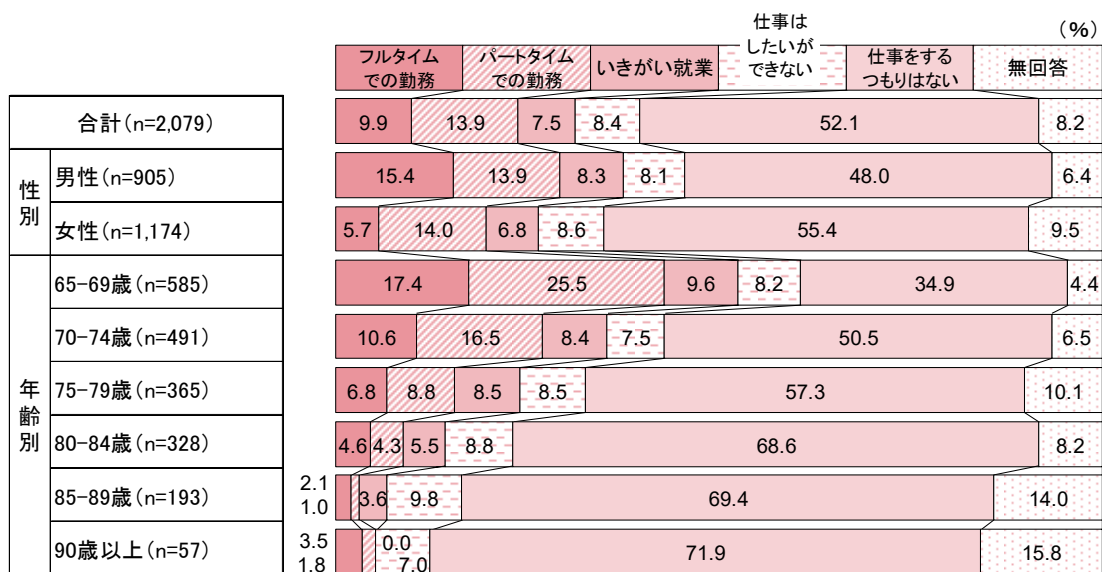
問 27 働き方の希望

今後希望する働き方は、「フルタイムでの勤務」が9.9%、「パートタイムでの勤務」が13.9%、「いきがい就労」が7.5%、「仕事はしたいができない」が8.4%、「仕事をするつもりはない」が52.1%となっています。

性別では、男性は「フルタイムでの勤務」が15.4%と女性に比べ高くなっています。

年齢別にみると、65～69歳は「フルタイムでの勤務」（17.4%）、「パートタイムでの勤務」（25.5%）、「いきがい就労」（9.6%）を合わせ、過半数の52.5%が就労意向を持っています。

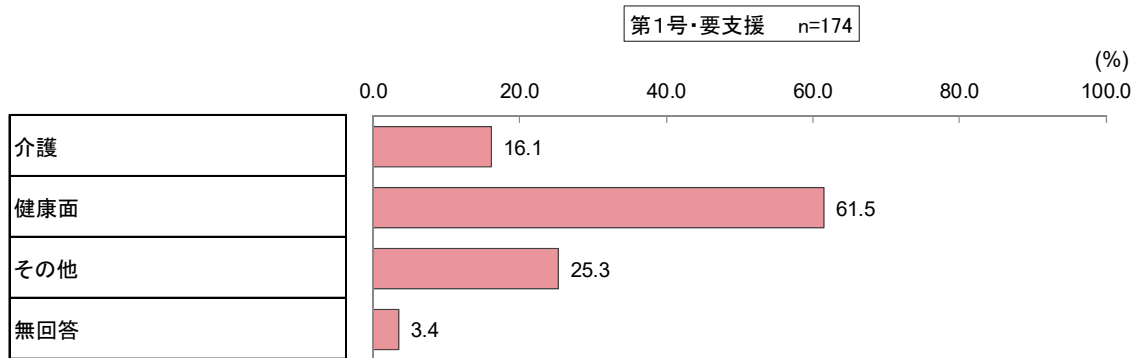
図 3.55 働き方の希望/性別/年齢別



問 27_1 【「仕事はしたいができない」と回答した方】仕事はしたいができない理由

仕事はしたいができない理由は、「健康面」が61.5%と最も高く、次いで「介護」が16.1%となっています。

図 3.56 仕事はしたいができない理由（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 高齢、働く場所がない

仕事はしたいができない理由について、性別では、男性、女性ともに「健康面」が最も高くなっています。「介護」は男性に比べ女性で17.8%とやや高くなっています。

図 3.57 仕事はしたいができない理由（いくつでも可）/性別/年齢別

単位：%

項目		回答者数 (人)	介護	健康面	その他	無回答
全体		174	16.1	61.5	25.3	3.4
性別	男性	73	13.7	63.0	27.4	4.1
	女性	101	17.8	60.4	23.8	3.0
年齢別	65-69歳	48	27.1	60.4	22.9	0.0
	70-74歳	37	10.8	56.8	35.1	0.0
	75-79歳	31	22.6	71.0	9.7	3.2
	80-84歳	29	3.4	65.5	31.0	3.4
	85-89歳	19	5.3	52.6	36.8	10.5
	90歳以上	4	0.0	50.0	25.0	50.0

5 介護等について

問 28 普段の生活で介護・介助が必要か

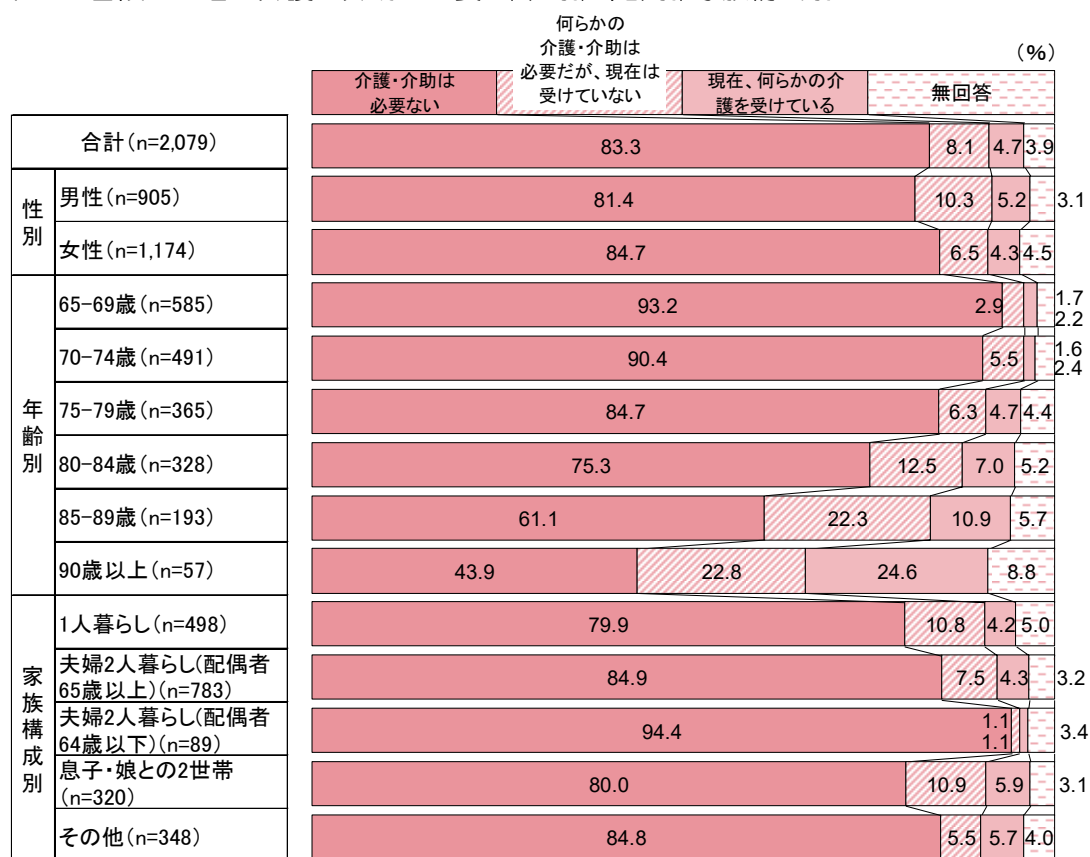
普段の生活では、「介護・介助は必要ない」が83.3%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.1%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.7%となっています。

性別では、男性で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が女性と比べてやや高く、10.3%となっています。

年齢別にみると、70歳以降は年齢が上がるにつれて「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている」の割合が増加し、90歳以上では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は22.8%、「現在、何らかの介護を受けている」は24.6%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らし、息子・娘の2世帯で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が高く、約11%となっています。

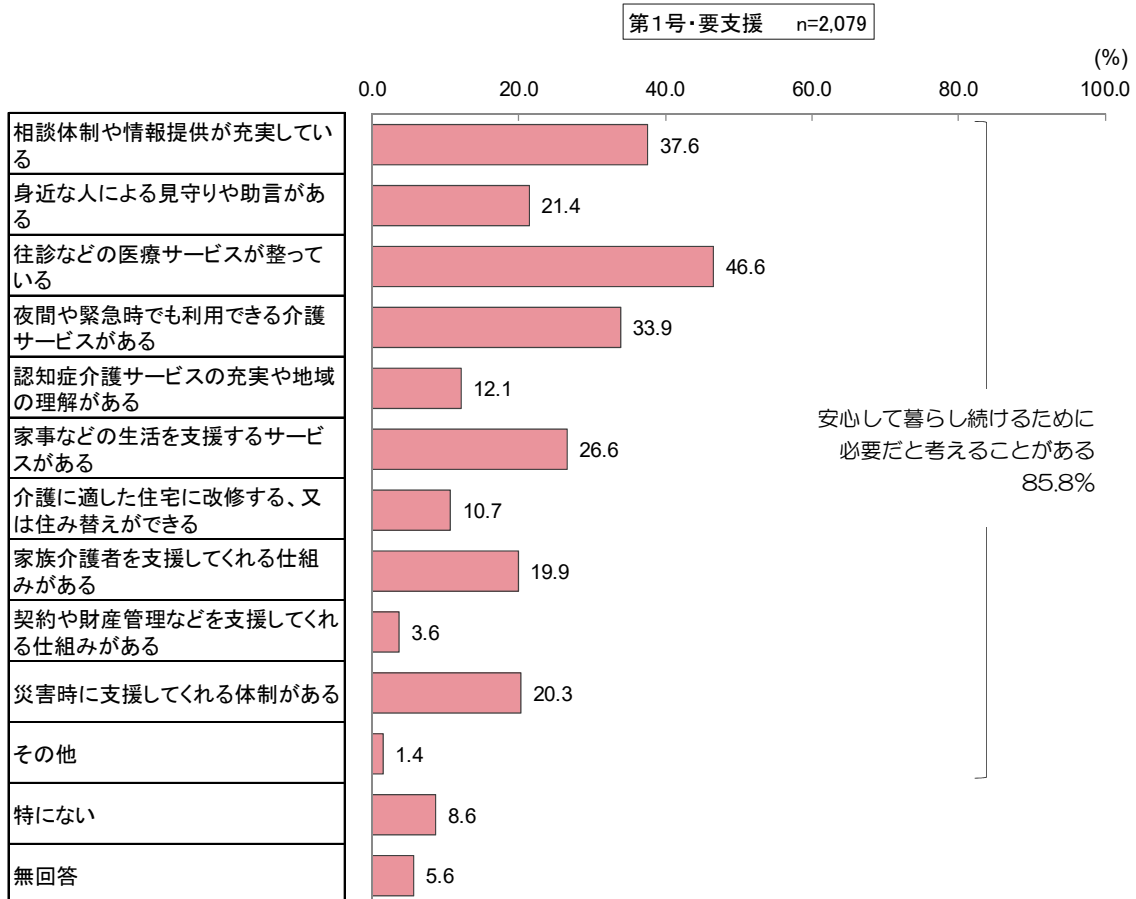
図 3.58 普段の生活で介護・介助が必要か/性別/年齢別/家族構成別



問 29 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこととしては、「往診などの医療サービスが整っている」が46.6%と最も高く、次いで「相談体制や情報提供が充実している」が37.6%、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が33.9%となっています。

図 3.59 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと（3つまで可）



- ※ その他【抜粋】 成年後見制度の充実、いざというとき助けてくれる人または公的システム、介護施設の増加
- ※ 「安心して暮らし続けるために必要だと考えることがある」=100%－「特にない」－「無回答」

性別では、女性は「災害時に支援してくれる体制がある」が23.0%と男性と比べて6ポイントほど高くなっています。

年齢別にみると、「身近な人による見守りや介助がある」は年齢が上がるにつれて、「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」は年齢が下がるにつれて割合が高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「家事などの生活を支援するサービスがある」が33.7%と他の家族構成と比べて高くなっています。

図 3.60 介護が必要になっても、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと（3つまで可）/性別/年齢別/家族構成別

単位：%

項目		回答者数（人）	充実している相談体制や情報提供がある	身近な人による見守りや助言がある	往診などの医療サービスが整っている	夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある	認知症介護サービスの充実や地域の理解がある	家事などの生活を支援するサービスがある	介護に適した住宅に改修する、又は住み替えができる
全体		2,079	37.6	21.4	46.6	33.9	12.1	26.6	10.7
性別	男性	905	36.6	20.6	43.9	31.9	11.6	24.3	8.8
	女性	1174	38.4	22.0	48.6	35.3	12.4	28.4	12.2
年齢別	65-69歳	585	45.1	18.1	50.9	39.7	14.9	29.9	12.1
	70-74歳	491	37.1	19.8	45.4	36.9	14.5	29.3	13.0
	75-79歳	365	38.1	20.8	46.8	32.6	10.7	27.7	12.1
	80-84歳	328	32.9	24.4	43.6	27.7	9.5	19.5	7.0
	85-89歳	193	29.5	27.5	45.1	26.9	6.2	22.8	6.2
	90歳以上	57	29.8	35.1	43.9	26.3	5.3	22.8	7.0
家族構成別	1人暮らし	498	35.5	22.1	43.0	36.9	11.6	25.9	9.4
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	783	38.4	20.9	50.8	32.1	11.4	28.1	11.7
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	89	38.2	11.2	47.2	38.2	15.7	33.7	9.0
	息子・娘との2世帯	320	40.0	25.0	45.9	32.2	11.3	21.9	9.4
	その他	348	37.4	20.4	44.8	35.3	13.2	27.3	11.8

項目		回答者数（人）	家族介護者を支援してくれる仕組みがある	契約や財産管理などを支援してくれる仕組みがある	災害時に支援してくれる体制がある	その他	特にない	無回答
全体		2,079	19.9	3.6	20.3	1.4	8.6	5.6
性別	男性	905	21.8	3.2	16.9	1.1	11.8	4.9
	女性	1,174	18.4	3.9	23.0	1.6	6.0	6.1
年齢別	65-69歳	585	21.5	5.1	21.0	1.2	5.3	2.9
	70-74歳	491	21.2	3.3	22.4	1.0	6.9	5.3
	75-79歳	365	19.7	3.3	20.3	2.2	9.6	5.5
	80-84歳	328	18.6	2.4	19.2	1.5	11.9	5.8
	85-89歳	193	16.6	2.1	15.5	1.6	12.4	9.3
	90歳以上	57	12.3	7.0	19.3	1.8	5.3	14.0
家族構成別	1人暮らし	498	6.6	4.4	19.7	1.2	10.8	6.2
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	783	23.4	3.2	20.4	1.3	7.2	6.0
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	89	29.2	6.7	16.9	3.4	6.7	1.1
	息子・娘との2世帯	320	25.6	2.5	22.5	1.3	9.1	3.8
	その他	348	23.6	3.4	21.0	1.7	8.0	4.6

問 30 介護が必要になった場合に希望する暮らし方

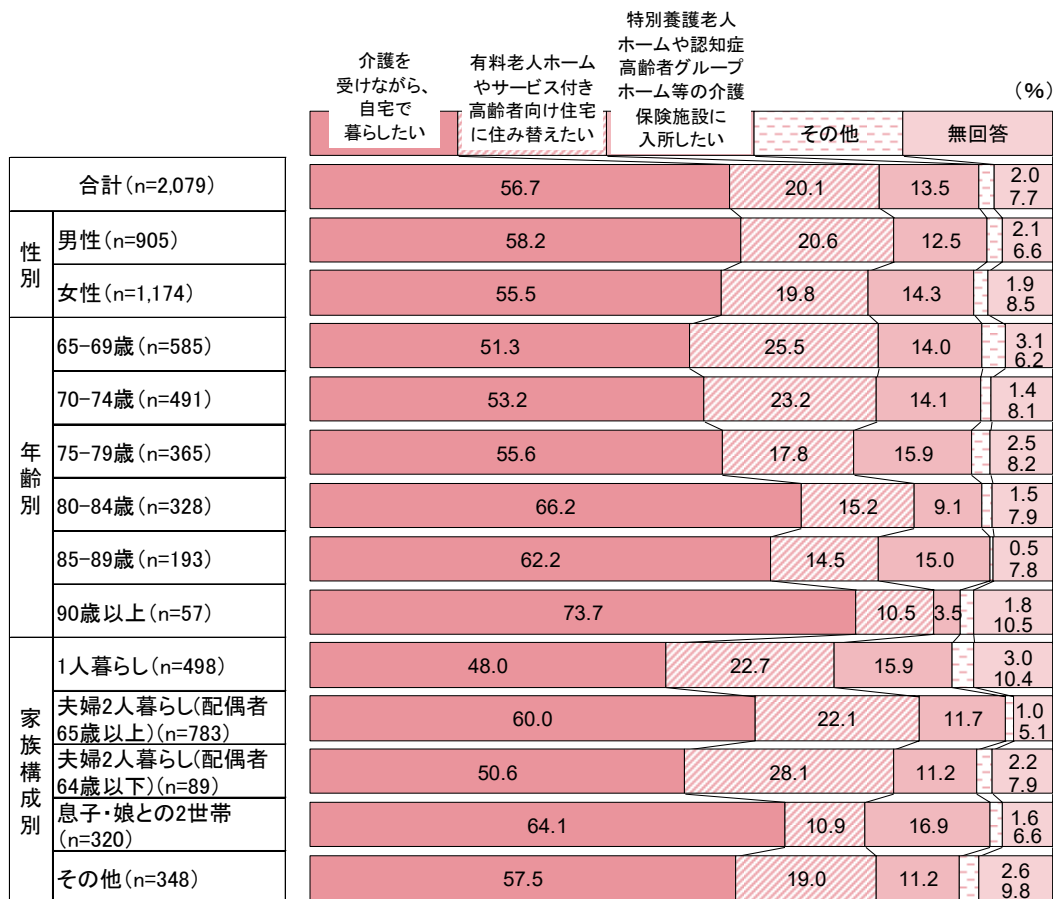
介護が必要になった場合の暮らし方の希望は、「介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が56.7%と最も高く、次いで「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えたい」が20.1%、「特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホーム等の介護保険施設に入所したい」が13.5%となっています。

性別では目立った違いはみられません。

年齢別にみると、「介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は65～79歳で50%台、80～89歳で60%台、90歳以上では73.7%となっています。

家族構成別にみると、「介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は息子・娘との2世帯で64.1%と最も高く、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住み替えたい」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で28.1%と高くなっています。

図 3.61 介護が必要になった場合に希望する暮らし方/性別/年齢別/家族構成別



※ その他【抜粋】 介護施設に入りたい、多世代で交流できる高齢者ホーム、認知症の方が普通に暮らせるまち

(注) サービス付き高齢者向け住宅…高齢者の居住の安定を確保することを目的として、バリアフリー構造等を有し、介護・医療と連携し高齢者を支援するサービスを提供する、都知事への登録をした住宅

問 31 終末期を迎える場所の希望

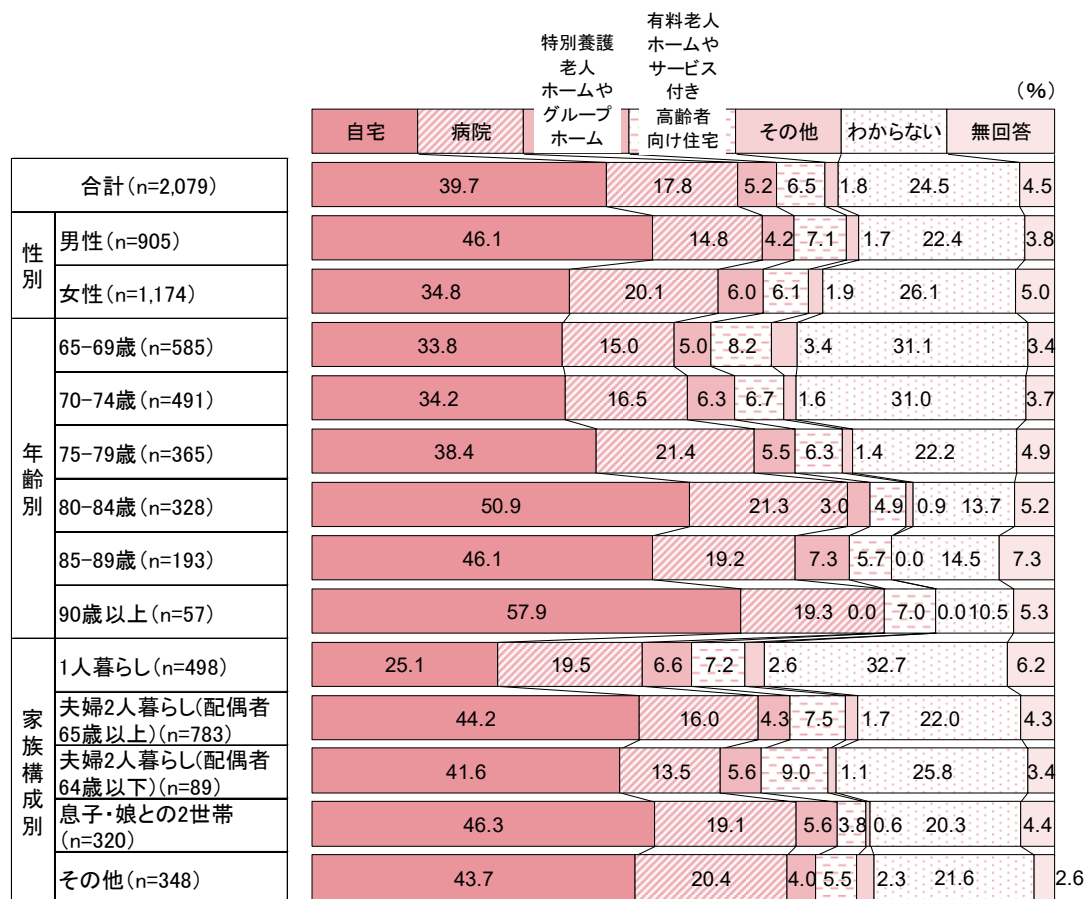
終末期を迎えたい場所は、「自宅」が39.7%と最も高く、次いで「わからない」が24.5%、「病院」が17.8%となっています。

性別では、男性は「自宅」が46.1%と女性と比べて10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳は「わからない」が30%以上となっています。

家族構成別にみると、1人暮らしは「わからない」が最も高く、32.7%となっています。息子・娘の2世帯では「自宅」が46.3%と他の家族構成と比べて高くなっています。

図 3.62 終末期を迎える場所の希望/性別/年齢別/家族構成別



※ その他【抜粋】 ホスピス (11件)、どこでもよい (6件)

(注) 終末期…治療で回復の見込みがなく、数週間～数か月のうちに死亡するだろうと予期される状態になった時期

問 32 家族、又は身近な方の介護をしているか

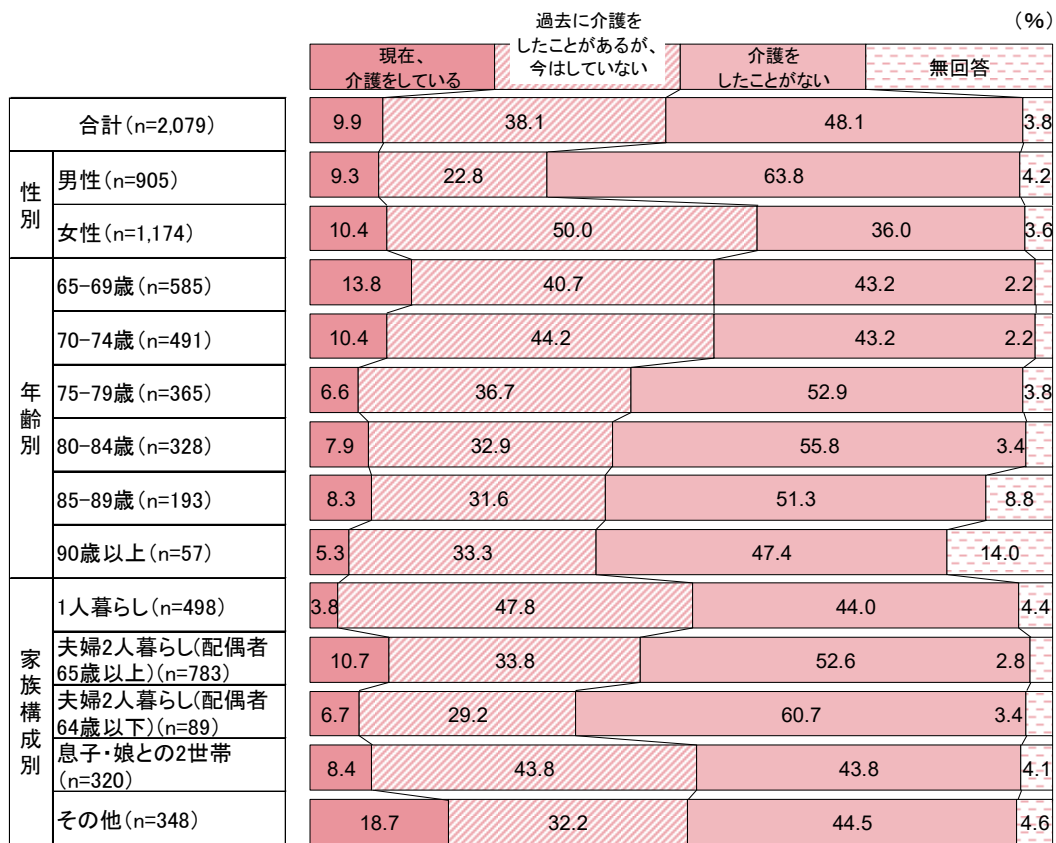
家族や身近な方の介護については、「現在、介護をしている」が9.9%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が38.1%、となっており、両者を合わせれば半数が介護経験者です。

性別では、女性で「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が半数と、男性の22.8%と比べて27ポイントほど高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳は「現在、介護をしている」や「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」の割合が他の年齢と比べて高くなっています。

家族構成別にみると、その他で「現在、介護をしている」が18.7%と高くなっています。1人暮らし、息子・娘との2世帯では「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」が40%台で、「現在、介護をしている」とあわせると半数以上が介護を経験しています。

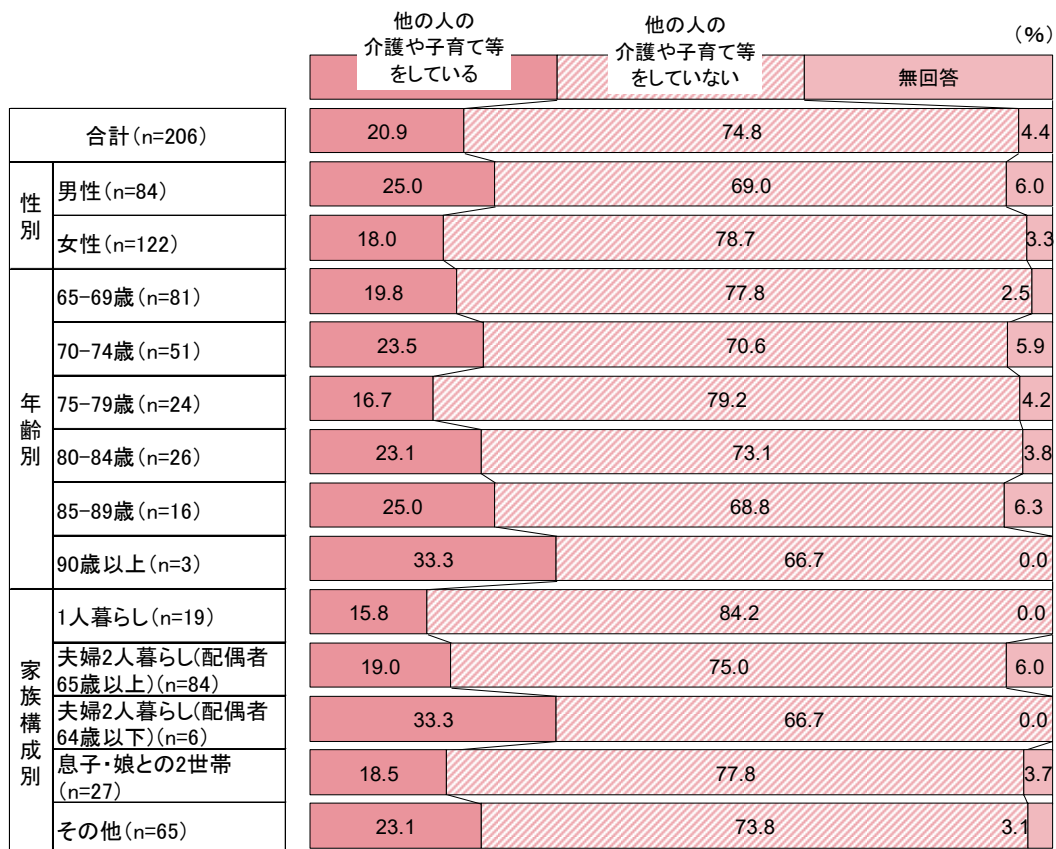
図 3.63 家族、又は身近な方の介護をしているか/性別/年齢別/家族構成別



問 32-1 【現在、介護をしている方】今介護している人以外に他の人の介護や子育て等
 をしているか

「他の人の介護や子育て等をしている」割合は 20.9%となっています。
 性別では、男性は「他の人の介護や子育て等をしている」は 25.0%と、女性と比べて7ポイント高くなっています。

図 3.64 今介護している人以外に他の人の介護や子育て等をしているか
 /性別/年齢別/家族構成別



問 32-2 【他の人の介護や子育て等をしている方】介護される人及び子ども等全員とその人数

今介護している人以外の対象としては、「親」が 39.5%と最も高く、次いで「配偶者」が 23.3%、「子」が 18.6%となっています。なお、「その他」も 39.5%となっています。

図 3.65 介護される人及び子ども等全員とその人数（いくつでも可）

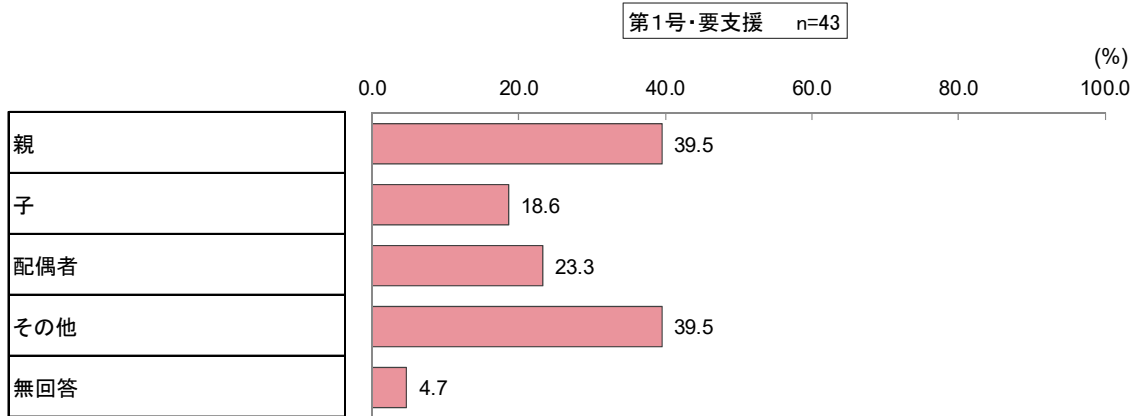


図 3.66 介護される人及び子ども等全員とその人数（いくつでも可）/性別/年齢別/家族構成別

単位: %

項目		回答者数 (人)	親	子	配偶者	その他	無回答
全体		43	39.5	18.6	23.3	39.5	4.7
性別	男性	21	42.9	9.5	23.8	33.3	4.8
	女性	22	36.4	27.3	22.7	45.5	4.5
年齢別	65-69 歳	16	62.5	6.3	6.3	56.3	6.3
	70-74 歳	12	58.3	25.0	16.7	25.0	8.3
	75-79 歳	4	0.0	25.0	25.0	75.0	0.0
	80-84 歳	6	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0
	85-89 歳	4	0.0	50.0	25.0	0.5	0.0
	90 歳以上	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
家族構成別	1 人暮らし	3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3
	夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)	16	31.3	25.0	37.5	31.3	0.0
	夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	息子・娘との 2 世帯	5	20.0	0.0	40.0	60.0	20.0
	その他	15	53.3	13.3	6.7	53.3	0.0

今介護している人以外の対象として「親」をあげた人で、具体的な人数の回答のあった16人の平均人数は1.1人となっています。「子」の場合は平均人数1.0人、「その他」は平均人数1.9人となっています。

図 3.67 介護される人及び子ども等全員とその人数（平均人数）

項目	回答者数(人)	平均人数
親	16	1.1
子	8	1.0
その他	17	1.9

※ その他 抜粋 孫(7件)、姉(5件)、友人など

今介護している人以外の対象として、「親」、「配偶者」、「子」、「その他」をあげた人について、介護や子育てをしている人数の合計をみると、「1人」が51.2%とほぼ半数ですが、「2人」が25.6%、「3人」が9.3%、「4人」という人も7.0%となっています。全体の平均人数は1.7人となっています。

図 3.68 介護される人及び子ども等全員とその人数

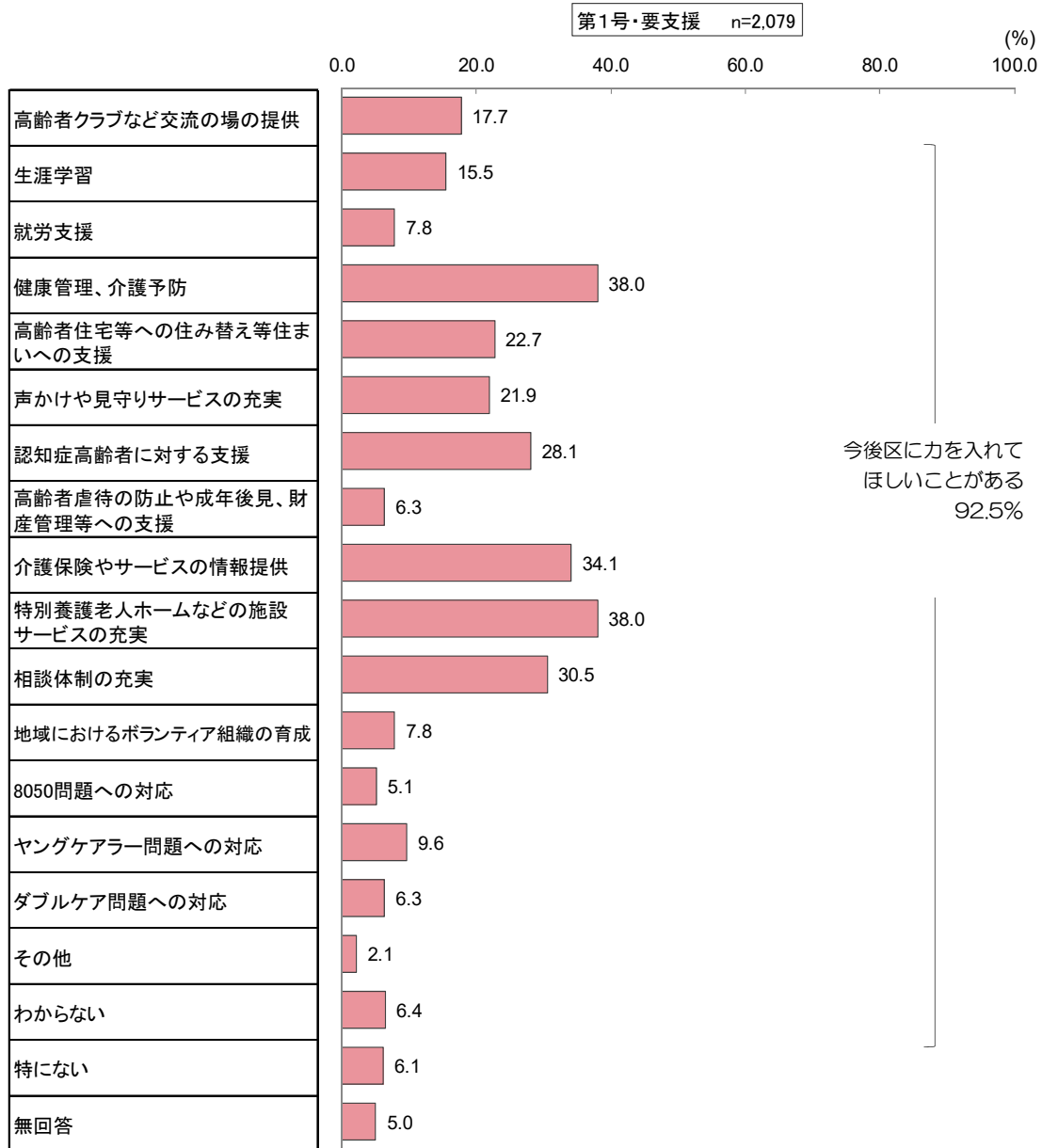
単位：%

項目	回答者数(人)	1人	2人	3人	4人	無回答	平均人数
介護される人及び子ども等の人数	43	51.2	25.6	9.3	7.0	7.0	1.7

問 33 高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと

区に力を入れてほしい施策や事業は、「健康管理、介護予防」と「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が38.0%と最も高く、次いで「介護保険やサービスの情報提供」が34.1%となっています。

図 3.69 高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと（5つまで可）



※ 「今後区に力を入れてほしいことがある」=100%－「わからない」－「特にない」－「無回答」

(注) 8050 問題とは……………80 代の親と 50 代の子の親子関係を例えとして、親の高齢化や子どもの引きこもりの長期化に伴い、収入や介護などに関する問題が生じ、生活が困難な状態になること。

ヤングケアラー問題とは…子どもが家族の介護を行うことで重い負担を負い、子ども自身に影響を及ぼす問題。

ダブルケア問題とは……………高齢化、核家族化等により、子育て等と同時に介護を行うことで負担が増す問題。

性別では、男性は「健康管理、介護予防」が42.2%と女性と比べて7ポイントほど高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳は「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が40%以上と高く、「認知症高齢者に対する支援」も65～79歳で30%前後と他の年齢と比べて高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域についても「健康管理、介護予防」や「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯では、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が最も高く、「高齢者住宅等への住み替え等住まいへの支援」が28.5%と他の家族構成と比べて高くなっています。

図 3.70 高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと（5つまで可）
/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

単位：%

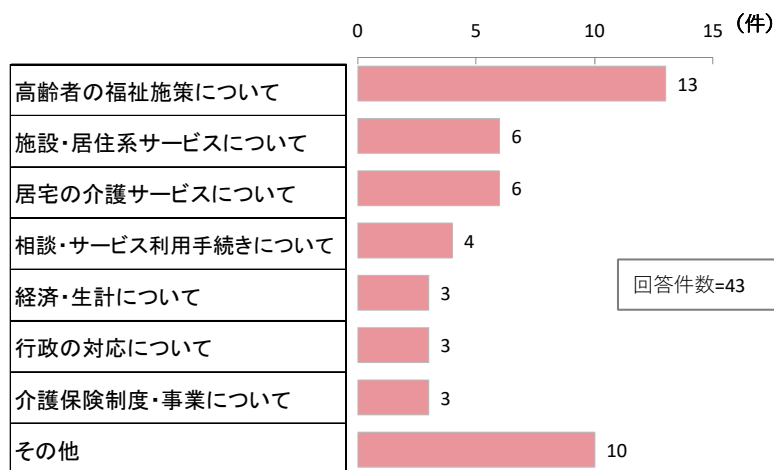
項目		回答者数（人）	高齢者クラブなど交流の場の提供	生涯学習	就労支援	健康管理、介護予防	支援 み替え等住まいへの住	高齢者住宅等への住	声かけや見守りサービス の充実	認知症高齢者に対する支援	高齢者虐待の防止や 成年後見、財産管理等 への支援	介護保険やサービスの 情報提供	特別養護老人ホーム などの施設サービス の充実
全体		2,079	17.7	15.5	7.8	38.0	22.7	21.9	28.1	6.3	34.1	38.0	
性別	男性	905	19.8	15.2	8.7	42.2	23.5	19.8	28.6	5.7	32.3	36.0	
	女性	1,174	16.1	15.8	7.1	34.8	22.1	23.6	27.7	6.6	35.4	39.4	
年齢別	65-69歳	585	16.8	17.6	13.8	38.8	26.0	21.4	33.2	7.5	38.1	43.9	
	70-74歳	491	17.1	17.5	9.0	35.0	25.5	22.0	29.1	7.3	34.4	40.9	
	75-79歳	365	21.9	15.1	6.0	38.6	22.5	25.5	30.1	5.2	35.6	35.9	
	80-84歳	328	15.9	11.9	3.4	42.1	18.3	17.4	22.6	5.5	29.6	29.6	
	85-89歳	193	18.7	13.0	0.5	37.8	18.1	27.5	20.2	4.1	26.9	33.2	
	90歳以上	57	15.8	10.5	0.0	36.8	10.5	17.5	21.1	5.3	26.3	31.6	
圏域別	富坂地区	670	20.7	14.8	6.4	39.0	19.1	21.9	26.0	6.1	33.4	37.3	
	大塚地区	454	16.5	18.7	9.7	39.2	24.9	20.5	25.8	5.7	34.1	37.9	
	本富士地区	457	16.0	16.4	6.1	37.0	21.9	21.0	31.9	7.4	32.6	37.0	
	駒込地区	498	16.3	12.9	9.4	36.7	26.3	24.1	29.5	5.8	36.1	39.8	
家族構成別	1人暮らしの世帯	498	14.5	15.3	8.6	31.9	28.5	24.7	17.9	7.6	25.3	35.9	
	高齢者のみ世帯 （1人暮らしを除く）	872	18.5	16.1	7.7	43.0	22.0	22.0	33.7	5.7	38.4	39.3	
	その他の世帯	668	19.0	14.8	7.3	36.5	19.2	20.1	28.4	6.0	34.4	37.6	

項目		回答者数（人）	相談体制の充実	地域におけるボランティア組織の育成	8050問題への対応	ヤングケアラー問題への対応	ダブルケア問題への対応	その他	わからない	特にない	無回答
全体		2,079	30.5	7.8	5.1	9.6	6.3	2.1	6.4	6.1	5.0
性別	男性	905	29.3	6.9	4.9	6.6	5.1	1.8	7.5	6.9	4.4
	女性	1,174	31.5	8.5	5.2	11.8	7.2	2.3	5.6	5.5	5.4
年齢別	65-69歳	585	33.5	8.4	6.7	11.6	7.7	2.4	7.0	4.8	2.1
	70-74歳	491	31.6	7.5	5.5	12.2	9.2	2.6	5.9	3.9	3.7
	75-79歳	365	30.4	9.6	3.6	7.9	4.4	1.4	4.4	7.1	5.8
	80-84歳	328	25.0	6.7	4.0	7.9	4.6	1.2	6.4	9.8	7.3
	85-89歳	193	34.7	6.2	2.1	5.2	2.6	1.6	6.2	7.3	8.8
	90歳以上	57	19.3	8.8	7.0	5.3	5.3	3.5	12.3	12.3	7.0
圏域別	富坂地区	670	30.4	6.7	3.9	8.7	5.2	1.8	6.7	7.2	4.3
	大塚地区	454	31.1	7.5	5.9	9.3	7.0	3.3	7.0	5.9	4.4
	本富士地区	457	27.4	7.9	4.6	9.2	6.6	1.3	5.9	6.1	7.0
	駒込地区	498	33.1	9.4	6.2	11.4	6.6	2.0	6.0	4.8	4.4
家族構成別	1人暮らしの世帯	498	29.7	6.4	4.0	5.4	3.8	1.8	8.4	7.4	5.2
	高齢者のみ世帯 （1人暮らしを除く）	872	34.3	7.6	3.0	8.3	6.2	1.5	5.5	5.3	4.4
	その他の世帯	668	26.8	9.4	8.2	14.8	8.4	3.0	6.1	6.4	5.1

高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと「その他」自由記述

高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいことの自由記述の意見では、「高齢者の福祉施策について」が13件、「施設・居住系サービスについて」、「居宅の介護サービスについて」が6件となっています。また、「その他」の意見・要望等が10件となっています。

図 3.71 高齢者施策、介護保険事業について、今後区に力を入れてほしいこと（5つまで可）
（自由記述）



主な記述

1. 高齢者の福祉施策について 13件

- ◇認知症高齢者が社会活動ができるシステムの構築をお願いします。
- ◇将来身寄りがなくなるので、安心できる成年後見人制度を充実して欲しいです。
- ◇介護予防体操の会場をもっと増やしてほしい（歩いて通える場所）です。介護認定を受けていなくても会場まで1人で通えないこともあります。つきそいは認めてほしいです。送迎があると助かります。

2. 施設・居住系サービスについて 6件

- ◇低所得者の入れる老人ホームを作ってくださいと思います。
- ◇賃借住宅は家賃が高いです。現住宅に住むのに年齢で入れる所がありませんでした。区であっせん出来る所はたった一軒、2ヶ月以上探してやっと入れました。もっとシルバーピアのような住宅を増やして頂きたいです。有料老人ホームは高くて入れません。

3. 居宅の介護サービスについて 6件

- ◇日常的にヘルパーさんにお世話になっていますが、人によって力量に大変差があるように思います。ヘルパーさんへの賃金などもupし、より充実した介護を受けられるとよいなと思います。
- ◇自宅で終末を迎える事が出来る体制を充実してほしいです。訪問医師や看護婦さんや見守る人などチームをくんで巡回してほしいです。

4. 相談・サービス利用手続きについて 4件

◇多重介護などの負担に対するサポートの充実してほしいです。ストレス軽減のため悩みを聴くなどしてほしいと思います。

5. 経済・生計について 3件

◇アクティブに生きていくための収入と支出のズレが悩ましいです。

6. 行政の対応について 3件

◇介護施設の違い（老人健康センター、特養ホーム、グループホーム）などについて、介護に関する詳細なホームページがあったら良いと思います。要介護いくつから入居できるのか、医師は常駐しているのか、かかる費用はどのくらいなのか、など知りたいです。

7. 介護保険制度・事業について 3件

◇帯に短し、たすきに長しで介護認定を受けていても利用できるサービスがありません。また必要なサービスは利用できません。

8. その他 10件

◇健康に生き抜く為には、各人の努力も必要と思います。出来ているものに参加するのではなく、自分達で作り上げていくという姿勢が持てるようになる分野があると良いように思います

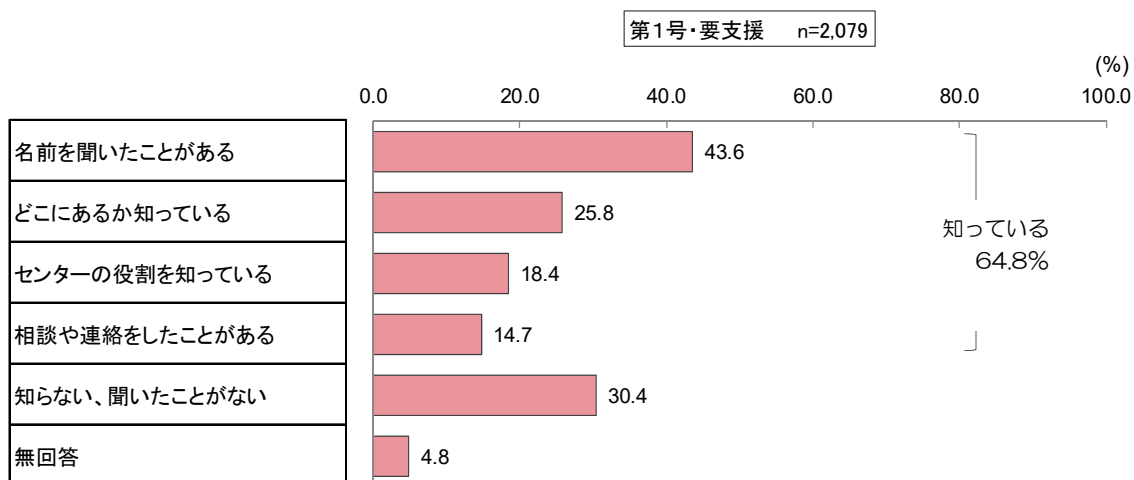
◇高齢者のみの施設ではなく、保育園とか、いろいろな年代がかかわっているような施設があると良いと思います。自然とコミュニケーションが生まれるような、今はスマホにより、コミュニケーション不足です。

◇小・中・高校生への教育。若い時からの教育・健康に対する知識・意識が重要です。年をとってから急に運動する習慣に変わりません。よって若い時から栄養バランスの良い食事、スポーツをとり入れた生活をするよう教育してはどうでしょうか。

問 34 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度

高齢者あんしん相談センターを知っている人は 64.8%で、「名前を聞いたことがある」が 43.6%と最も高く、次いで「どこにあるか知っている」が 25.8%、「センターの役割を知っている」が 18.4%となっています。

図 3.72 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度（いくつでも可）



※ 「知っている」=100%－「知らない、聞いたことがない」－「無回答」

性別では、男性は「知らない、聞いたことがない」が38.9%と女性と比べて15ポイント高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳で「知らない、聞いたことがない」が高く、35%以上となっています。

圏域別にみると、大塚地区で「知らない、聞いたことがない」が36.1%と高くなっています。

家族構成別にみると、高齢者のみ世帯（1人暮らしを除く）で「知らない、聞いたことがない」が34.9%となっています。

図 3.73 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

単位：%

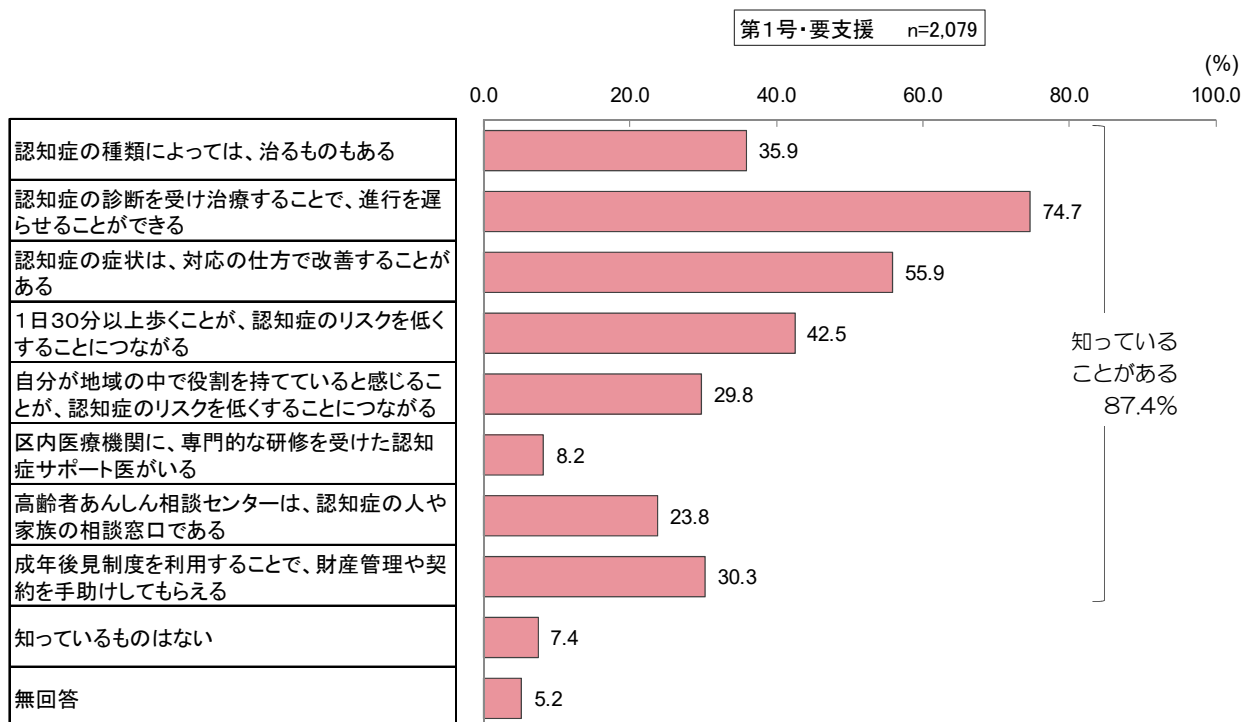
項目		回答者数（人）	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答
全体		2,079	43.6	25.8	18.4	14.7	30.4	4.8
性別	男性	905	37.7	21.2	15.8	11.2	38.9	4.6
	女性	1,174	48.1	29.3	20.4	17.4	23.9	4.9
年齢別	65-69歳	585	38.5	19.8	15.6	14.7	39.5	1.9
	70-74歳	491	42.8	22.2	17.3	11.8	35.4	5.7
	75-79歳	365	49.9	30.1	18.9	12.1	24.1	6.0
	80-84歳	328	43.6	32.3	20.4	15.5	24.7	4.9
	85-89歳	193	48.7	36.3	24.9	22.8	16.6	6.2
	90歳以上	57	40.4	22.8	19.3	24.6	21.1	8.8
圏域別	富坂地区	670	49.6	24.5	18.8	14.5	27.6	3.7
	大塚地区	454	38.5	25.6	17.0	13.2	36.1	3.7
	本富士地区	457	43.3	23.0	17.9	13.1	30.6	6.8
	駒込地区	498	40.4	30.3	19.7	17.7	28.9	5.2
家族構成別	1人暮らしの世帯	498	44.0	27.5	18.7	17.5	25.9	6.0
	高齢者のみ世帯 （1人暮らしを除く）	872	42.3	23.9	17.7	12.2	34.9	4.4
	その他の世帯	668	44.2	26.9	19.0	16.6	28.7	3.7

6 認知症について

問 35 認知症について知っていること

認知症について知っていることとしては、「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が74.7%と最も高く、次いで「認知症の症状は、対応の仕方改善することがある」が55.9%、「1日30分以上歩くことが、認知症のリスクを低くすることにつながる」が42.5%となっています。

図 3.74 認知症について知っていること（いくつでも可）



※ 「知っていることがある」=100%－「知っているものはない」－「無回答」

(注) 認知症サポート医…認知症サポート医養成研修を修了し、「かかりつけ医」への助言等の支援を行うとともに、専門医療機関や高齢者あんしん相談センター等との連携役となる医師

性別では、「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」は男女ともに最も認知度が高くなっていますが、男女で12ポイント以上の差がみられます。

年齢別にみると、「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」、「自分が地域の中で役割を持っていると感じることが、認知症のリスクを低くすることにつながる」、「成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる」は、若い年齢ほど、認知が高い傾向がみられます。

圏域別にみると、大塚地区は、認知度上位2項目である「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」「認知症の症状は、対応の仕方改善することがある」で他の圏域と比べて認知している割合が高くなっています。

図 3.75 認知症について知っていること（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/介護経験の有無別

単位：%

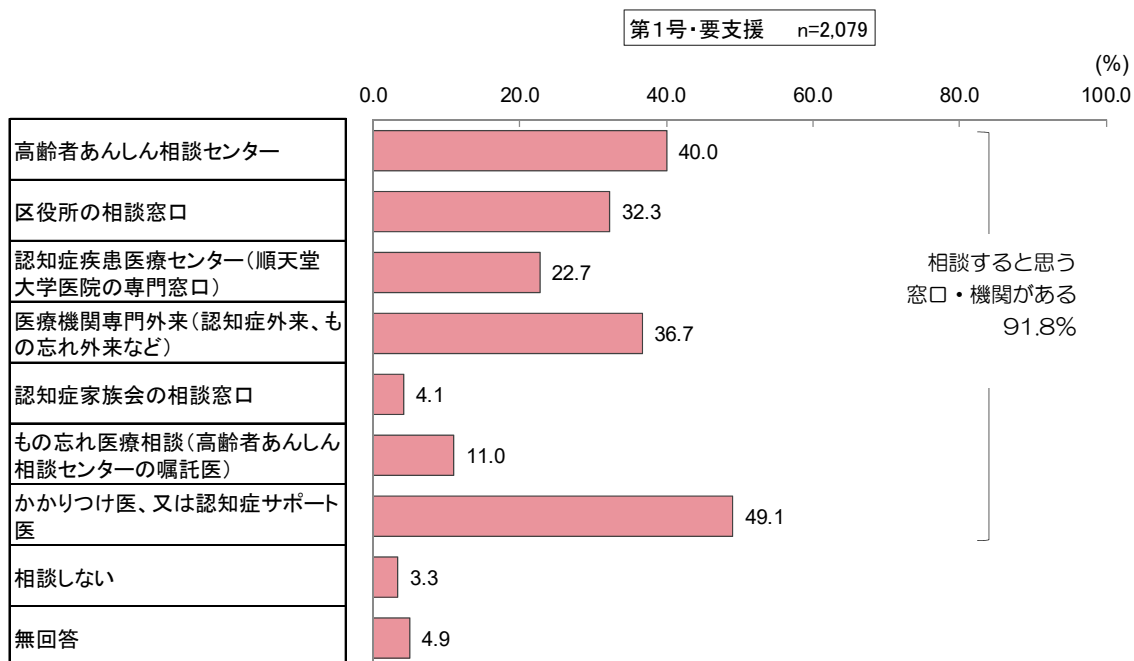
項目		回答者数（人）	認知症の種類によっては、治るものもある	認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる	認知症の症状は、対応の仕方改善することがある	1日30分以上歩くことが、認知症のリスクを低くすることにつながる	自分が地域の中で役割を持っていると感じることが、認知症のリスクを低くすることにつながる	区内医療機関に、専門的な研修を受けた認知症サポート医がいる	高齢者あんしん相談センターは、認知症の人や家族の相談窓口である	成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる	知っているものはない	無回答
全体		2,079	35.9	74.7	55.9	42.5	29.8	8.2	23.8	30.3	7.4	5.2
性別	男性	905	34.0	67.7	52.4	43.4	25.2	8.2	18.0	25.4	12.8	4.8
	女性	1,174	37.4	80.1	58.6	41.8	33.4	8.3	28.2	34.1	3.2	5.6
年齢別	65-69歳	585	38.6	83.1	65.0	41.9	37.4	8.4	25.0	40.2	4.6	2.4
	70-74歳	491	36.0	77.8	56.0	42.4	30.1	7.7	21.6	31.0	7.1	3.3
	75-79歳	365	35.1	77.5	56.7	43.6	28.2	8.2	24.4	29.6	5.8	4.7
	80-84歳	328	34.1	66.2	50.6	43.0	28.7	7.3	22.9	24.4	10.1	8.8
	85-89歳	193	34.2	57.0	39.9	41.5	17.1	10.4	24.9	17.1	12.4	12.4
	90歳以上	57	38.6	59.6	50.9	47.4	17.5	10.5	35.1	19.3	15.8	7.0
圏域別	富坂地区	670	36.0	69.7	51.5	42.5	27.8	8.5	23.9	27.5	9.0	6.3
	大塚地区	454	33.9	80.6	63.7	43.2	34.1	8.4	23.3	33.3	4.8	3.7
	本富士地区	457	37.0	74.8	58.0	44.2	27.6	7.9	22.5	30.0	7.0	6.1
	駒込地区	498	36.7	75.9	52.8	40.4	30.7	8.0	25.1	31.7	7.8	4.4
介護経験の有無別	現在、介護をしている	206	43.2	77.7	63.6	44.7	33.0	10.2	34.5	34.0	5.8	2.9
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	38.8	79.9	61.0	45.3	34.9	9.5	28.8	36.6	3.4	3.9
	介護をしたことがない	1,000	33.3	71.8	51.4	41.1	26.3	6.5	18.1	25.7	11.1	4.6

※ 「介護経験の有無」は、「問32 介護をしているか」の回答結果です。

問 36 認知症相談で利用すると思われる相談窓口

利用すると思われる認知症についての相談窓口は、「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が49.1%と最も高く、次いで「高齢者あんしん相談センター」が40.0%、「医療機関専門外来」が36.7%となっています。

図 3.76 認知症相談で利用すると思われる相談窓口（いくつでも可）



※ 「相談すると思う窓口・機関がある」=100%－「相談しない」－「無回答」

性別では、男性は女性と比べて「区役所の相談窓口」が、女性は男性と比べて「認知症疾患医療センター」「医療機関専門外来」「もの忘れ医療相談」が5ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、70歳以上では、年齢が上がるにつれて「高齢者あんしん相談センター」が高くなっています。また、「認知症疾患医療センター」と「医療機関専門外来」は若い年齢で割合が高くなる傾向があります。

圏域別にみると、いずれの圏域においても「かかりつけ医、又は認知症サポート医」の割合が最も高くなっています。

介護経験の有無別にみると、「高齢者あんしん相談センター」は、介護経験によって利用意向に差がみられます。

図 3.77 認知症相談で利用すると思われる相談窓口（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/介護経験の有無別

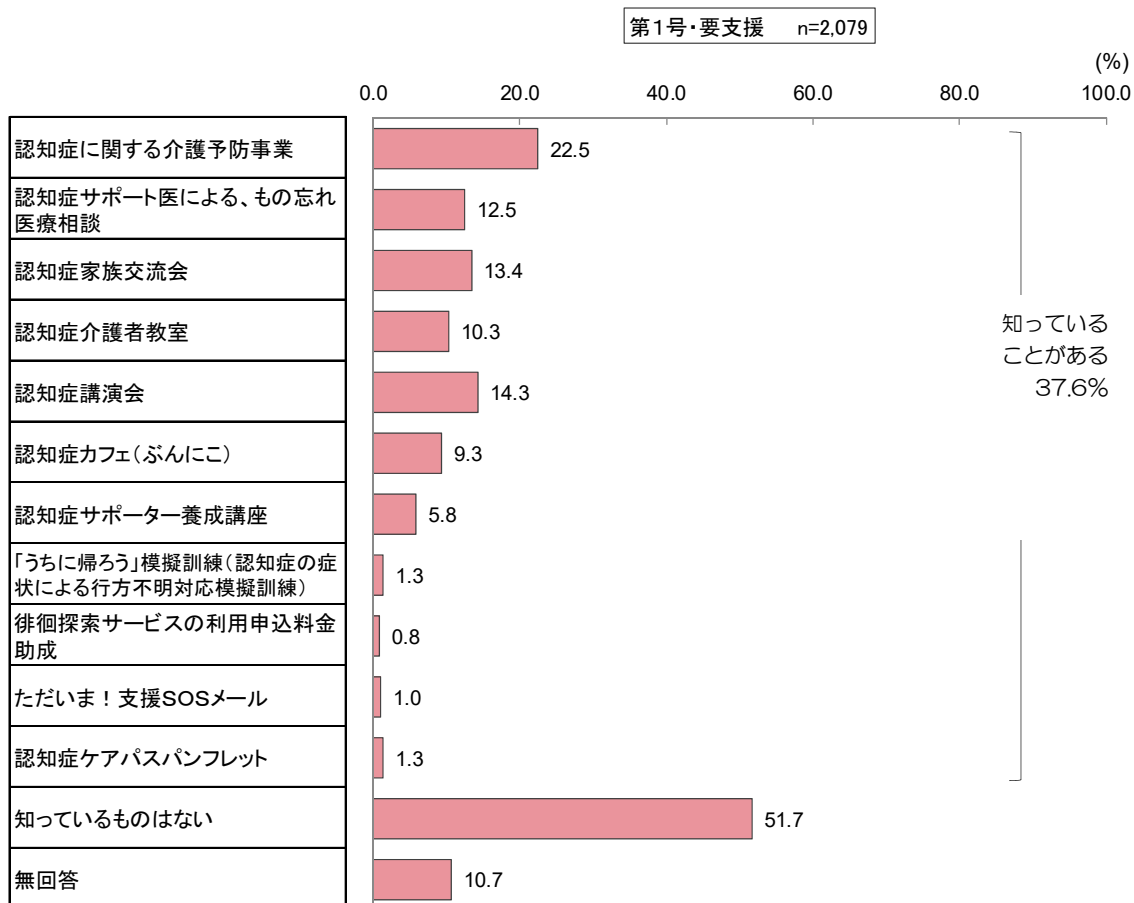
単位：%

項目		回答者数（人）	高齢者あんしん相談センター	区役所の相談窓口	認知症疾患医療センター（順天堂大学医院の専門窓口）	医療機関専門外来（認知症外来、もの忘れ外来など）	認知症家族会の相談窓口	もの忘れ医療相談（高齢者あんしん相談センター）の嘱託医	かかりつけ医、又は認知症サポート医	相談しない	無回答
全体		2,079	40.0	32.3	22.7	36.7	4.1	11.0	49.1	3.3	4.9
性別	男性	905	38.9	36.0	19.6	31.3	3.1	7.8	48.3	5.4	5.0
	女性	1,174	40.8	29.5	25.0	41.0	4.9	13.5	49.7	1.6	4.9
年齢別	65-69歳	585	39.0	35.4	26.2	45.0	4.3	12.3	45.6	1.9	3.8
	70-74歳	491	37.1	32.2	20.8	43.0	3.7	11.6	47.9	3.1	4.9
	75-79歳	365	40.0	29.9	27.9	37.8	6.0	12.1	47.7	4.1	4.7
	80-84歳	328	42.1	31.7	17.4	25.3	4.6	8.5	56.1	3.7	5.8
	85-89歳	193	46.1	31.6	17.1	20.7	2.1	8.8	56.0	4.7	4.1
	90歳以上	57	50.9	33.3	10.5	22.8	1.8	12.3	47.4	7.0	8.8
圏域別	富坂地区	670	40.3	34.0	21.8	31.6	5.4	11.8	50.0	3.3	4.2
	大塚地区	454	37.2	29.5	27.1	40.7	2.6	10.4	47.1	3.7	4.2
	本富士地区	457	38.7	35.4	25.8	38.9	5.3	10.3	46.6	3.3	5.9
	駒込地区	498	43.2	29.7	16.9	38.0	2.6	11.2	51.8	2.8	5.6
介護経験の有無別	現在、介護をしている	206	53.4	30.1	22.3	37.4	6.3	12.1	51.5	2.9	2.9
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	43.6	30.8	24.0	43.3	4.3	12.9	52.6	2.1	2.1
	介護をしたことがない	1,000	35.1	35.3	22.4	32.8	3.3	9.6	46.6	4.4	5.5

問 37 認知症に関する区の事業の認知度

認知症に関する区の事業で知っているものがある割合は37.6%で、「認知症に関する介護予防事業」が22.5%と最も高く、次いで「認知症講演会」が14.3%、「認知症家族交流会」が13.4%となっています。また、「知っているものがない」は51.7%です。

図 3.78 認知症に関する区の事業の認知度（いくつでも可）



※ 「知っていることがある」=100%－「知っているものはない」－「無回答」

性別では、女性は男性と比べて「認知症家族交流会」の割合が10ポイントほど高くなっています。
 年齢別にみると、「知っているものはない」と回答した割合は、65～79歳、85～89歳で半数以上となっています。

図 3.79 認知症に関する区の事業の認知度（いくつでも可）
 /性別/年齢別

単位：%

項目		回答者数（人）	防事業 認知症に関する介護予 防事業	認知症サポーター医によ る、もの忘れ医療相談	認知症家族交流会	認知症介護者教室	認知症講演会	認知症カフェ（ふんに こ）	認知症サポーター養成 講座
全体		2,079	22.5	12.5	13.4	10.3	14.3	9.3	5.8
性別	男性	905	20.3	11.4	7.6	7.7	11.2	4.4	3.3
	女性	1,174	24.2	13.3	17.8	12.4	16.8	13.0	7.8
年齢別	65-69歳	585	25.3	11.6	16.9	13.2	15.6	12.5	8.9
	70-74歳	491	20.2	12.0	15.3	9.0	13.0	9.8	6.1
	75-79歳	365	20.8	12.9	12.1	11.5	15.3	8.5	5.5
	80-84歳	328	24.1	14.0	8.8	8.8	14.9	5.8	2.7
	85-89歳	193	20.2	11.4	8.8	5.7	12.4	5.2	3.1
	90歳以上	57	28.1	15.8	12.3	14.0	15.8	7.0	3.5

項目		回答者数（人）	「うちに帰ろう」模擬訓 練（認知症の症状による 行方不明対応模擬訓練）	徘徊探索サービスの利 用申込料金助成	ただいま！支援SOS メール	認知症ケアパスパンフ レット	知っているものはない	無回答
全体		2,079	1.3	0.8	1.0	1.3	51.7	10.7
性別	男性	905	1.1	0.9	0.7	1.4	60.8	9.3
	女性	1,174	1.4	0.8	1.3	1.1	44.6	11.8
年齢別	65-69歳	585	1.9	0.9	1.4	1.5	54.0	4.8
	70-74歳	491	0.4	0.6	0.6	0.4	53.0	9.8
	75-79歳	365	0.8	1.1	1.6	1.1	52.6	11.0
	80-84歳	328	2.1	1.2	0.6	0.6	48.2	14.9
	85-89歳	193	1.6	0.0	1.0	2.1	51.3	19.7
	90歳以上	57	0.0	1.8	0.0	5.3	36.8	17.5

圏域別にみると、大塚地区で「知っているものはない」と回答する割合が57.5%と他の圏域と比べて高くなっています。

介護経験の有無別にみると、「知っているものはない」は介護経験の有無で差がみられ、介護をしたことがない人では「知っているものはない」が60.8%となっています。

図 3.80 認知症に関する区の事業の認知度（いくつでも可）
/圏域別/介護経験の有無別

単位：%

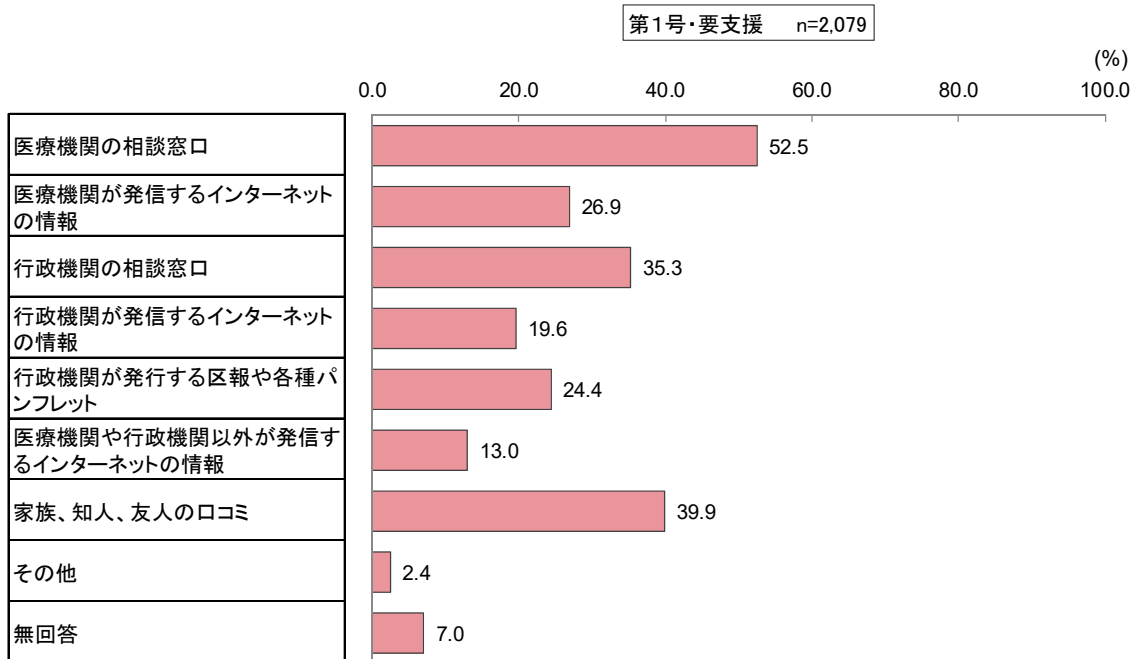
項目	回答者数（人）	防事業 認知症に関する介護予	る、もの忘れ医療相談 認知症サポート医によ	認知症家族交流会	認知症介護者教室	認知症講演会	こ） 認知症カフェ（ふんに	講座 認知症サポーター養成	
全体	2,079	22.5	12.5	13.4	10.3	14.3	9.3	5.8	
圏域別	富坂地区	670	23.1	13.3	12.5	9.7	15.2	9.0	5.4
	大塚地区	454	19.6	12.3	11.2	8.8	12.3	8.6	6.6
	本富士地区	457	23.9	12.3	15.1	11.8	14.9	10.1	5.9
	駒込地区	498	23.1	11.6	14.9	11.2	14.5	9.6	5.6
介護経験の有無別の	現在、介護をしている	206	31.1	18.9	22.8	15.0	18.0	15.5	7.3
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	25.3	13.9	17.8	12.9	17.2	12.1	8.3
	介護をしたことがない	1,000	19.1	10.2	8.0	7.6	11.6	5.9	3.6

項目	回答者数（人）	「うちに帰ろう」模範訓練（認知症の症状による行方不明対応模擬訓練）	徘徊探索サービスの利用申込料金助成	ただいま！支援SOSメール	認知症ケアパスパンフレット	知っているものはない	無回答	
全体	2,079	1.3	0.8	1.0	1.3	51.7	10.7	
圏域別	富坂地区	670	2.1	0.4	1.0	1.3	49.0	12.2
	大塚地区	454	0.7	0.9	0.2	0.7	57.5	7.5
	本富士地区	457	0.9	0.9	1.3	1.5	49.5	11.8
	駒込地区	498	1.0	1.2	1.4	1.4	52.0	10.6
介護経験の有無別の	現在、介護をしている	206	1.0	1.9	0.5	0.5	42.7	8.3
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	1.8	0.5	1.4	1.1	45.5	9.8
	介護をしたことがない	1,000	1.0	0.9	0.7	1.5	60.8	9.0

問 38 認知症についての情報収集の方法

認知症についての情報収集方法は、「医療機関の相談窓口」が52.5%と最も高く、次いで「家族、知人、友人の口コミ」が39.9%、「行政機関の相談窓口」が35.3%となっています。

図 3.81 認知症についての情報収集の方法（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 公開講座、本、かかりつけ医に相談（11件）、インターネットで検索（3件）

性別では、女性は男性と比べて「家族、知人、友人の口コミ」の割合が10ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、若い年代ほどインターネットで情報を収集する割合が高くなっています。

圏域別にみると、大塚地区でインターネットから情報を収集する割合が高くなっています。

介護経験の有無別にみると、「家族、知人、友人の口コミ」は介護経験の有無によって差がみられ、現在、介護をしている人では47.6%と高くなっています。

図 3.82 認知症についての情報収集の方法（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/介護経験の有無別

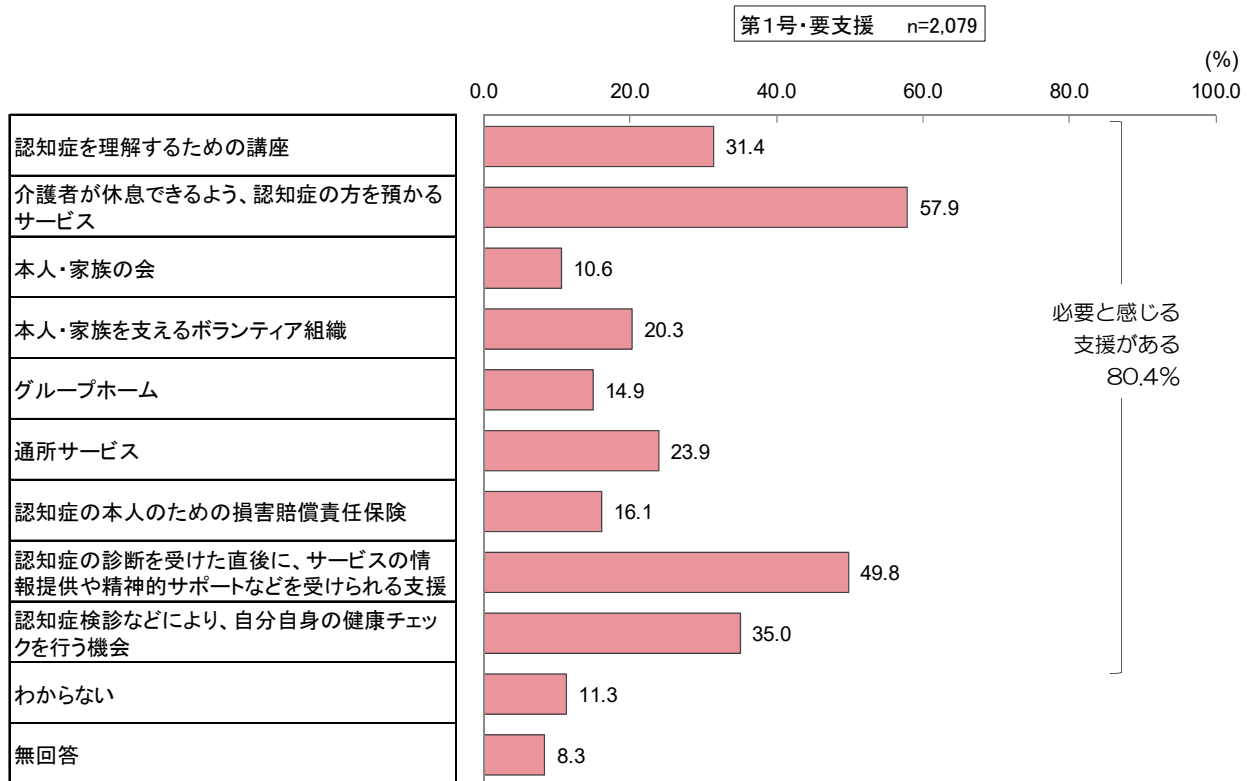
単位：%

項目		回答者数（人）	医療機関の相談窓口	医療機関が発信するインターネットの情報	行政機関の相談窓口	行政機関が発信するインターネットの情報	行政機関が発信する区報や各種パンフレット	医療機関や行政機関以外が発信するインターネットの情報	家族、知人、友人の口コミ	その他	無回答
全体		2,079	52.5	26.9	35.3	19.6	24.4	13.0	39.9	2.4	7.0
性別	男性	905	50.2	27.8	37.0	21.2	21.8	14.0	33.1	3.4	6.9
	女性	1,174	54.3	26.2	33.9	18.3	26.5	12.3	45.1	1.6	7.1
年齢別	65-69歳	585	46.2	45.1	36.6	33.3	24.6	23.4	38.3	2.2	3.8
	70-74歳	491	48.7	29.1	36.0	22.6	25.5	12.8	39.5	1.8	6.7
	75-79歳	365	58.4	19.5	35.9	12.6	27.4	7.7	43.0	1.4	7.4
	80-84歳	328	62.5	14.0	34.8	8.8	24.1	8.2	39.3	4.0	8.8
	85-89歳	193	59.6	7.3	33.2	7.3	19.7	3.1	43.0	3.1	10.4
	90歳以上	57	49.1	8.8	33.3	3.5	17.5	5.3	33.3	7.0	8.8
圏域別	富坂地区	670	53.0	20.4	34.8	16.0	23.7	11.2	41.9	3.3	7.5
	大塚地区	454	49.8	35.5	31.9	25.6	22.9	17.2	37.2	2.2	6.2
	本富士地区	457	51.4	29.5	38.1	18.8	27.6	12.7	37.2	2.2	6.6
	駒込地区	498	55.4	25.5	36.3	19.7	23.9	12.0	42.2	1.6	7.4
介護経験の有無別	現在、介護をしている	206	54.4	27.7	35.9	18.9	19.9	16.0	47.6	2.9	6.3
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	55.5	28.4	36.1	21.1	29.3	13.5	44.9	2.6	4.8
	介護をしたことがない	1,000	51.1	27.1	35.8	19.7	22.1	12.7	36.0	2.3	6.1

問 39 認知症の本人や家族への必要と感じる支援

認知症の本人や家族への必要と感じる支援は、「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が57.9%と最も高く、次いで「認知症の診断を受けた直後に、サービスの情報提供や精神的サポートなどを受けられる支援」が49.8%、「認知症検診などにより、自分自身の健康チェックを行う機会」が35.0%となっています。

図 3.83 認知症の本人や家族への必要と感じる支援（いくつでも可）



※ 「必要と感じる支援がある」=100%－「わからない」－「無回答」

性別では、女性は「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が64.9%と、男性と比べて15ポイント以上高くなっています。

年齢別にみると、65～89歳において、年齢が若いほど「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」を必要と感じる割合が高くなっています。

圏域別にみると、大塚地区で「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が63.4%と他のエリアと比べて高くなっています。

介護経験の有無別にみると、現在介護中の方は「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が73.3%にのぼっています。

図 3.84 認知症の本人や家族への必要と感じる支援（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/介護経験の有無別

単位：%

項目		回答者数（人）	認知症を理解するための講座	介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス	本人・家族の会	本人・家族を支えるボランティア組織	グループホーム	通所サービス	認知症の本人のための損害賠償責任保険	認知症の診断を受けた直後に、サービスの情報提供や精神的サポートなどを受けられる支援	認知症の診断を受けた直後に、自身の健康チェックにより、自分自身の健康チェックを行う機会	わからない	無回答
全体		2,079	31.4	57.9	10.6	20.3	14.9	23.9	16.1	49.8	35.0	11.3	8.3
性別	男性	905	30.1	48.7	9.0	19.2	11.6	17.2	42.7	33.0	16.0	8.8	18.3
	女性	1,174	32.5	64.9	11.8	21.2	17.5	15.2	55.3	36.5	7.6	7.9	28.2
年齢別	65-69歳	585	36.4	69.1	12.8	23.1	22.9	21.9	59.5	36.1	6.0	3.9	34.5
	70-74歳	491	28.7	62.9	8.8	22.0	16.1	16.5	55.0	32.0	9.6	7.3	24.8
	75-79歳	365	30.7	57.8	11.5	18.4	11.2	14.2	46.3	38.1	12.9	7.4	18.9
	80-84歳	328	31.1	48.5	11.0	16.5	8.8	11.3	42.1	40.5	14.9	10.4	16.5
	85-89歳	193	29.0	35.2	6.7	17.6	4.7	11.4	34.2	32.1	17.6	18.1	13.0
	90歳以上	57	28.1	38.6	8.8	19.3	14.0	10.5	35.1	12.3	22.8	21.1	17.5
圏域別	富坂地区	670	31.2	53.4	11.3	18.2	10.9	12.4	44.3	33.6	12.7	8.8	22.4
	大塚地区	454	31.3	63.4	11.7	22.2	18.3	18.5	49.3	36.8	10.1	6.8	24.9
	本富士地区	457	31.1	58.9	10.1	20.8	17.5	16.6	54.3	37.0	9.6	8.5	23.9
	駒込地区	498	32.1	57.8	9.0	21.1	14.9	18.5	53.4	33.3	11.8	8.8	25.1
介護経験別	現在、介護をしている	206	30.6	73.3	13.1	24.3	19.9	17.5	52.9	35.0	7.8	4.9	32.5
	過去に介護をしたことがあるが、今はしていない	793	32.7	65.6	9.8	20.9	18.0	17.0	57.4	38.2	7.2	6.2	30.1
	介護をしたことがない	1,000	32.0	50.8	11.0	20.0	11.9	15.6	44.9	33.8	15.1	8.0	18.4

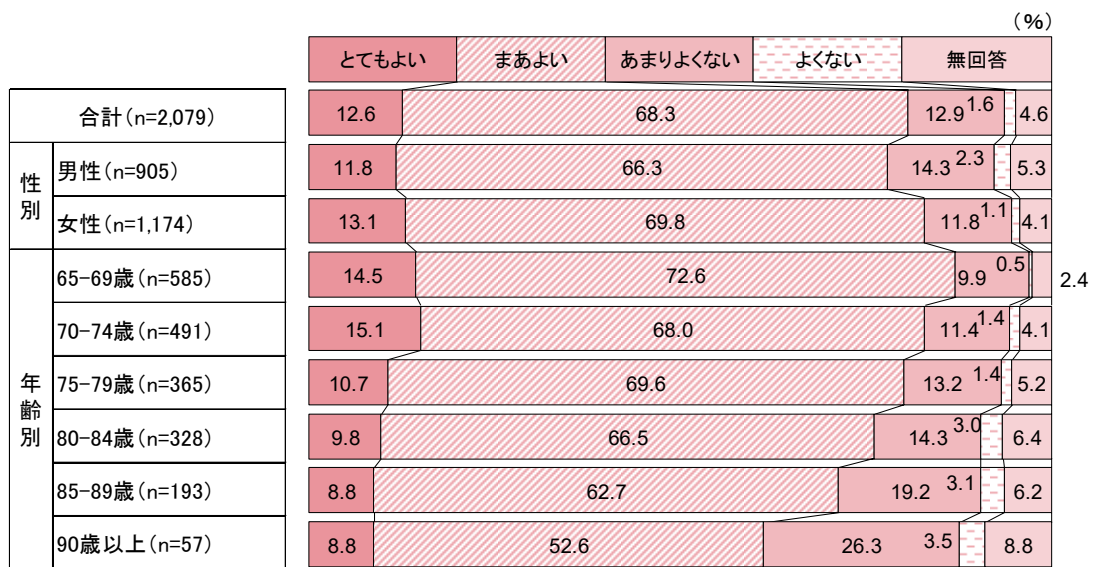
7 健康・介護予防について

問 40 現在の健康状態

現在の健康状態は、「とてもよい」が12.6%、「まあよい」が68.3%、「あまりよくない」が12.9%、「よくない」が1.6%となっています。「とてもよい」「まあよい」を合わせると約8割となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「あまりよくない」「よくない」の割合が高くなっています。

図 3.85 現在の健康状態/性別/年齢別



問 41 現在の幸福感

幸福感について、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点とした場合、「8点」が23.8%と最も多くなっています。また、5点以上が約9割となっています。幸福感の平均値は7.4です。

性別では、9点以上は男性で197人、女性で349人となっています。

年齢別にみると、90歳以上は「10点」が15人に達し、平均値も7.9と高くなっています。

図 3.86 現在の幸福感

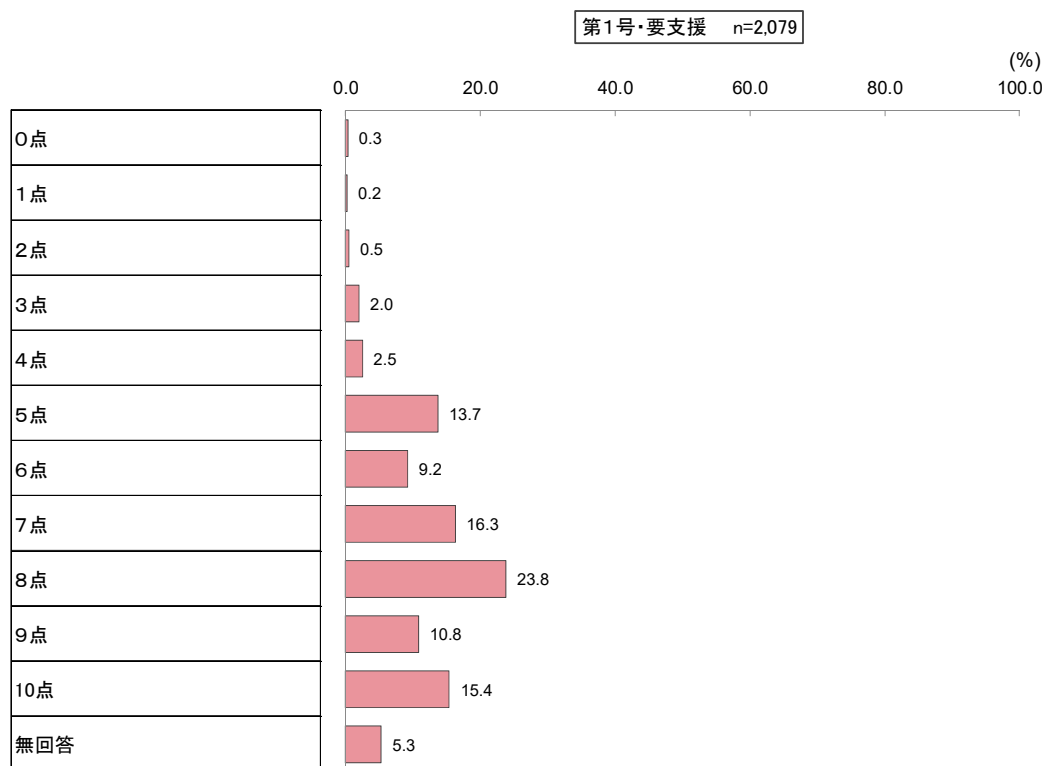


図 3.87 現在の幸福感/性別/年齢別

単位：人

項目		回答者数(人)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	幸福度の平均点
全体		2,079	6	4	11	41	51	285	191	339	494	225	321	111	7.4
性別	男性	905	4	1	6	26	29	139	86	147	209	83	114	61	7.1
	女性	1,174	2	3	5	15	22	146	105	192	285	142	207	50	7.5
年齢別	65-69歳	585	2	1	1	19	11	71	60	98	157	67	82	16	7.4
	70-74歳	491	3	2	4	11	16	60	40	86	126	57	60	26	7.2
	75-79歳	365	0	0	4	2	10	54	41	59	77	41	63	14	7.4
	80-84歳	328	0	0	2	4	6	58	22	50	72	31	55	28	7.4
	85-89歳	193	0	1	0	2	5	27	22	31	35	20	33	17	7.4
	90歳以上	57	0	0	0	1	1	5	5	5	14	6	15	5	7.9

問42・問43 うつ傾向について

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き（2019年10月23日 厚生労働省）」に基づき、「うつ傾向」に該当する高齢者の割合を算出しました。

次の2問中、2問両方に該当の場合、「うつ傾向」に該当します。

- ・問42 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったか → 「はい」
- ・問43 この1か月間、物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがあったか → 「はい」

各設問の結果は次のとおりです。

図 3.88 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったか/認定別

単位：%

項 目		回答者数 (人)	はい	いいえ	無回答
全 体		2,079	35.0	60.7	4.3
認定別	要支援非認定者	1,868	34.4	61.9	3.7
	要支援1・2認定者	132	47.0	47.0	6.1

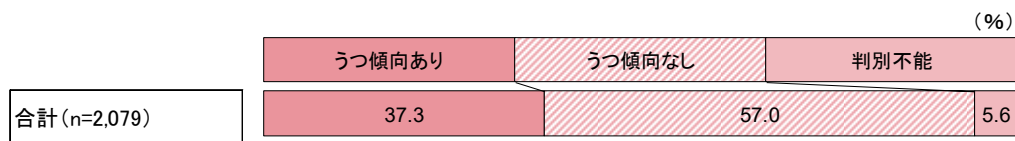
図 3.89 この1か月間、物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがあったか/認定別

単位：%

項 目		回答者数 (人)	はい	いいえ	無回答
全 体		2,079	20.2	74.7	5.1
認定別	要支援非認定者	1,868	18.5	77.1	4.4
	要支援1・2認定者	132	42.4	50.8	6.8

問 42 および問 43 の回答結果より、うつ傾向については、「傾向あり」が 37.3%、「傾向なし」が 57.0%となっています。

図 3.90 うつ傾向



うつ傾向について、要支援非認定者は「傾向あり」が 36.3%となっています。性別では、女性は「傾向あり」が 39.8%と、男性を 8 ポイント上回っています。年齢別にみると、「傾向あり」は 65～69 歳で 39.4%ですが、年齢が上がるにつれ低くなっています。圏域別にみると、大塚地区は「傾向あり」が 41.1%と他の圏域に比べ高くなっています。要支援 1・2 認定者は「傾向あり」が 55.3%で、「傾向なし」より高くなっています。

図 3.91 うつ傾向/性別/年齢別/圏域別
要支援非認定者

要支援 1・2 認定者

単位：%

項目		回答者数 (人)	うつ傾向あり	うつ傾向なし	判別不能
全体		1,868	36.3	58.8	4.8
性別	男性	800	31.8	62.9	5.4
	女性	1,068	39.8	55.8	4.4
年齢別	65-69 歳	559	39.4	58.9	1.8
	70-74 歳	461	37.5	57.5	5.0
	75-79 歳	344	37.2	57.6	5.2
	80-84 歳	275	34.2	59.3	6.5
	85-89 歳	146	30.1	62.3	7.5
	90 歳以上	35	14.3	71.4	14.3
圏域別	富坂地区	577	34.0	60.7	5.4
	大塚地区	421	41.1	54.6	4.3
	本富士地区	419	34.6	60.4	5.0
	駒込地区	451	36.6	59.0	4.4

項目		回答者数 (人)	うつ傾向あり	うつ傾向なし	判別不能
全体		132	55.3	37.1	7.6
性別	男性	68	42.6	45.6	11.8
	女性	64	68.8	28.1	3.1
年齢別	65-69 歳	8	62.5	25.0	12.5
	70-74 歳	13	61.5	23.1	15.4
	75-79 歳	14	64.3	35.7	0.0
	80-84 歳	30	56.7	36.7	6.7
	85-89 歳	39	56.4	38.5	5.1
	90 歳以上	20	40.0	60.0	0.0
圏域別	富坂地区	64	45.3	45.3	9.4
	大塚地区	17	64.7	17.6	17.6
	本富士地区	20	75.0	25.0	0.0
	駒込地区	31	58.1	38.7	3.2

※「要支援非認定者」1,868 人と「要支援認定者」132 人との和は 2,000 人で、全体 2,079 人との差の 79 人は「F1 要支援認定状況」が無回答だった人です。

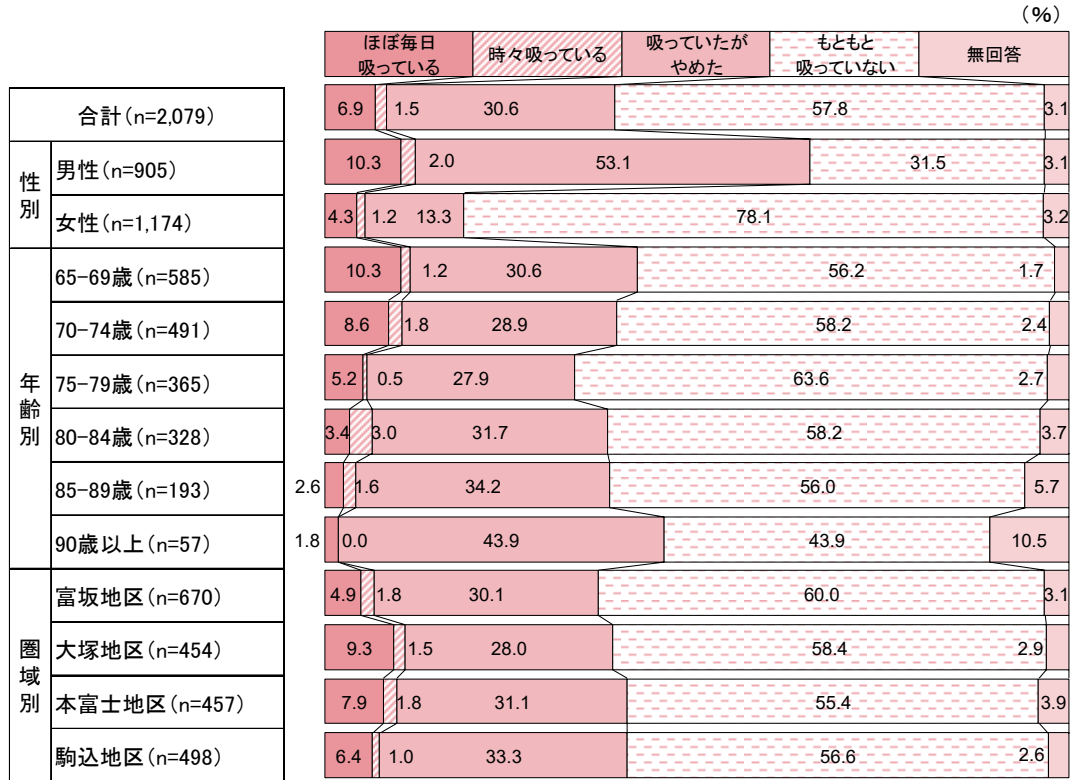
※「要支援 1・2」は 132 人で、「要支援非認定者」の 1,868 人に比べ非常に少ないことを前提に参照してください。

問 44 喫煙状況

喫煙状況は、「ほぼ毎日吸っている」が6.9%、「時々吸っている」が1.5%、「吸っていたがやめた」が30.6%、「もともと吸っていない」が57.8%となっています。

性別では、「ほぼ毎日吸っている」は男性で10.3%、女性で4.3%となっています。「吸っていたがやめた」は男性で53.1%、女性で13.3%となっています。

図 3.92 喫煙状況/性別/年齢別/圏域別



問 45 健康の維持・増進や介護予防のための取り組みの有無

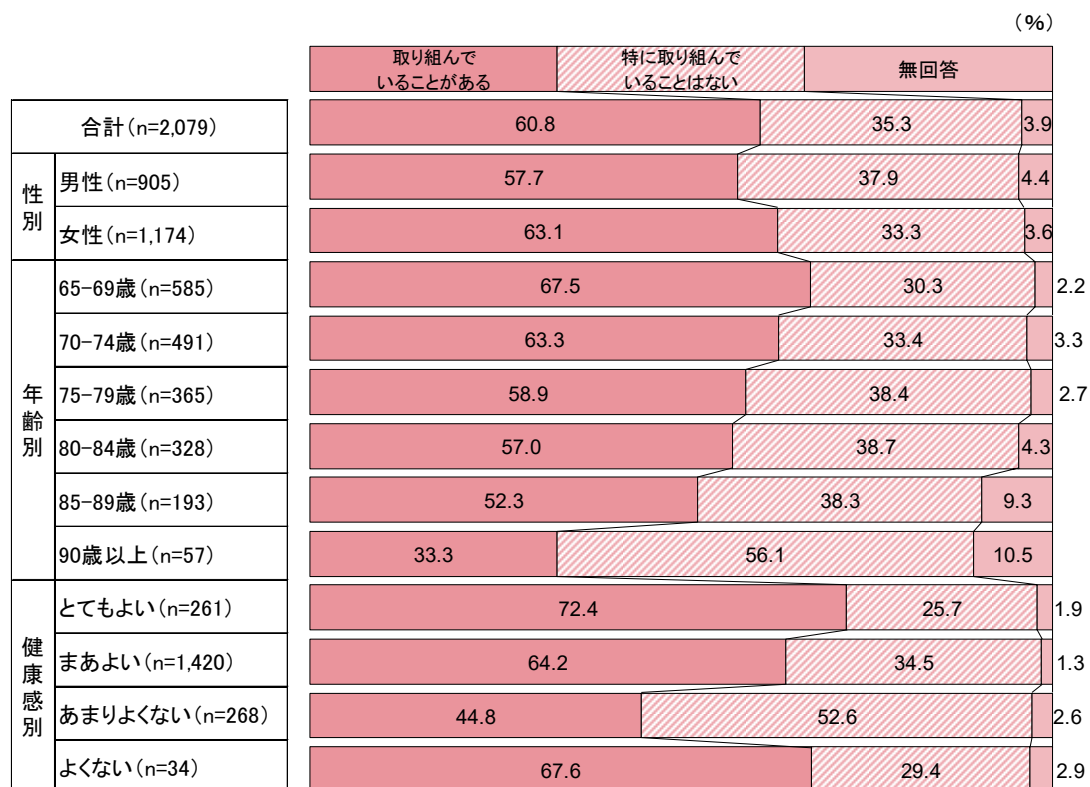
健康の維持・増進や介護予防について、「取り組んでいることがある」が60.8%、「特に取り組んでいることはない」が35.3%となっています。

性別では、「取り組んでいることがある」割合は男性より女性で高くなっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれ、「取り組んでいることがある」割合が低くなっています。

健康感別にみると、「取り組んでいることがある」割合は、「とても良い」で72.4%、「まあよい」で64.2%となっています。

図 3.93 健康の維持・増進や介護予防のための取り組みの有無/性別/年齢別/健康感別



健康の維持・増進や介護予防について、リスク判定別にみると、「取り組んでいることがある」割合は、「運動器の機能低下あり」より「運動器の機能低下なし」の方が高くなっています。

また、「取り組んでいることがある」割合は、「転倒リスクあり」より「転倒リスクなし」で、「閉じこもり傾向あり」より「閉じこもり傾向なし」で、「低栄養状態」より「低栄養状態ではない」で、「口腔機能の低下あり」より「口腔機能の低下なし」で、「手段的ADL4点以下（低下あり）」より「手段的ADL5点（低下なし）」で、「うつ傾向あり」より「うつ傾向なし」で、それぞれ高くなっています。なお、「認知機能の低下あり」（61.3%）と「認知機能の低下なし」（61.5%）は同等となっています。「閉じこもり傾向あり」では「特に取り組んでいることはない」が54.2%と高くなっています。

図 3.94 健康の維持・増進や介護予防のための取り組みの有無/リスク判定別

単位：%

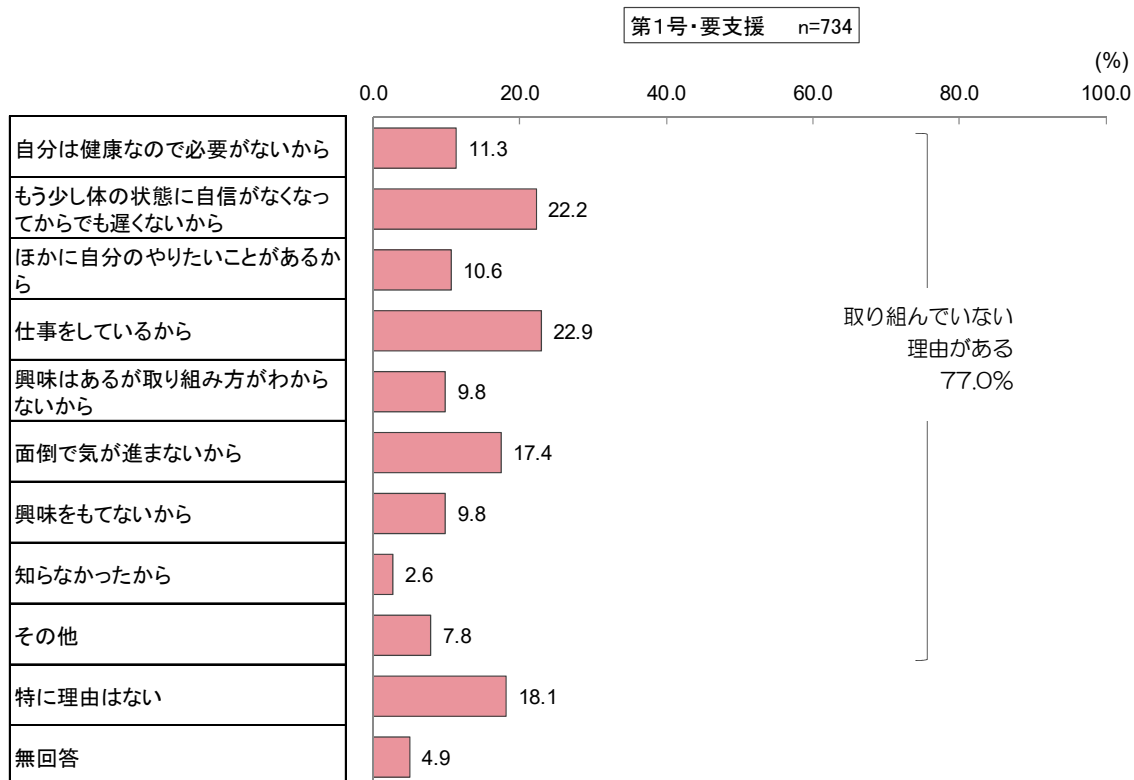
項目		回答者数（人）	取り組んでいることがある	特に取り組んでいることはない	無回答
全 体		2,079	60.8	35.3	3.9
リスク判定別	運動器の機能低下あり	198	50.0	47.0	3.0
	運動器の機能低下なし	1,803	62.7	33.7	3.6
	転倒リスクあり	577	57.2	38.1	4.7
	転倒リスクなし	1,480	62.4	34.1	3.4
	閉じこもり傾向あり	179	40.8	54.2	5.0
	閉じこもり傾向なし	1,878	63.0	33.4	3.6
	低栄養状態	26	57.7	34.6	7.7
	低栄養状態ではない	1,977	61.7	35.1	3.2
	口腔機能の低下あり	234	59.4	36.3	4.3
	口腔機能の低下なし	1,813	61.3	35.2	3.5
	認知機能の低下あり	866	61.3	34.8	3.9
	認知機能の低下なし	1,123	61.5	35.4	3.1
	手段的ADL4点以下（低下あり）	159	49.7	43.4	6.9
	手段的ADL5点（低下なし）	1,862	62.1	34.5	3.4
	うつ傾向あり	776	62.9	35.8	1.3
	うつ傾向なし	1,186	63.2	35.6	1.2

- ※ 「運動器の機能低下あり」「運動器の機能低下なし」は、「問 8 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」をから「問 12 転倒に対する不安」までの回答結果から算出したものです。
- ※ 「転倒リスクあり」「転倒リスクなし」は、「問 11 過去 1 年間に転んだ経験があるか」の回答結果から算出したものです。
- ※ 「閉じこもり傾向あり」「閉じこもり傾向なし」は、「問 13 週に 1 回以上は外出しているか」の回答結果から算出したものです。
- ※ 「低栄養状態」「低栄養状態ではない」は、「問 15 BMI（身長・体重）」と「問 16 食事・栄養、口の健康」の回答結果から算出したものです。
- ※ 「口腔機能の低下あり」「口腔機能の低下なし」は、「問 16 食事・栄養、口の健康」の回答結果から算出したものです。
- ※ 「認知機能の低下あり」「認知機能の低下なし」は、「問 21 物忘れ多いと感じるか」の回答結果に基づいています。
- ※ 「手段的ADL5点」「手段的ADL4点以下」は、「問 22 バスや電車を使って 1 人で外出しているか」から「問 26 自分で預貯金の出し入れをしているか」の回答結果から算出したものです。
- ※ 「うつ傾向あり」「うつ傾向なし」は、「問 42 この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになることがあったか」「問 43 この 1 か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがあったか」の回答結果から算出したものです。

問 46 【健康維持・増進に取り組んでいない方】取り組んでいない主な理由

健康の維持・増進や介護予防のための取り組みを行っていない人にその理由をたずねたところ、具体的な理由をあげた割合は 77.0%で、「仕事をしているから」が 22.9%と最も高く、次いで「もう少し体の状態に自信がなくなっ
てからでも遅くないから」が 22.2%、「面倒で気が進まないから」が 17.4%となっています。「特に理由はない」は 18.1%となっています。

図 3.95 取り組んでいない主な理由（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 健康状態が良くないため、介護をしているため

※ 「取り組んでいない理由がある」=100%－「特に理由はない」－「無回答」

健康の維持・増進や介護予防のための取り組みを行っていない理由について、性別では、男性は「もう少し体の状態に自信がなくなってからでも遅くないから」が最も高く、女性は「仕事をしているから」が最も高くなっています。

年齢別にみると、79歳以下では「仕事をしているから」、80歳以上では「もう少し体の状態に自信がなくなってからでも遅くないから」が最も高くなっています。

健康感別にみると、「あまりよくない」では「面倒で気が進まないから」が最も高くなっています。

図 3.96 取り組んでいない主な理由（いくつでも可）/性別/年齢別/健康感別

単位：%

項目		回答者数（人）	自分健康なので必要がないから	もう少し体の状態に自信がなくなつてからでも遅くないから	ほかに自分のやりたいことがあるから	仕事をしているから	興味はあるが取り組み方がわからないから	面倒で気が進まないから	興味をもてないから	知らなかったから	その他	特に理由はない	無回答
全体		734	11.3	22.2	10.6	22.9	9.8	17.4	9.8	2.6	7.8	18.1	4.9
性別	男性	343	12.2	25.4	7.6	23.3	9.3	19.8	9.6	3.8	5.5	19.2	7.3
	女性	391	10.5	19.4	13.3	22.5	10.2	15.3	10.0	1.5	9.7	17.1	2.8
年齢別	65-69歳	177	6.8	22.6	11.3	35.0	11.3	22.6	13.6	2.8	8.5	16.9	1.1
	70-74歳	164	9.1	22.6	14.6	28.7	9.1	18.9	9.8	0.6	3.7	18.9	6.1
	75-79歳	140	12.9	22.9	10.7	25.0	10.0	15.0	7.1	2.1	11.4	12.9	4.3
	80-84歳	127	18.9	19.7	6.3	8.7	8.7	18.1	11.8	3.9	5.5	18.9	7.1
	85-89歳	74	10.8	25.7	8.1	10.8	12.2	12.2	6.8	1.4	14.9	20.3	6.8
	90歳以上	32	6.3	28.1	12.5	3.1	3.1	3.1	3.1	9.4	6.3	31.3	6.3
健康感別	とてもよい	67	38.8	23.9	10.4	41.8	3.0	10.4	6.0	1.5	3.0	11.9	4.5
	まあよい	490	10.6	25.7	13.5	22.4	10.0	14.9	8.8	2.0	6.9	18.6	3.9
	あまりよくない	141	1.4	13.5	2.8	15.6	14.2	26.2	13.5	5.0	12.8	19.9	5.7
	よくない	10	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	50.0	30.0	10.0	20.0	10.0	0.0

取り組んでいない理由について、リスク判定別にみると、「運動器の機能低下あり」、「閉じこもり傾向あり」、「口腔機能の低下あり」、「手段的 ADL 4 点以下（低下あり）」、「うつ傾向あり」では「面倒で気が進まないから」が高くなっています。

「運動器の機能低下なし」は「運動器の機能低下あり」に比べ、「閉じこもり傾向なし」は「閉じこもり傾向あり」に比べ、「仕事をしているから」が高くなっています。

図 3.97 取り組んでいない主な理由（いくつでも可）/リスク判定別

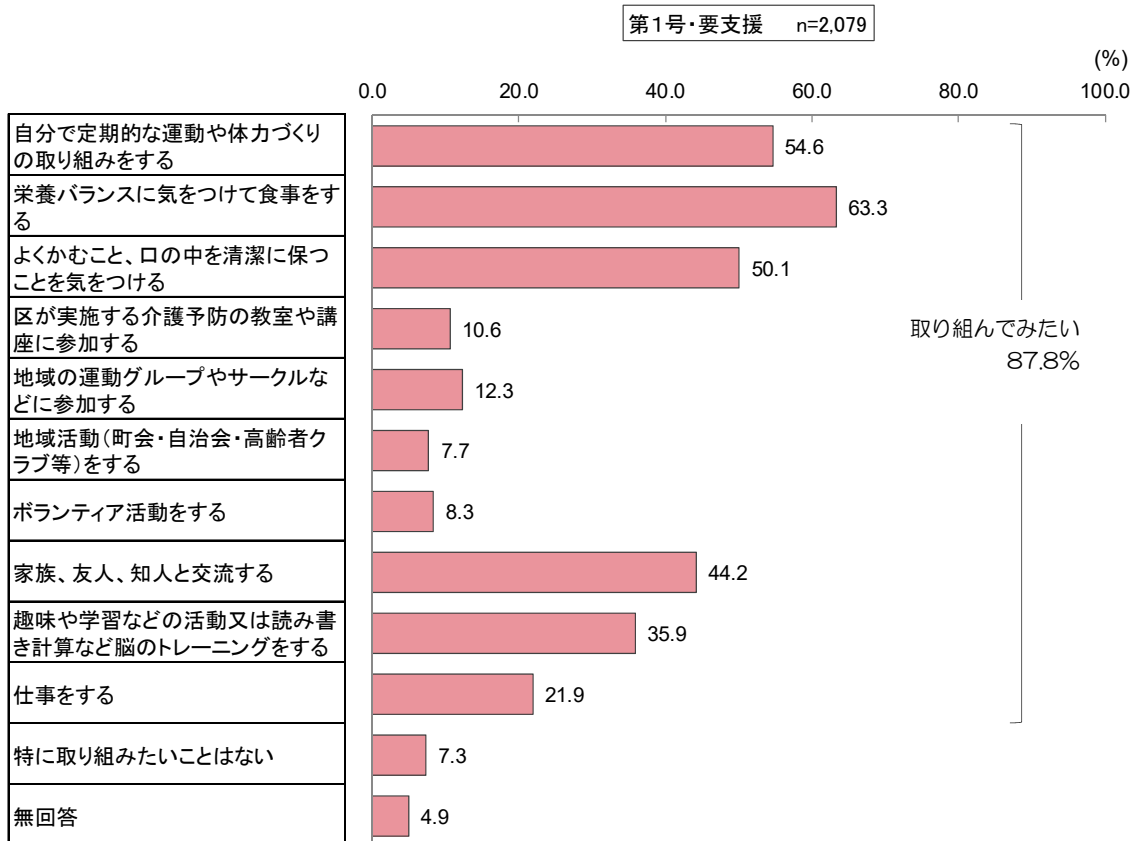
単位：%

項目	回答者数（人）	要 自分 が ない 健康 な ので 必 ず	自 分 も う 少 し 体 の 状 態 に も な ら な い か ら	い ほ か に 自 分 の や り た い こ と が あ る か ら	仕 事 を し て い る か ら	興 味 は あ る が 取 り か 組 み 方 が わ か ら な い か ら	面 倒 で 気 が 進 ま な い か ら	興 味 を も て な い か ら	知 ら な か つ た か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答	
全 体	734	11.3	22.2	10.6	22.9	9.8	17.4	9.8	2.6	7.8	18.1	4.9	
リスク判定別	運動器の機能低下あり	93	2.2	17.2	6.5	9.7	12.9	19.4	12.9	4.3	11.8	21.5	5.4
	運動器の機能低下なし	607	12.9	23.1	11.7	25.7	9.1	17.0	9.6	2.3	6.8	17.8	4.6
	転倒リスクあり	220	9.1	18.6	9.5	21.4	11.8	17.3	10.9	2.7	9.1	16.8	5.9
	転倒リスクなし	505	12.5	24.0	11.3	24.0	8.9	17.6	9.1	2.6	6.9	18.8	4.2
	閉じこもり傾向あり	97	6.2	12.4	6.2	9.3	11.3	23.7	13.4	2.1	8.2	23.7	6.2
	閉じこもり傾向なし	628	12.3	24.0	11.5	25.2	9.7	16.6	9.2	2.7	7.5	17.4	4.3
	低栄養状態	9	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	44.4	0.0	11.1
	低栄養状態ではない	694	11.5	22.8	10.5	23.5	10.1	17.4	9.7	2.3	7.3	18.3	4.6
	口腔機能の低下あり	85	4.7	21.2	8.2	22.4	16.5	22.4	14.1	8.2	11.8	18.8	5.9
	口腔機能の低下なし	638	12.2	22.6	11.0	23.4	9.1	16.9	9.2	1.9	7.1	18.0	4.4
	認知機能の低下あり	301	8.3	18.3	12.6	20.9	13.0	20.3	14.0	3.3	9.3	16.3	5.3
	認知機能の低下なし	397	13.6	26.2	9.8	24.2	7.6	16.4	6.5	2.0	6.8	18.9	4.3
	手段的 ADL 4 点以下（低下あり）	69	14.5	14.5	10.1	11.6	7.2	20.3	11.6	4.3	10.1	20.3	7.2
	手段的 ADL 5 点（低下なし）	643	10.9	23.6	10.9	24.1	9.8	17.3	9.8	2.5	7.8	17.6	4.5
	うつ傾向あり	278	8.3	17.6	8.3	21.2	12.6	24.8	15.8	3.2	11.5	16.5	4.0
うつ傾向なし	422	13.5	25.8	12.6	24.9	8.8	12.6	5.9	2.1	5.7	19.2	3.8	

問 47 健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいこと

健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいことをあげた割合は87.8%で、「栄養バランスに気をつけて食事をする」が63.3%と最も高く、次いで「自分で定期的な運動や体づくりの取り組みをする」が54.6%、「よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける」が50.1%となっています。

図 3.98 健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいこと（いくつでも可）



※ 「取り組んでみたい」=100%－「特に取り組みたいことはない」－「無回答」

健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいことについて、性別では、「仕事をする」を除いたすべての項目で男性より女性の割合が高くなっています。

健康感別にみると、健康感がよい方が、「栄養バランスに気を付けて食事をする」をあげた割合が高くなっています。

図 3.99 健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいこと（いくつでも可）
/性別/年齢別/健康感別

単位：%

項目		回答者数（人）	自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする	栄養バランスに気を付けて食事をする	よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける	区が実施する介護予防の教室や講座に参加する	地域の運動グループやサークルなどに参加する	地域活動（町会・自治会・高齢者クラブ等）をする	ボランティア活動をする	家族、友人、知人と交流する	趣味や学習などの活動又は読書計算など脳のトレーニングをする	仕事をする	特に取り組みたいことはない	無回答
全体		2079	54.6	63.3	50.1	10.6	12.3	7.7	8.3	44.2	35.9	21.9	7.3	4.9
性別	男性	905	53.5	57.1	42.2	7.2	8.4	7.1	6.6	35.7	31.3	26.0	10.2	5.1
	女性	1174	55.5	68.0	56.2	13.2	15.2	8.3	9.6	50.8	39.5	18.7	5.0	4.7
年齢別	65-69歳	585	62.6	65.3	47.7	10.6	13.8	7.0	12.3	44.3	38.8	32.6	6.0	3.6
	70-74歳	491	56.8	64.0	51.1	9.6	12.2	5.7	8.6	46.6	37.5	24.6	6.5	3.7
	75-79歳	365	49.9	62.5	52.3	10.4	12.6	8.5	8.8	46.0	34.5	20.0	7.4	4.9
	80-84歳	328	52.1	62.5	52.7	11.3	10.4	11.3	5.8	42.7	33.5	11.6	9.5	6.4
	85-89歳	193	45.6	61.1	47.7	13.0	13.5	8.3	2.1	40.9	31.6	7.8	8.3	6.2
	90歳以上	57	35.1	66.7	56.1	12.3	5.3	3.5	1.8	42.1	33.3	7.0	8.8	3.5
健康感別	とてもよい	261	61.7	67.8	52.5	8.4	14.9	7.3	13.4	48.7	37.2	34.1	6.9	3.8
	まあよい	1420	57.0	64.7	51.3	10.8	12.3	8.7	8.5	45.6	38.0	22.0	7.0	3.4
	あまりよくない	268	43.3	59.0	48.5	11.2	10.8	3.7	5.2	38.4	31.3	11.9	8.6	5.6
	よくない	34	41.2	52.9	38.2	17.6	17.6	2.9	2.9	35.3	35.3	8.8	8.8	11.8

健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいことについて、リスク判定別みると、「運動器の機能低下あり」、「閉じこもり傾向あり」では「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が約4割、「栄養バランスに気をつけて食事をする」が約5割と低くなっています。

図 3.100 健康の維持・増進や介護予防のため、今後取り組んでみたいこと（いくつでも可）/リスク判定別

単位：%

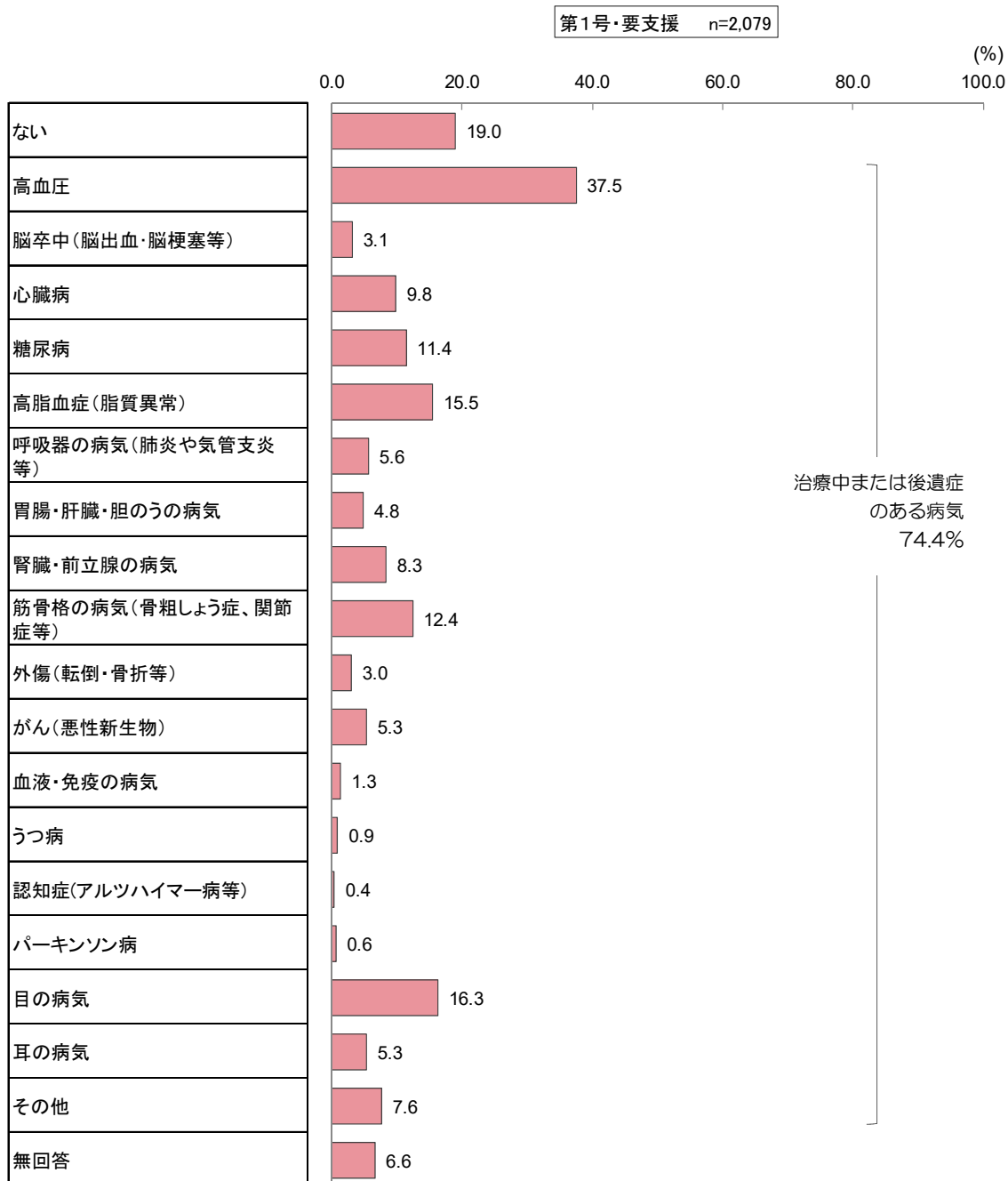
項目	回答者数（人）	自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする	栄養バランスに気をつけて食事をする	よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける	区が実施する介護予防の教室や講座に参加する	地域の運動グループやサークルなどに参加する	地域活動（町会・自治会・高齢者クラブ等）をする	ボランティア活動をする	家族、友人、知人と交流する	趣味や学習などの活動又は読み書き計算など脳のトレーニングをする	仕事をする	特に取り組みたいことはない	無回答	
全体	2,079	54.6	63.3	50.1	10.6	12.3	7.7	8.3	44.2	35.9	21.9	7.3	4.9	
リスク判定別	運動器の機能低下あり	198	41.4	52.0	44.4	13.1	10.1	4.5	4.5	38.9	29.8	8.1	10.1	6.1
	運動器の機能低下なし	1,803	57.1	65.2	51.0	10.1	12.3	7.9	9.0	45.3	37.4	23.8	6.7	4.3
	転倒リスクあり	577	52.0	61.4	47.3	12.1	13.5	6.9	7.8	42.5	32.4	19.8	6.2	6.1
	転倒リスクなし	1,480	56.0	64.3	51.6	9.9	11.7	8.0	8.6	45.2	37.6	22.9	7.4	4.3
	閉じこもり傾向あり	179	36.9	49.2	40.8	6.7	6.1	4.5	3.4	37.4	24.6	7.3	11.7	7.3
	閉じこもり傾向なし	1,878	56.7	65.0	51.2	11.0	12.8	8.0	8.9	45.1	37.4	23.3	6.7	4.4
	低栄養状態	26	57.7	80.8	50.0	23.1	11.5	3.8	7.7	57.7	46.2	30.8	3.8	0.0
	低栄養状態ではない	1,977	55.3	63.7	50.9	10.4	12.3	7.8	8.5	44.7	36.4	22.2	7.0	4.6
	口腔機能の低下あり	234	46.6	62.4	56.0	12.8	15.4	7.3	6.8	44.4	38.0	15.8	4.7	7.7
	口腔機能の低下なし	1,813	56.0	63.8	49.6	10.3	11.8	7.7	8.7	44.6	36.1	22.9	7.5	4.3
	認知機能の低下あり	866	54.7	61.5	50.9	13.6	13.6	7.9	7.3	43.6	38.7	19.1	7.2	4.8
	認知機能の低下なし	1,123	55.7	65.1	50.3	8.5	11.3	7.9	9.1	45.4	35.0	24.5	6.9	4.3
	手段的ADL4点以下（低下あり）	159	43.4	50.3	38.4	8.2	8.8	6.3	3.1	35.2	30.2	14.5	12.6	6.3
	手段的ADL5点（低下なし）	1,862	55.8	64.6	51.5	10.8	12.4	7.8	8.8	45.4	36.7	22.7	6.7	4.6
うつ傾向あり	776	55.0	61.6	49.7	12.8	14.7	7.2	8.1	43.4	37.8	19.8	7.1	3.7	
うつ傾向なし	1,186	56.0	66.1	52.1	9.2	11.1	8.1	8.8	46.3	36.3	24.1	7.4	3.2	

8 医療について

問 48 現在治療中、または後遺症のある病気

治療中、または後遺症のある病気があるのは 74.4%で、「高血圧」が 37.5%と最も高く、次いで「目の病気」が 16.3%となっています。

図 3.101 現在治療中、または後遺症のある病気の有無（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 リウマチ、不眠症、橋本病、脊柱管狭窄症
 ※ 「治療中または後遺症のある病気」=100%－「ない」－「無回答」

治療中、または後遺症のある病気について、性別では、男性、女性ともに「高血圧」が最も高くなっています。年齢別にみると、どの年代でも「高血圧」が最も高くなっています。健康感別にみると、「とてもよい」では「(病気は)ない」が最も高くなっています。

図 3.102 現在治療中、または後遺症のある病気の有無(いくつでも可)/性別/年齢別/健康感別
単位:%

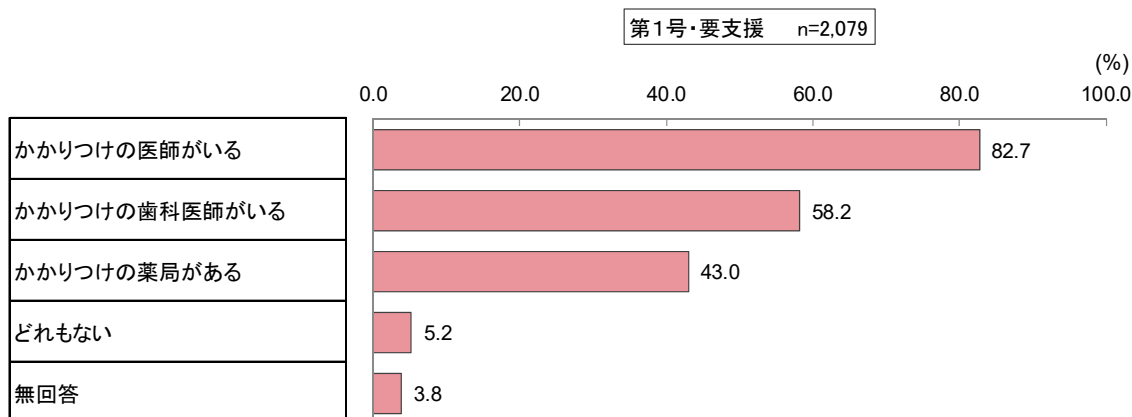
項目		回答者数(人)	ない	高血圧	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症(脂質異常)	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)
全体		2,079	19.0	37.5	3.1	9.8	11.4	15.5	5.6	4.8	8.3	12.4
性別	男性	905	17.1	42.5	4.6	14.5	15.0	11.7	6.6	5.5	16.2	4.9
	女性	1,174	20.4	33.6	2.0	6.2	8.5	18.5	4.8	4.2	2.1	18.2
年齢別	65-69歳	585	25.8	27.5	2.7	5.3	9.6	19.8	6.2	3.6	3.8	8.5
	70-74歳	491	22.6	35.0	3.9	6.9	11.6	17.3	4.7	3.7	5.7	11.2
	75-79歳	365	16.4	43.6	2.2	12.9	11.5	14.0	5.2	6.0	7.7	15.1
	80-84歳	328	13.1	46.6	3.0	13.4	13.7	9.8	6.7	6.1	14.0	15.2
	85-89歳	193	7.8	44.6	4.1	15.5	11.4	13.0	3.6	5.2	18.1	18.1
	90歳以上	57	7.0	54.4	3.5	28.1	3.5	8.8	7.0	12.3	14.0	12.3
健康感別	とてもよい	261	43.3	28.4	0.8	4.6	5.7	10.7	3.1	1.5	3.4	3.1
	まあよい	1,420	18.3	37.8	3.0	9.2	10.8	16.8	4.1	3.7	7.3	11.4
	あまりよくない	268	2.2	46.6	5.6	16.8	19.4	16.4	16.4	13.1	16.0	25.7
	よくない	34	0.0	35.3	14.7	35.3	17.6	11.8	5.9	11.8	29.4	29.4

項目		回答者数(人)	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		2,079	3.0	5.3	1.3	0.9	0.4	0.6	16.3	5.3	7.6	6.6
性別	男性	905	2.0	6.9	0.7	1.0	0.3	0.7	15.9	6.2	7.8	6.6
	女性	1,174	3.7	4.1	1.7	0.9	0.4	0.5	16.6	4.6	7.3	6.6
年齢別	65-69歳	585	2.2	3.6	1.7	0.9	0.2	0.5	14.9	2.7	8.2	5.6
	70-74歳	491	1.8	5.9	1.2	1.2	0.2	0.4	13.2	5.3	6.9	5.9
	75-79歳	365	4.9	7.7	1.1	0.3	0.5	0.3	18.1	5.5	6.3	5.5
	80-84歳	328	4.0	6.1	0.9	1.2	0.9	0.9	19.2	6.4	6.4	9.1
	85-89歳	193	3.6	4.7	0.5	0.5	0.5	1.6	21.2	11.4	9.3	7.3
	90歳以上	57	3.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	19.3	3.5	15.8	5.3
健康感別	とてもよい	261	1.5	2.7	0.4	0.0	0.0	0.8	5.4	3.4	2.3	4.6
	まあよい	1,420	2.4	4.2	0.9	0.8	0.4	0.4	16.2	4.5	7.1	6.1
	あまりよくない	268	7.8	12.7	2.2	1.9	0.7	1.5	27.6	10.1	14.2	3.7
	よくない	34	5.9	14.7	8.8	2.9	0.0	0.0	32.4	11.8	23.5	2.9

問 49 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無

かかりつけ医・歯科医・薬局の有無は、「かかりつけの医師がいる」が82.7%、「かかりつけの歯科医師がいる」が58.2%、「かかりつけの薬局がある」が43.0%となっています。

図 3.103 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無（いくつでも可）



(注) かかりつけ医・歯科医・薬局…普段からかかりつけている患者の健康状態や病歴のことなどを把握しており、医療や健康に関することを気軽に相談できる医師、歯科医師や薬局のこと。医師などが特定されなくても、かかりつけの病院などがあればそれも含みます。

かかりつけ医・歯科医・薬局の有無について、性別では、男性、女性ともに「かかりつけの医師がいる」割合は8割を超えています。

図 3.104 かかりつけ医・歯科医・薬局の有無（いくつでも可）/性別/年齢別/健康感別

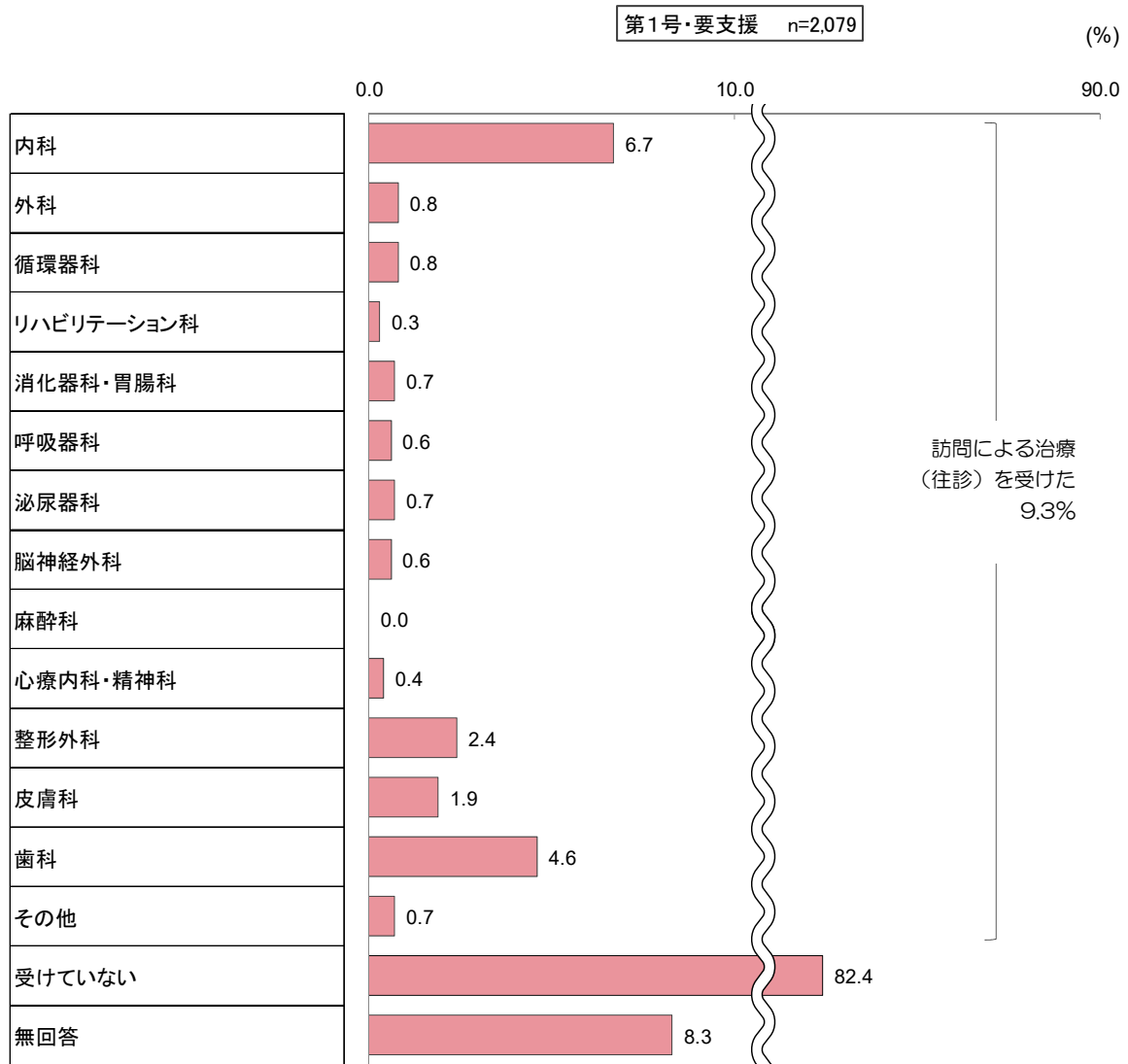
単位: %

項目	回答者数(人)	かかりつけの医師がいる	かかりつけの歯科医師がいる	かかりつけの薬局がある	どれも無い	無回答	
全体	2,079	82.7	58.2	43.0	5.2	3.8	
性別	男性	905	82.7	50.1	38.8	6.9	4.1
	女性	1,174	82.8	64.4	46.3	4.0	3.7
年齢別	65-69歳	585	74.9	52.8	30.9	8.9	2.6
	70-74歳	491	82.9	56.0	37.3	4.5	3.1
	75-79歳	365	86.6	64.4	52.3	4.4	3.6
	80-84歳	328	89.9	65.9	52.4	1.8	4.3
	85-89歳	193	86.5	60.1	59.1	4.1	6.7
	90歳以上	57	91.2	47.4	56.1	0.0	8.8
健康感別	とてもよい	261	77.8	62.8	37.5	4.6	1.5
	まあよい	1,420	83.7	59.9	43.2	5.8	2.5
	あまりよくない	268	88.8	52.2	48.9	3.7	3.7
	よくない	34	88.2	58.8	58.8	0.0	11.8

問 50 病気やけが等で医師や歯科医師に自宅で受けた訪問診療（往診）科目（過去1年間）

訪問による治療（往診）を受けたのは9.3%で、科目は「内科」が6.7%と最も高く、次いで「歯科」が4.6%、「整形外科」が2.4%となっています。

図 3.105 自宅で受けた訪問診療（往診）科目（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 眼科（7件）、耳鼻科（3件）
 ※ 「訪問による治療（往診）を受けた」=100%－「受けていない」－「無回答」

往診を受けた科目について、年齢別にみると、年代が上がるにつれて「受けていない」の割合が低くなる傾向があります。

図 3.106 自宅で受けた訪問診療（往診）科目（いくつでも可）/性別/年齢別/健康感別
単位：%

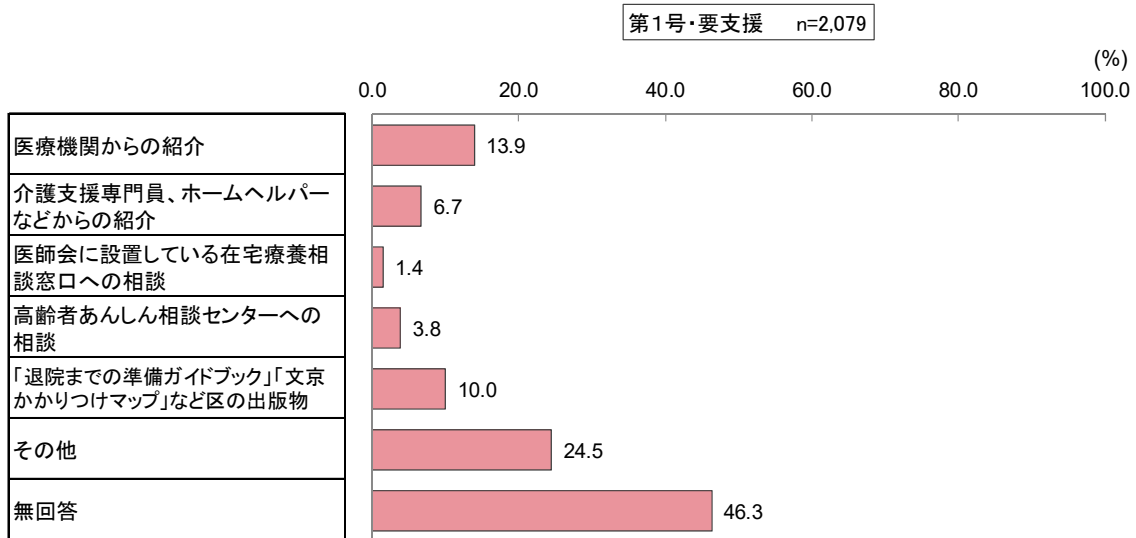
項目		回答者数 (人)	内科	外科	循環器科	リハビリテーション科	消化器科・胃腸科	呼吸器科	泌尿器科	脳神経外科
全体		2,079	6.7	0.8	0.8	0.3	0.7	0.6	0.7	0.6
性別	男性	905	7.7	1.2	1.5	0.1	1.0	0.6	1.4	0.6
	女性	1,174	6.0	0.4	0.3	0.4	0.4	0.6	0.2	0.6
年齢別	65-69歳	585	5.3	0.7	0.5	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2
	70-74歳	491	6.9	1.4	0.2	0.2	1.0	1.2	0.4	1.0
	75-79歳	365	5.5	0.0	0.8	0.3	0.5	0.8	0.8	0.5
	80-84歳	328	7.3	0.6	1.5	0.3	0.6	0.3	1.5	1.2
	85-89歳	193	8.8	1.6	2.1	1.0	1.6	0.0	0.0	0.0
	90歳以上	57	15.8	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0
健康感別	とてもよい	261	5.4	0.4	0.8	0.0	0.0	0.4	0.8	0.0
	まあよい	1,420	6.4	0.8	0.6	0.3	0.6	0.5	0.6	0.6
	あまりよくない	268	6.3	0.0	1.1	0.7	0.7	0.4	0.4	0.7
	よくない	34	17.6	2.9	5.9	0.0	8.8	5.9	5.9	5.9

項目		回答者数 (人)	麻酔科	心療内科・精神科	整形外科	皮膚科	歯科	その他	受けていない	無回答
全体		2,079	0.0	0.4	2.4	1.9	4.6	0.7	82.4	8.3
性別	男性	905	0.0	0.6	3.0	2.0	4.3	1.3	81.5	8.0
	女性	1,174	0.0	0.3	2.0	1.8	4.9	0.3	83.0	8.6
年齢別	65-69歳	585	0.0	0.2	2.4	1.9	3.6	0.9	88.2	4.3
	70-74歳	491	0.0	0.4	1.6	2.0	4.9	0.4	83.7	7.7
	75-79歳	365	0.0	0.0	1.6	1.6	4.1	0.0	80.8	10.4
	80-84歳	328	0.0	0.6	1.8	1.2	6.1	0.9	79.9	9.8
	85-89歳	193	0.0	1.6	5.2	2.6	4.7	1.0	73.1	14.0
	90歳以上	57	0.0	0.0	5.3	3.5	3.5	3.5	75.4	7.0
健康感別	とてもよい	261	0.0	0.4	1.5	3.8	5.4	0.4	87.4	5.0
	まあよい	1,420	0.0	0.2	2.3	1.3	4.4	0.6	84.4	7.0
	あまりよくない	268	0.0	0.7	3.0	3.0	4.1	1.1	80.6	9.7
	よくない	34	0.0	5.9	2.9	2.9	11.8	0.0	61.8	17.6

問 51 在宅医療を認知した経緯

在宅医療を知ったきっかけは、「医療機関からの紹介」が13.9%と最も高く、次いで『「退院までの準備ガイドブック」「文京かかりつけマップ」など区の出版物』が10.0%、「介護支援専門員、ホームヘルパーなどからの紹介」が6.7%となっています。

図 3.107 在宅医療認知の経緯（いくつでも可）



在宅医療を知ったきっかけは、性別にみると「医療機関からの紹介」が男性、女性ともに13.9%となっています。

図 3.108 在宅医療を認知した経緯（いくつでも可）/性別/年齢別/健康感別

単位: %

項目		回答者数 (人)	医療機関からの紹介	介護支援専門員、ホームヘルパーなどからの紹介	医師会に設置している在宅療養相談窓口への相談	高齢者あんしん相談センターへの相談	「退院までの準備ガイドブック」「文京かかりつけマップ」など区の出版物	その他	無回答
全体		2,079	13.9	6.7	1.4	3.8	10.0	24.5	46.3
性別	男性	905	13.9	5.6	1.1	3.9	10.6	25.5	45.9
	女性	1,174	13.9	7.5	1.6	3.7	9.5	23.7	46.6
年齢別	65-69歳	585	14.2	7.9	0.9	3.1	8.2	32.8	39.1
	70-74歳	491	12.2	6.7	1.6	3.5	11.2	25.7	45.8
	75-79歳	365	12.9	6.6	1.6	3.0	9.9	21.9	50.1
	80-84歳	328	16.5	5.8	2.4	4.9	11.6	16.5	49.4
	85-89歳	193	13.5	4.7	1.0	6.7	11.9	18.7	52.3
	90歳以上	57	24.6	8.8	0.0	5.3	7.0	8.8	52.6
健康感別	とてもよい	261	12.6	4.6	0.4	1.9	8.4	31.0	44.1
	まあよい	1,420	13.4	7.4	1.3	3.5	11.1	25.1	45.4
	あまりよくない	268	15.3	5.6	2.2	8.2	8.6	19.0	46.6
	よくない	34	35.3	8.8	2.9	5.9	5.9	29.4	35.3

9 地域活動について

問 52 会・グループ等への参加

参加している活動は「ボランティアのグループ」が8.0%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が26.0%、「趣味関係のグループ」が25.7%、「学習・教養サークル」が11.0%、「老人クラブ」が3.5%、「町内会・自治会」が12.4%、「収入のある仕事」が24.6%となっています。

3.109 会・グループ等への参加

(%)

	参加している	参加していない	無回答
① ボランティアのグループ (n=2,079)	8.0	51.2	40.8
② スポーツ関係のグループやクラブ (n=2,079)	26.0	41.8	32.2
③ 趣味関係のグループ (n=2,079)	25.7	41.4	32.9
④ 学習・教養サークル (n=2,079)	11.0	46.3	42.7
⑤ 老人クラブ(n=2,079)	3.5	51.5	45.0
⑥ 町内会・自治会 (n=2,079)	12.4	45.9	41.7
⑦ 収入のある仕事 (n=2,079)	24.6	37.6	37.8

それぞれの会・グループ等への参加状況の詳細は次のとおりです。

① ボランティアのグループ

図 3.110 ① ボランティアのグループ/性別/年齢別

単位:%

項目	(人) 回答者数	参加している						無回答	
		週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	ない		
全体	2,079	13.6	5.6	1.9	1.7	1.8	37.6	37.8	
性別	男性	905	16.5	5.7	1.3	1.9	1.4	38.1	35.0
	女性	1,174	11.3	5.5	2.4	1.6	2.0	37.2	39.9
年齢別	65-69歳	585	25.1	9.1	2.2	2.9	1.9	38.1	20.7
	70-74歳	491	15.5	6.7	2.4	1.8	2.2	40.1	31.2
	75-79歳	365	7.7	5.5	2.5	1.1	2.5	36.7	44.1
	80-84歳	328	4.6	1.8	1.8	0.9	0.6	34.5	55.8
	85-89歳	193	1.0	1.0	0.0	1.0	1.6	37.8	57.5
	90歳以上	57	1.8	1.8	0.0	1.8	0.0	38.6	56.1

② スポーツ関係のグループやクラブ

図 3.111 ② スポーツ関係のグループやクラブ/性別/年齢別

単位:%

項目		(人) 回答者数	上週 4回 以上	回週 2 ~ 3	週 1 回	回月 1 ~ 3	年に 数回	参加して いない	無回答
全体		2,079	3.4	9.6	7.5	4.4	1.1	41.8	32.2
性別	男性	905	2.7	5.5	5.3	4.0	1.3	48.8	32.4
	女性	1,174	4.0	12.8	9.1	4.8	0.9	36.5	32.0
年齢別	65-69歳	585	4.4	9.9	8.4	5.5	1.4	49.6	20.9
	70-74歳	491	3.9	12.2	7.3	5.1	1.0	45.0	25.5
	75-79歳	365	1.9	11.8	8.5	3.3	0.8	37.3	36.4
	80-84歳	328	3.7	8.2	7.3	3.4	0.9	33.2	43.3
	85-89歳	193	2.6	3.6	5.2	3.6	0.5	36.8	47.7
	90歳以上	57	0.0	0.0	7.0	3.5	1.8	40.4	47.4

③ 趣味関係のグループ

図 3.112 ③ 趣味関係のグループ/性別/年齢別

単位:%

項目		(人) 回答者数	上週 4回 以上	回週 2 ~ 3	週 1 回	回月 1 ~ 3	年に 数回	参加して いない	無回答
全体		2,079	0.9	3.8	6.2	11.5	3.3	41.4	32.9
性別	男性	905	0.9	2.8	3.2	8.6	3.8	49.2	31.6
	女性	1,174	0.9	4.7	8.4	13.8	2.9	35.3	33.9
年齢別	65-69歳	585	0.7	3.2	6.0	10.4	4.1	52.6	22.9
	70-74歳	491	1.2	4.3	8.6	13.2	3.1	43.2	26.5
	75-79歳	365	1.1	3.8	4.9	14.5	3.0	34.5	38.1
	80-84歳	328	1.5	4.9	5.2	8.8	3.4	33.2	43.0
	85-89歳	193	0.0	3.6	4.7	8.8	2.6	34.7	45.6
	90歳以上	57	0.0	0.0	7.0	10.5	0.0	36.8	45.6

④ 学習・教養サークル

図 3.113 ④ 学習・教養サークル/性別/年齢別

単位:%

項目		(人) 回答者数	上週 4回 以上	回週 2 ~ 3	週 1 回	回月 1 ~ 3	年に 数回	参加して いない	無回答
全体		2,079	0.3	0.8	2.4	4.5	2.9	46.3	42.7
性別	男性	905	0.2	0.4	1.3	3.0	2.5	52.4	40.1
	女性	1,174	0.4	1.0	3.2	5.7	3.2	41.7	44.7
年齢別	65-69歳	585	0.2	0.7	2.6	6.0	3.1	58.1	29.4
	70-74歳	491	0.6	0.8	3.5	5.1	2.6	50.7	36.7
	75-79歳	365	0.5	1.1	1.9	4.4	3.8	40.8	47.4
	80-84歳	328	0.3	0.6	1.8	3.7	2.1	34.8	56.7
	85-89歳	193	0.0	0.5	1.6	2.6	4.1	35.8	55.4
	90歳以上	57	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	38.6	59.6

⑤ 老人クラブ

図 3.114 ⑤ 老人クラブ/性別/年齢別

単位：%

項目		回答者数(人)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,079	0.1	0.3	0.3	1.9	0.9	51.5	45.0
性別	男性	905	0.0	0.2	0.1	1.5	0.7	55.0	42.4
	女性	1,174	0.2	0.3	0.5	2.2	1.0	48.8	46.9
年齢別	65-69歳	585	0.0	0.0	0.0	0.7	0.2	65.3	33.8
	70-74歳	491	0.0	0.2	0.0	1.8	0.4	57.6	39.9
	75-79歳	365	0.0	0.3	0.3	1.9	1.9	45.2	50.4
	80-84歳	328	0.6	0.9	0.9	3.4	0.9	38.1	55.2
	85-89歳	193	0.0	0.5	1.6	3.1	1.0	37.8	56.0
	90歳以上	57	0.0	0.0	0.0	3.5	3.5	35.1	57.9

⑥ 町内会・自治会

図 3.115 ⑥ 町内会・自治会/性別/年齢別

単位：%

項目		回答者数(人)	上週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,079	0.3	0.6	0.7	3.8	7.1	45.9	41.7
性別	男性	905	0.3	0.8	0.8	4.2	6.3	49.6	38.0
	女性	1,174	0.3	0.5	0.6	3.4	7.7	43.0	44.5
年齢別	65-69歳	585	0.2	0.9	0.5	3.1	7.4	58.3	29.7
	70-74歳	491	0.2	0.0	0.4	4.1	7.5	49.9	37.9
	75-79歳	365	0.0	0.8	0.5	4.9	9.0	39.7	44.9
	80-84歳	328	0.9	0.6	1.5	4.0	5.5	33.8	53.7
	85-89歳	193	0.0	1.0	0.5	2.6	6.2	36.8	52.8
	90歳以上	57	1.8	0.0	1.8	3.5	3.5	35.1	54.4

⑦ 収入のある仕事

図 3.116 ⑦ 収入のある仕事/性別/年齢別

単位：%

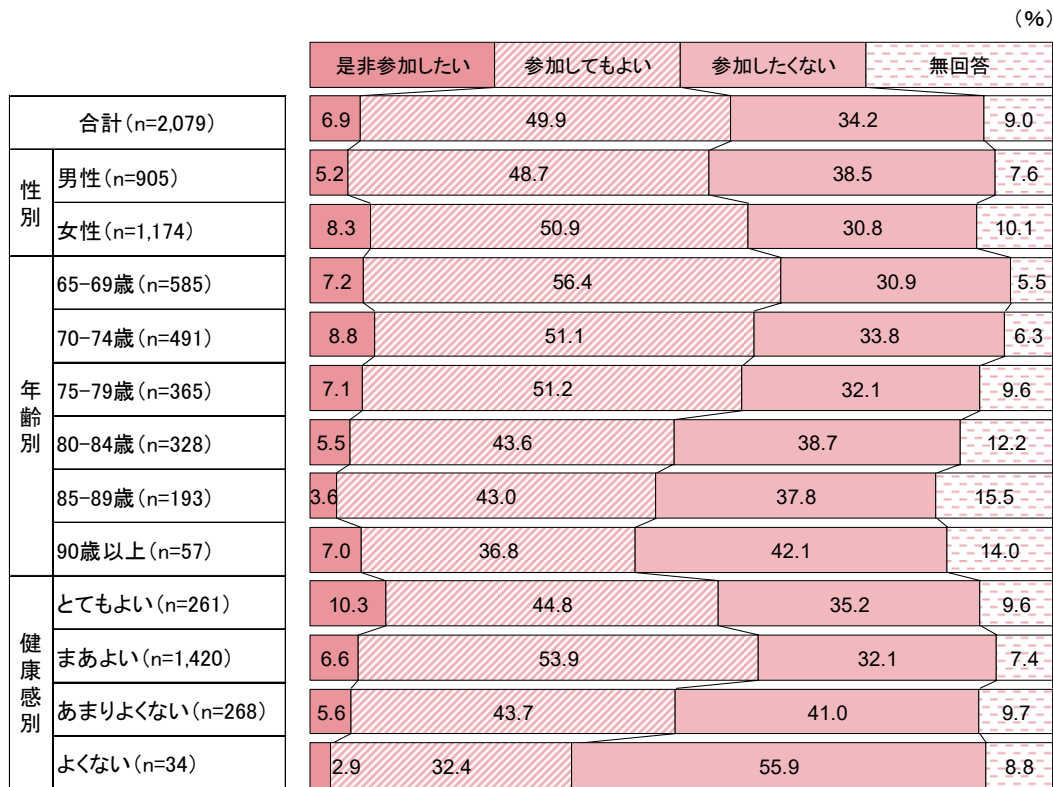
項目		回答者数(人)	上週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,079	13.6	5.6	1.9	1.7	1.8	37.6	37.8
性別	男性	905	16.5	5.7	1.3	1.9	1.4	38.1	35.0
	女性	1,174	11.3	5.5	2.4	1.6	2.0	37.2	39.9
年齢別	65-69歳	585	25.1	9.1	2.2	2.9	1.9	38.1	20.7
	70-74歳	491	15.5	6.7	2.4	1.8	2.2	40.1	31.2
	75-79歳	365	7.7	5.5	2.5	1.1	2.5	36.7	44.1
	80-84歳	328	4.6	1.8	1.8	0.9	0.6	34.5	55.8
	85-89歳	193	1.0	1.0	0.0	1.0	1.6	37.8	57.5
	90歳以上	57	1.8	1.8	0.0	1.8	0.0	38.6	56.1

問 53 地域づくりを進める活動に参加者として参加したいか

地域住民の有志により、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っていきいきとした地域づくりを進めるとした場合に、活動の“参加者”としての参加意向は、「ぜひ参加したい」が6.9%、「参加してもよい」が49.9%、「参加したくない」が34.2%となっています。

年齢別にみると、年代が上がるにつれ「参加してもよい」の割合が低下する傾向があります。健康感別にみると、健康状態がよい人の方が、「是非参加したい」の割合が高くなっています。

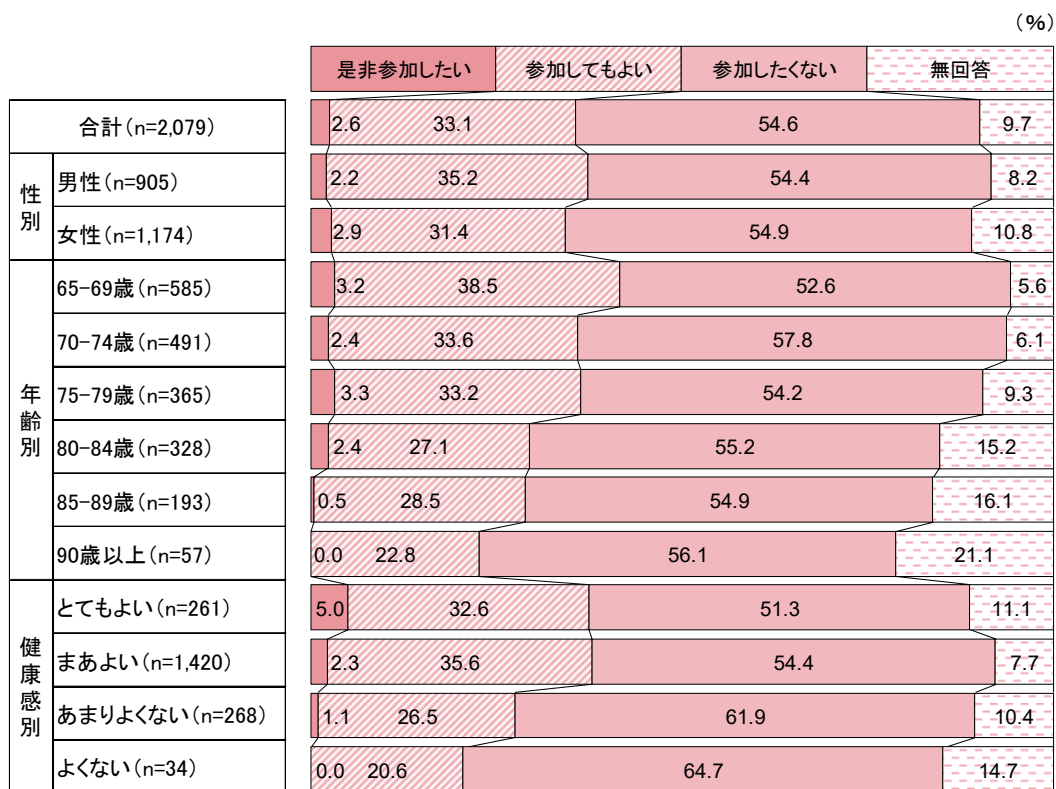
図 3.117 地域づくりを進める活動に参加者として参加したいか/性別/年齢別/健康感別



問 54 地域づくりを進める活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか

地域住民の有志により、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っていきいきとした地域づくりを進めるとした場合に、活動の“企画・運営（お世話役）”としての参加意向は、前問よりやや低く、「是非参加したい」が2.6%、「参加してもよい」が33.1%、「参加したくない」が54.6%となっています。

図 3.118 地域づくりを進める活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか /性別/年齢別/健康感別

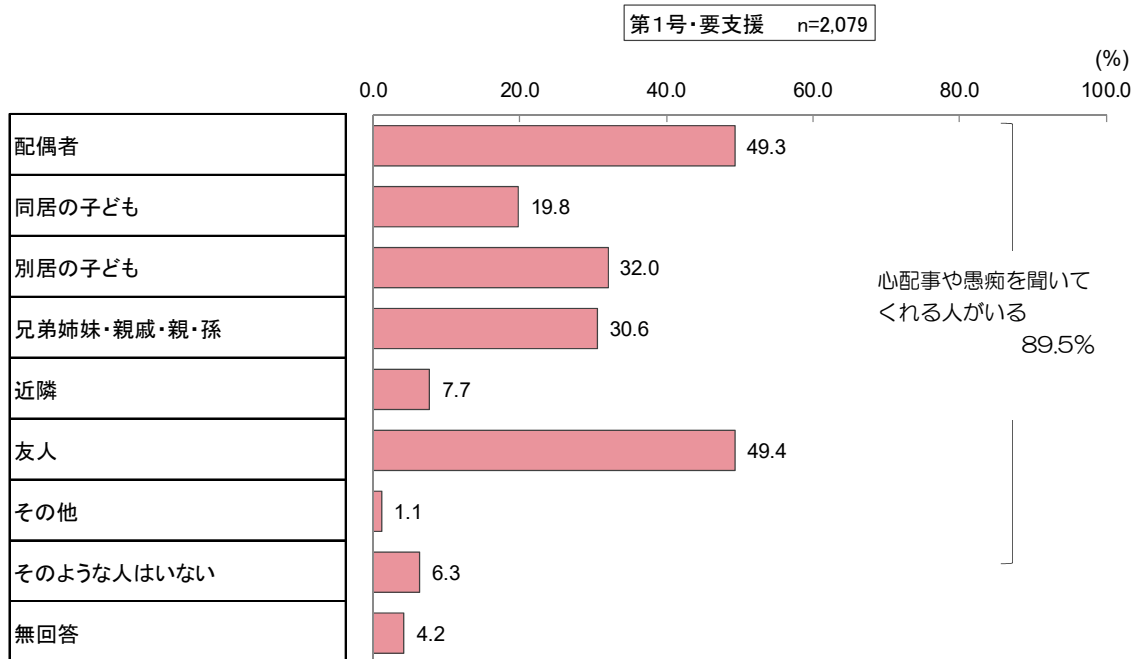


10 たすけあいについて

問 55 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」が 49.4%、「配偶者」が 49.3%、「別居の子ども」が 32.0%となっています。

図 3.119 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 医師、行政機関、仕事仲間

※ 「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいる」=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

心配事や愚痴を聞いてくれる人について、性別では、男性は「配偶者」が64.4%で最も高く、女性は「友人」が61.3%で最も高くなっています。

家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし」では「配偶者」が最も高く、「息子・娘との2世帯」では「同居の子ども」が最も高くなっています。

図 3.120 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

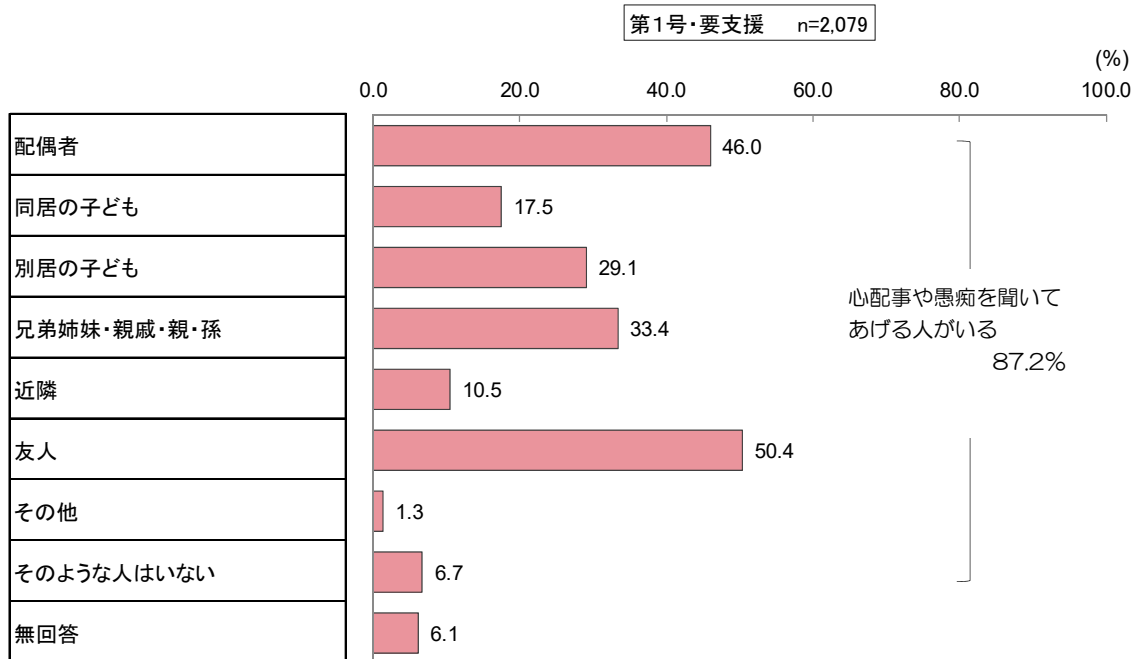
単位：%

項目		回答者数 (人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,079	49.3	19.8	32.0	30.6	7.7	49.4	1.1	6.3	4.2
性別	男性	905	64.4	14.0	25.7	19.1	3.6	33.9	1.3	9.4	4.5
	女性	1,174	37.6	24.2	36.9	39.5	10.8	61.3	0.9	3.9	3.9
年齢別	65-69歳	585	56.4	19.1	30.6	36.2	8.5	58.6	1.5	5.6	2.1
	70-74歳	491	48.9	19.8	31.8	30.8	7.3	56.0	1.2	6.1	2.9
	75-79歳	365	48.2	19.2	30.7	31.2	7.9	49.6	0.8	7.1	3.8
	80-84歳	328	46.3	21.0	31.7	25.9	5.2	38.4	0.9	7.0	7.0
	85-89歳	193	42.0	20.2	39.9	26.4	10.4	32.1	1.0	6.7	4.7
	90歳以上	57	28.1	26.3	42.1	19.3	3.5	29.8	0.0	3.5	8.8
圏域別	富坂地区	670	45.7	21.9	33.4	29.6	7.8	44.6	1.3	5.4	5.2
	大塚地区	454	50.9	16.1	31.1	31.7	5.5	52.0	1.1	7.5	3.1
	本富士地区	457	55.1	19.3	28.9	30.6	9.2	50.3	0.4	4.6	4.2
	駒込地区	498	47.2	20.7	33.9	31.1	8.2	52.6	1.4	8.0	3.8
家族構成別	1人暮らし	498	3.2	0.4	26.5	37.1	10.2	56.8	2.4	13.9	5.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	783	79.4	2.6	42.8	25.2	5.6	46.0	0.4	3.4	3.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	89	87.6	3.4	25.8	19.1	0.0	36.0	1.1	5.6	3.4
	息子・娘との2世帯	320	35.0	67.8	27.5	37.2	9.4	49.4	0.3	2.2	3.1
	その他	348	50.9	47.4	22.1	33.0	9.2	50.3	1.7	6.0	2.9

問 56 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が50.4%と最も高く、次いで「配偶者」が46.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.4%となっています。

図 3.121 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 会社の同僚

※ 「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいる」=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

心配事や愚痴を聞いてあげる人について、性別では、男性は「配偶者」が61.4%で最も高く、女性は「友人」が63.1%で最も高くなっています。

家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし」では「配偶者」が最も高く、「息子・娘との2世帯」では「同居の子ども」が最も高くなっています。

図 3.122 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

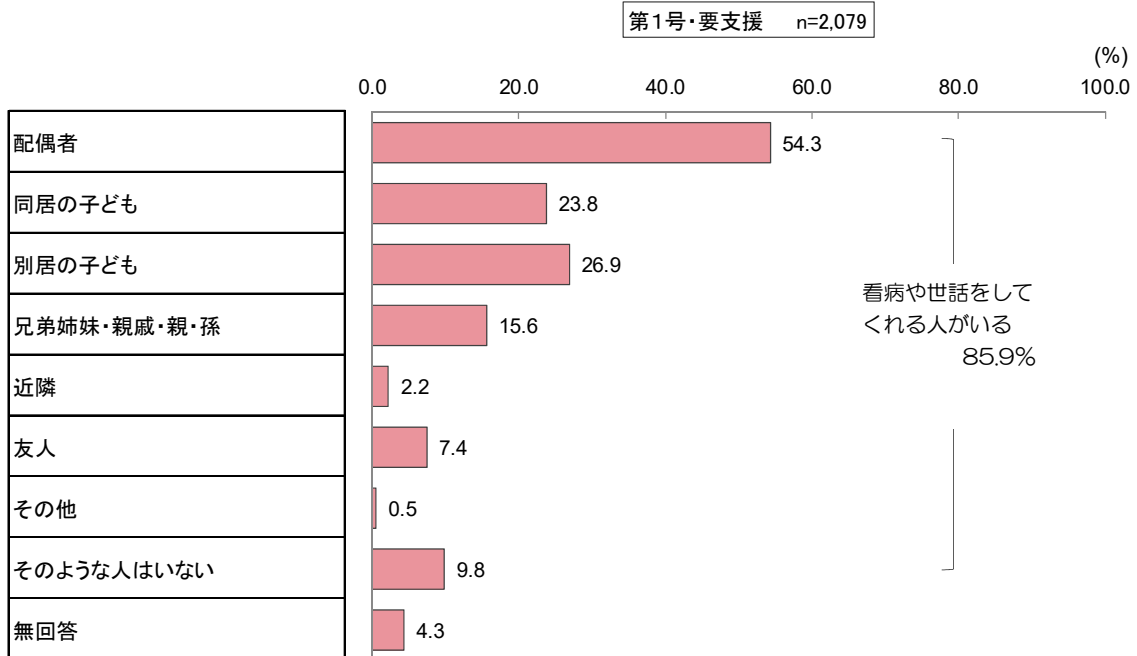
単位：%

項目		回答者数（人）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,079	46.0	17.5	29.1	33.4	10.5	50.4	1.3	6.7	6.1
性別	男性	905	61.4	13.4	23.5	22.9	5.5	33.9	1.5	10.9	6.7
	女性	1,174	34.2	20.6	33.5	41.6	14.3	63.1	1.2	3.5	5.5
年齢別	65-69歳	585	56.1	19.3	34.0	39.3	10.3	59.3	1.5	4.8	2.6
	70-74歳	491	45.4	18.1	31.2	34.8	9.8	56.6	2.4	5.5	3.5
	75-79歳	365	41.9	14.5	25.2	33.2	14.0	51.8	0.5	7.1	5.5
	80-84歳	328	43.6	18.3	26.2	30.2	9.1	37.8	1.2	7.9	11.0
	85-89歳	193	35.2	12.4	22.8	22.3	9.8	33.2	0.0	13.0	11.9
	90歳以上	57	26.3	26.3	31.6	31.6	7.0	36.8	1.8	5.3	8.8
圏域別	富坂地区	670	42.8	17.9	29.1	31.9	10.0	45.7	1.3	6.6	7.9
	大塚地区	454	49.3	16.3	28.4	35.9	9.3	53.3	2.0	6.2	3.5
	本富士地区	457	50.3	17.3	28.9	31.1	11.8	51.6	1.1	6.6	6.1
	駒込地区	498	43.4	18.1	30.1	35.3	11.0	53.0	1.0	7.6	5.8
家族構成別	1人暮らし	498	3.6	0.2	20.5	38.0	11.4	56.8	2.8	14.3	7.4
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	783	72.5	2.6	39.1	27.5	9.3	46.0	0.6	4.6	5.5
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	89	88.8	3.4	37.1	30.3	1.1	40.4	1.1	1.1	4.5
	息子・娘との2世帯	320	33.4	56.3	23.4	39.1	13.1	50.6	0.6	3.1	4.7
	その他	348	47.1	43.7	23.3	37.9	12.6	54.6	1.7	5.7	5.2

問 57 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

病気のときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が54.3%と最も高く、次いで「別居の子ども」が26.9%、「同居の子ども」が23.8%となっています。

図 3.123 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 知人、同居人

※ 「看病や世話をしてくれる人がいる」=100%－「そのような人はいない」－「無回答」

病気のときに看病や世話をしてくれる人について、家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし」では「配偶者」が最も高く、「息子・娘との2世帯」では「同居の子ども」が80.9%で最も高くなっています。「1人暮らし」では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が30.5%で最も高くなっています。

図 3.124 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも可）
/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

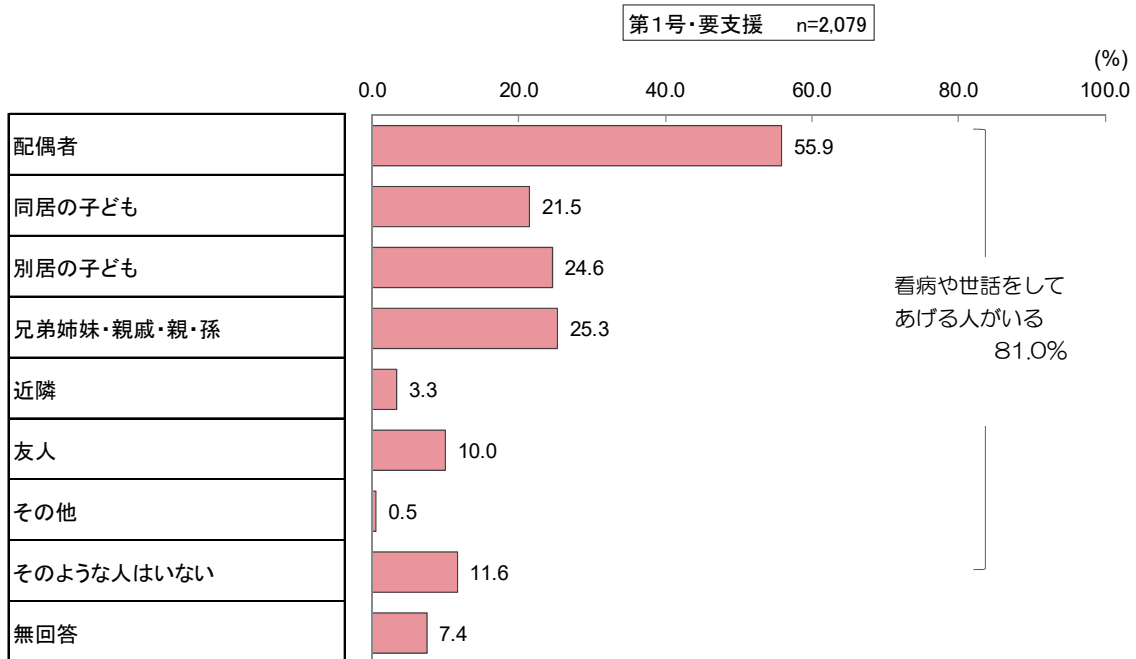
単位：%

項目		回答者数（人）	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,079	54.3	23.8	26.9	15.6	2.2	7.4	0.5	9.8	4.3
性別	男性	905	69.9	15.9	20.2	11.7	0.8	4.2	0.6	10.5	3.6
	女性	1,174	42.2	29.8	32.1	18.7	3.3	9.9	0.4	9.3	4.8
年齢別	65-69歳	585	62.4	21.9	21.9	14.7	1.9	8.0	0.0	12.5	2.6
	70-74歳	491	55.4	23.0	24.6	17.5	1.6	9.4	0.6	10.8	4.1
	75-79歳	365	52.1	23.6	28.8	14.5	3.3	7.1	0.8	9.9	4.9
	80-84歳	328	50.3	26.2	29.6	16.8	1.5	3.7	0.6	6.1	6.1
	85-89歳	193	47.2	25.4	38.9	15.5	3.6	7.3	0.5	6.7	2.1
	90歳以上	57	33.3	36.8	38.6	14.0	1.8	3.5	0.0	1.8	8.8
圏域別	富坂地区	670	50.4	26.4	31.5	15.1	2.5	5.5	0.4	7.2	4.3
	大塚地区	454	54.0	20.0	21.6	16.7	1.3	8.6	0.4	14.8	2.6
	本富士地区	457	58.0	22.5	23.2	15.8	2.6	7.7	0.7	9.2	5.7
	駒込地区	498	56.4	24.7	29.1	15.3	2.2	8.6	0.4	9.4	4.4
家族構成別	1人暮らし	498	3.2	1.2	27.1	30.5	3.4	16.5	0.8	30.7	5.4
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	783	87.9	2.6	36.1	7.2	1.5	3.1	0.3	3.3	3.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	89	93.3	2.2	9.0	6.7	0.0	1.1	0.0	1.1	3.4
	息子・娘との2世帯	320	36.6	80.9	16.9	15.0	2.8	5.6	0.3	1.9	2.5
	その他	348	58.0	57.2	21.0	17.0	2.0	6.9	0.6	4.3	5.2

問 58 看病や世話をしあける人

看病や世話をしあける人は、「配偶者」が55.9%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が25.3%、「別居の子ども」が24.6%となっています。

図 3.125 看病や世話をしあける人（いくつでも可）



※ その他【抜粋】 できない、同居人

※ 「看病や世話をしあける人がいる」=100%−「そのような人はいない」−「無回答」

看病や世話をしあける人について、性別では、男性は「配偶者」が高く、女性は「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「友人」が男性の2倍以上高くなっています。
 家族構成別にみると、「夫婦2人暮らし」では「配偶者」が最も高く、「1人暮らし」では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「息子・娘との2世帯」では「同居の子ども」が最も高くなっています。

図 3.126 看病や世話をしあける人（いくつでも可）/性別/年齢別/圏域別/家族構成別

単位：%

項目		回答者数(人)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,079	55.9	21.5	24.6	25.3	3.3	10.0	0.5	11.6	7.4
性別	男性	905	66.0	15.4	15.5	15.7	1.2	5.3	0.8	14.8	7.6
	女性	1,174	48.1	26.1	31.7	32.7	4.9	13.6	0.3	9.1	7.2
年齢別	65-69歳	585	64.4	23.4	29.6	33.5	3.1	13.2	0.2	8.9	3.2
	70-74歳	491	59.1	23.4	27.7	28.7	3.5	10.6	0.6	8.8	5.7
	75-79歳	365	53.7	21.4	23.3	22.5	4.4	8.8	0.3	12.9	7.1
	80-84歳	328	51.2	19.8	19.8	18.9	2.7	7.3	0.9	11.6	11.6
	85-89歳	193	44.0	14.0	17.1	13.0	3.6	7.8	1.0	19.2	11.9
	90歳以上	57	29.8	21.1	17.5	10.5	0.0	3.5	1.8	24.6	17.5
圏域別	富坂地区	670	51.5	21.0	23.6	22.1	2.8	8.2	0.7	12.7	8.4
	大塚地区	454	56.6	18.1	23.6	28.6	2.9	11.9	0.7	13.0	4.8
	本富士地区	457	59.5	22.3	26.5	25.6	4.2	9.6	0.2	8.3	8.8
	駒込地区	498	57.8	24.3	25.3	26.3	3.6	11.0	0.4	11.8	7.2
家族構成別	1人暮らし	498	4.6	0.6	16.7	32.5	5.0	17.3	1.2	32.7	11.4
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	783	87.7	2.8	34.0	19.5	3.1	6.4	0.1	3.1	5.6
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	89	89.9	4.5	15.7	12.4	0.0	1.1	1.1	1.1	5.6
	息子・娘との2世帯	320	41.9	65.9	20.3	25.3	2.5	7.8	0.0	9.4	5.3
	その他	348	62.1	57.2	22.7	31.3	3.4	11.8	0.9	5.7	6.6